

みやうにち【明日】あすのこと。
 みやうねん【明年】來年。
 みやうぼつ【冥罰】神佛の罰。
 みやうばん【明晩】あすのばん。
 みやうばん【明礬】アルミ及カリユムの硫酸鹽。
 みやうぶ【命婦】五位の女官。
 みやうもく【名目】となへる。
 みやうもん【名聞】ほまれ。
 みやうり【名利】名譽と利欲。
 みやうり【冥利】おこなひの應報。
 みやうわう【明王】神の名。
 みやく【脈】血管のこと。
 みやくはく【脈搏】心臓を出づるが血液波流をなす爲めに起るもの。
 みやくみやく【脈々】絶えずつゞけるさま。
 みやくらく【脈絡】つゞく。
 みやくしるゐ【脈翅類】昆蟲類の一種の名。
 みやけ【屯倉】御料地の收穫を收めし所。
 みやけ【宮家】王族家のこと。

みやび【土産】いへずと。
 みやこ【都】皇居ある土地。又人家多く數まり賑やかなるところ。
 みやこいり【都入】入京。
 みやこうつし【都移】遷都。
 みやこおち【都落】都よりにげおつること。
 みやこぢ【都路】都へのぼる路。
 みやこどり【都鳥】涉禽類の鳥。かものこと。
 みやこびと【都人】みやこの人。
 みやしげだいこん【宮重大根】尾州宮重村より産する大根。
 みやすどころ【御息所】天子の御休息所。
 みやつかさ【宮司】中宮職。
 みやつかへ【宮仕】宮中に仕へ奉ること。
 みやつかへびと【宮仕人】宮中に仕へる人。
 みやつと【御奴】官に仕ふる僕。
 みやどころ【宮所】みやる。
 みやぬし【宮主】神祇官の要職。
 みやばら【宮儼】宮方。

みやび【雅】風雅。
 みやびと【宮人】宮仕への官人。
 みやびを【雅男】みやびたる人。
 みやふる【看破】みぬく。
 みやま【深山】奥深き山。
 みやまがくれ【深山隠】奥山のひそまれる所。
 みやまぎ【深山木】深山に生ずる木。
 みやまだ【深山田】山間の田。
 みやまゐり【宮參】うぶすなまゐり。
 みやもり【宮の番人】。
 みやり【見遣】ながめ。
 みやる【見遣】遠方を見渡すこと。
 みやる【宮居】皇居。
 みゆ【御湯】温泉。
 みゆき【行幸】天皇陛下の御外出。
 みゆき【深雪】大雪。
 みよ【御代】御治世。
 みよ【霽】みわのこと。
 みよし【船首】船のさき。

みら【並】にらのこと。
 みらい【未來】將來のこと。
 みらいき【未來記】將來のことを豫言したるもの。
 ミリグラム【Milligramme】一瓦の千分の一。
 ミリメートル【Millimetre】一米の千分の一。
 みりん【味淋】みりん酒のこと。
 みる【試】ためす。
 みる【海松】綠色藻色の海草。
 ミルク【Milk】牛乳。
 ミルクホール【Milkhooll】牛乳を飲まする店。
 みれん【未練】未熟心残りすること。
 ミロク【勒彌】未來に現はるゝ佛の意。
 みわく【見分】見て區別すること。
 みわけ【見分】みわくること。
 みわたす【見渡】ながむること。展望。
 みわたすかぎり【見渡限】目のとゞくかぎり。
 みを【霽】水脈。
 みをき【霽木】みわの印として立つる木。
 みをぐひ【霽杣】前同。

みをさめ【見收】見ることの最終。
 みをじるし【襜褕】水脈をしるしたるもの。
 ミン【明】支那の古の名。
 みんい【民意】人民の意向。
 みんいう【民有】人民の所有。
 みんか【民家】百姓家。
 みんかん【民間】人民社會。
 みんけいきよく【民刑局】司法官の一局の名。
 みんげふ【民業】人民の事業。
 みんけん【民権】人民の權利。
 みんけんたう【民權黨】人民の權利を維持せんとする黨。
 みんじ【民事】私法上の裁判事件。
 みんじぐわいしや【民事會社】營業として商行為を目的とせざる社團。
 みんじさいばん【民事裁判】民事に屬する裁判。
 みんじそしょう【民事訴訟】民事に關する訴訟。
 みんじやう【民情】人民のありさま。
 みんしゆう【民衆】多くの人民。

みんしゆせいぞ【民主政治】民主制度に基く政治
 みんしゆせいど【民主制度】民權が人民にある制度。
 みんしよ【民庶】おほくの人民。
 みんせい【民政】人民の寧安幸福を目的とする政務。
 みんせれ【民籍】國籍。
 みんせん【民選】人民の選舉。
 みんせんぎるん【民選議員】代議士。
 みんぞく【民族】人民の種族。
 みんぞく【民俗】人民の習俗。
 みんだん【民團】外務大臣が必要と認めたる場合に一定の地域内に居住する帝國臣民を以てなる法人。
 みんてう【明朝】明時代に渡來したる書體。
 みんてき【明笛】笛の一種。
 みんど【明度】人民の貧富の度。
 みんぼう【民望】人望のこと。
 みんばふ【民】私權を規定したる法律。
 みんべい【民兵】義勇兵。

みんやくせつ【民約説】契約説のこと。
 みんりよく【民力】人民の財産の度合。
 みんりよくきうやう【民力休養】人民の財産をふやすこと。

む

む【六】むつつ。
 無【無】なきこと。
 無意【無意】意志なきこと。
 むいか【六日】日數六つ又は月の第六日。
 むいぎ【無意義】意味のなきこと。
 むいしき【無意識】我れといふ心の治らぬ状態。
 むいちぶつ【無一物】一物もなきこと。
 むいはん【無意犯】意志なき犯罪。
 むえき【無益】益なきこと。
 むえん【無縁】縁のなきこと。
 むえんくわやく【無煙火藥】煙を出さざる火藥。

むえんたん【無煙炭】燃やして煙なき石炭。
 むえんづか【無縁塚】無縁の墓。
 むえんぼとけ【無縁佛】無縁の佛。
 むか【無瑕】むぎずのこと。
 むが【無我】我を忘れてなすこと。
 むがい【無害】害のなきこと。
 むがい【無涯】はてしなきこと。
 むかいう【無何有】何等の物事もなきこと。
 むかう【無効】きよめなきこと。效力なきこと。
 むかうずね【向髓】むかはぎのこと。
 むかうみず【向不見】前後の思慮を用ひぬこと。
 むがく【無學】學問のなきこと。
 むかこ【零餘子】ぬかご。
 むかし【昔】いにしへ。
 むかしがたき【昔學氣】保守頑固なること。
 むかしがたり【昔語】むかしばなし。
 むかしなじみ【昔馴染】むかしの親友。
 むかしながら【昔隨】昔其まゝ。
 むかしふう【昔風】むかしの有様。

むかつく「逆」はきけ。
 むかて「百足」多足類。蜈蚣。
 むかはぎ「向脛」むかうづね。
 むかひ「迎」むかふこと。
 むかひあはせ「向合」むきあふこと。
 むかうがし「向川岸」むかひぎし。
 むかうづち「向槌」あひづち。
 むかうばら「向腹」腹の正面。現妻の子。
 むかうめ「向妻」正妻。
 むかふ「迎」来るを待つこと。
 むかふす「向伏」向の方伏せるが如きこと。
 むかふみず「向不見」先きを考へぬこと。
 むかへさげ「迎酒」宿醉を散ぜしむる爲めにむ
 さげ。
 むかへび「迎火」うらぼんに亡者を迎ふるために
 おがらをたく火。
 むがむしん「無我無心」我れを忘れて居ること。
 むがむちゆう「無我夢中」前同。
 むかんがく「無感覺」感覺なきこと。

むき「無機」生活の力を有せざること。
 むきぎ「無期」きげんのなきこと。
 むきぎ「麥」禾本科植物、其實は食用とす。
 むきあひ「向合」對面。
 むきがん「無機岩」無機礦物よりなる岩。
 むきくわがく「無機化學」無機化學合物に關する
 化學。
 むきげん「無期限」期限のなきこと。
 むきころさい「無期公債」償還期の定まり居らぬ
 公債。
 むきこがし「麥炒」大麥を炒り之れをひきて粉と
 したるもの。
 むきさず「無疵」きずのなきこと。
 むきだし「剃出」露骨のこと。
 むきとけい「無期徒刑」終身服役せしめらるゝも
 の。
 むきとろ「麥薯汁」麥飯にとろゝをかけたるもの
 の。
 むきなは「麥繩」さうめんのこと。
 むきぶつ「無機物」生機機能のなきもの。
 むきみ「剃身」あきりはまぐりなどの貝をとり
 さらしたる中身。

むきめい「無記名」姓名を記さぬこと。
 むきめいしき「無記名式」氏名を記せざる方式
 選舉人の氏名を
 記入せぬもの。
 むきめいとうへう「無記名投票」
 むきめし「麥飯」米と麥とを混じてたきたる飯。
 むきやう「夢境」ゆめち。
 むきやう「無疆」かぎりなきこと。
 むきゆう「麥湯」大麥をいりたるものを湯に入れ
 更にこしたるもの。
 むきゆう「無窮」まはまりなきこと。
 むきよく「無極」かぎりなきこと。
 むきりつ「無規律」規律たゞざること。
 むきわら「麥藁」麥穂を切りさした。其下部の藁
 工。藁にてあみたる細
 むきわらざいく「麥藁細工」
 むきわらさなだ「麥藁眞田」麥藁の眞田。
 むく「無垢」衣服の裏表とも無地の同色なる
 もの。
 むく「棕」楡科の植物。
 むく「向」其方に心をよせる、面を其方に
 すること。

むく「彪」むくげのこと。
 むく「剃」おほひあるものを強いてはぎと
 ること。
 むくい「酬」返禮すること。
 むくいぬ「彪犬」犬の一種。
 むくえ「無垢衣」袈裟のこと。
 むくげ「鬚」やはらかき毛。
 むくげ「木槿」錦葵科に屬する植物。
 むくち「無口」多く辯ぜぬこと。
 むくどり「棕鳥」燕雀類の鳥。
 むくみ「浮腫」むくむこと。
 むぐら「葎」やへむぐら。草の名。
 むぐらめち「土龍」食蟲類の獸。
 むぐり「潛」もぐりのこと。鳩のこと。
 むくろ「軀」からだ、死骸。
 むくろじ「無患子」無患子科の植物。
 むくわくわ「無花果」いちじゆく。
 むくわん「無官」官職のなきこと。
 むくわんけい「無關係」關係せぬこと。

むくわんしん【無關心】自己の利害に關係なきこと。
 むくわんのたいふ【無官太夫】公卿の子の元服せざるもの又は古、五位の位にありて未だ官職なきものこと。
 むけ【無卦】年廻はりによりて五年間凶なること。
 むげ【無下】一概のこと。
 むげ【無碍】支障なきこと。
 むけい【無形】形のなきこと。
 むけい【無稽】根據なきこと。
 はけいしほん【無形資本】版權、得意、專賣權のこときもの。
 むげい【無藝】げいなし。
 むけういく【無教育】教育なきこと。
 むげつ【無月】月の出でざること。
 むげに【無下】一向に。
 むげん【無言】むごんに同。
 むげん【夢幻】ゆめまぼろし。
 むげん【無限】かぎりなし。

むげんせう【無限小】限りなく小なること。
 むげんせきじん【無限責任】どこまでも辯済の責に任ずること。
 むげんだい【無限大】無限に大なること。
 むこ【婿】娘の夫となれる人のこと。
 むこ【無辜】罪のなきこと。
 むこいり【婿入】婿に行くこと。
 むころう【迎】まちうけること。
 むころう【無功】功なきこと。
 むこがね【婿料】婿にせんと思ひ定めたる人ないふ。
 むこじ【慘】いたはしきこと。
 むこやうし【婿養子】養子として貰ひ長じて娘にめあはすこと。
 むこやうしえんぐみ【婿養子縁組】婿養子かなすと同時に養子と娘と結婚すること。
 むこん【無根】事實のなきこと。
 むこん【無言】かたらぬこと。
 むさい【無才】才智のなきこと。
 むさい【無妻】つまのなきこと。

むざい【無罪】つみなきこと。
 むざり【夢想】夢中に想ふこと。
 むざう【無雙】二つと無きこと。
 むざうがは【無雙側】表裏同じきもの。
 むざうだんす【無雙筆筒】一種類の材にてつくりしもの。
 むざうさ【無造作】たやすきこと。
 むざぐるし【汚穢】きたなきこと。
 むざさび【鼯鼠】嚙齒類に屬する獸。
 むざべつ【無差別】差別なきこと。
 むざぼる【食】よくばること。
 むざさん【無産】資産なきこと。
 むざさん【無算】豫定なきこと。算へ切れぬこと。
 むし【無視】有れどもなきが如く視ること。
 むし【蟲】人、禽獸、魚介以外の動物一般をくるめていふ。
 むし【蒸】むすこと。
 むしあつし【蒸暑】むすが如く暑きこと。
 むしろ【無臭】くさみなきこと。

みしおさへ【蟲押】小兒の腹の蟲のおこらぬ様にのむくり。
 むしかく【無資格】資格のなきこと。
 むしかご【蟲籠】蟲を畜ふ籠。
 むしき【無識】知識のなきこと。
 むしぐすり【蒸藥】煎藥。
 むしくひ【蟲食】むしばむこと。
 むしぐわし【蒸菓子】むしてつくりたる菓子。
 むしけ【蟲氣】小兒が一時身體よりはり飲食進まぬこと。
 むしけら【蟲蟻】蟲をいやしみいふこと。
 むしけん【無試験】試験せぬこと。
 むしけん【蟲拳】拳の一種。
 むしず【蟲酸】溜飲の起りし時口に出づる水。
 むじつ【無實】罪なきこと。
 むじな【猪】食肉獸の一種。
 むしば【蟲齒】蟲くひば。
 むしばら【蟲腹】蟲の爲めに腹いたみすること。
 むじひ【無慈悲】あはれみの心なきこと。

むしふるじ【蟲封】 蟲の起きぬ様にまじなひする
 こと。
 むしへん【蟲偏】 漢字の偏の名。
 むしぼし【蟲干】 土用干、曝書のこと。
 むしめがね【蟲眼鏡】 凸レンズのこと。
 むしや【蟲屋】 蟲類を賣る人。
 むしや【武者】 へはもの。
 むじやう【無常】 はかなきこと。
 むしやう【無償】 報酬なきこと。
 むじやう【無情】 情なきこと。
 むじやう【無上】 此上なきこと。
 むしやうかん【蒸羊羹】 むしたス羊羹。
 むしやうけいやく【無償契約】 一方ばかり利益を
 うくる契約。
 むじやうめいれい【無上命令】 直接命令のこと。
 むしやく【蒸焼】 むしてやくこと。
 むしやく【無爵】 爵なきこと。
 むじやき【無邪氣】 いっぱりなきこと。
 むしやくぎやう【武者修行】 武術をきたへる爲
 め諸國を廻はること。

むしやどころ【武者所】 御所の武士のおる所。
 むしやぶり【武者振】 武装したる姿のこと。
 むしやべつ【無差別】 差別なきこと。
 むしゆ【無主】 ぬしなきこと。
 むしゆぎ【無主義】 一定の主義なきこと。
 むしゆく【無宿】 一定の家なきこと。
 むしゆぶつ【無主物】 主なき物。
 むしゆみ【無趣味】 趣味のなきこと。
 むしゆん【矛盾】 互に撞着すること。
 むしよく【無色】 色のなきこと。
 むしよく【無職】 定まれる職業なきこと。
 むしよくげう【無職業】 無職に同じ。
 むしよけ【蟲除】 蟲を除くるといふもの、神佛の
 御符などの如し。
 むしよぞく【無所屬】 何へも所屬なきこと。
 むしよとく【無所得】 所得なきこと。
 むしほん【無資本】 資本なきこと。
 むしりよく【無資力】 資力なきこと。
 むしろ【寧】 いっそ。

むしる【小毛】 つかみてひきさくこと。
 むしろ【滯】 敷物の一種。
 むしん【無心】 心なし考なし。
 むじん【無盡】 つきぬこと。
 むじんざう【無盡藏】 つきぬこと。
 むしんけい【無神經】 感じのぶきこと。
 むしんじん【無信心】 信仰心なきこと。
 むじんたう【無人島】 住人なき島。
 むしんろん【無神論】 神の存在を認めぬ論。
 むすろ【無數】 かぞへきれぬこと。
 むすこ【子息】 男の子のこと。
 むすび【産靈】 萬物を生じたる神靈の意。
 むすびめし【結飯】 にぎりめし。
 むすびふくろ【結袋】 口を結ぶ様につくり上る袋
 むすびめ【結目】 むすびたる所。
 むすめ【娘】 女の子のこと。
 むするほうさん【無水硼酸】 硼酸を熱したるもの
 むせい【無性】 性別のなきこと。

むせい【無聲】 声なきこと。
 むせいげん【無制限】 制限なきこと。
 むせいせいしよく【無性生殖】 下等なる動物の生
 むせいぶつ【無生物】 生活力のなきもの。
 むせき【無籍】 本籍のなきこと。
 むせきにん【無責任】 責任のなきこと。
 むせびなき【噎泣】 むせびて泣くこと。
 むせぶ【噎】 のどにつかへること。
 むせん【無錢】 金錢なきこと。
 むせんいうきよう【無錢遊興】 遊興して代金のな
 むせんでんしん【無線電信】 電線なくして通信
 むせん【六十】 ろくじふのこと。
 むそく【無足】 武士にして祿なきこと。
 むそけん【無訴權】 訴權なきこと。
 むだ【徒益】 なきこと。
 むだ【無代】 たゞのこと。
 むたい【無體】 無法なること。

むだいか【無代價】同前。
 むたう【無刀】刀を持たぬこと。
 むだかき【徒書】役にたぬぬかきもの。
 むだくち【徒口】役にたぬぬ言。
 むだぐひ【徒食】問食のこと。
 むだじに【徒死】犬死のこと。
 むだづかひ【徒遣】金銭をむだに遣ふこと。
 むだばな【徒花】實のならぬ花。
 むだばなし【徒話】無益のはなし。
 むだぼねをり【徒骨折】ほねをりぞん。
 むだん【無斷】ことほりなきこと。
 むだち【無智】ばか。
 むち【無知】知識なきこと。
 むち【鞭】打ち戒むるに用ふるもの。
 むち【無地】模様なく全部同色なること。
 むちや【無茶】すぢみちのたぬこと。
 むちやくちや【無茶苦茶】前同。
 むちゆう【夢中】我を忘れること。
 むつ【石鰐魚】かはむつ。

むづかる【憤】むづかしく思ふこと。
 むつき【福祿】うぶぎ。
 むつき【睦月】陰曆正月。
 むつこと【睦言】なかくかたること。
 むつのはな【六花】雪のこと。
 むつわり【六割】四斗樽の容量の六分の一。
 むて【無手】からて。
 むていけん【無定見】一定の見識なきこと。
 むていたう【無抵當】抵當なく金を貸すこと。
 むてき【無敵】相手なきこと。
 むてつばふ【無手法】むやみなること。
 むてん【無點】漢文の訓點なきもの。
 むどく【無毒】毒なきこと。
 むとんちやく【無頓着】平氣なること。
 むなかんぢやう【胸勘定】胸算のこと、心算こ
 むなぎ【棟木】棟に用ふる材木。
 むなぐら【胸座】胸のあたりのこと。
 むなさき【胸先】心下のこと。

むなさんよう【五胸算用】暗算のこと、心算のこと。
 むなし【空】内容のなきこと。
 むに【無二】比なきこと。
 むにむさん【無三】一心に専念に。
 むね【旨】こゝろ意思。
 むね【胸】首部と腹との中間。
 むね【宗】主要のこと。
 むね【棟】棟木のこと。家を數ふる時にいふ語。
 むねあび【棟上】柱梁の上に棟木を上ぐること。
 むねあて【胸當】胸甲のこと。
 むねと【宗徒】宗と頼むともがら。
 むねん【無念】くやしきこと。
 むのふ【無能】はたらきなきこと。
 むのうよく【無能力】能力なきこと、私權を行使し得ざるもの。
 むのうりよくしや【無能力者】能力なき人。
 むひ【無比】比類なきこと。
 むひ【夢寐】ねむり。
 むひつ【無筆】無學のこと。

むびやう【無病】病氣なきこと。
 むふう【無風】風なきこと。
 むふんべつ【無分別】かんがへなきこと。
 むべ【宜】うべ。
 むへん【無邊】はてなきこと。
 むぼろ【無謀】思慮なきこと。
 むほふ【無法】らんぼうなること。
 むほん【謀叛】主君に叛すること。
 むみ【無味】味なきこと。
 むめ【梅】うめに同じ。
 むめい【無名】名を記さぬこと。
 むめい【無銘】製作者銘なきこと。
 むめいとらへろ【無名投票】無記名投票のこと。
 むもん【無紋】紋なきこと、形のなきこと。
 むやく【無役】役目なきこと。
 むやひ【舫】もやひのこと。
 むやみ【無暗】かんがへなきこと。
 むよろ【無用】よくなきこと。
 むよく【無欲】欲のなきこと。

むら 「村」村落のこと。
 むら 「班」そろはぬこと。
 むらい 「無頼」ぶらいに同じ。
 むらがり 「叢」前同。
 むらかり 「群」多く一所に集まること。
 むらかる 「簇」前同。
 むらぎも 「腎肝」心のそこ。
 むらくも 「叢雲」集まりたる雲。
 むらくものつるぎ 「叢雲劍」三種の神器の一。
 むらさき 「紫」いろの名。
 むらさきするしやう 「紫水晶」紫色を帯べる水晶
 むらさと 「村里」村落のこと。
 むらさめ 「村雨」にはか雨。
 むらたじゆう 「村田銃」村田経芳の造れる銃。
 むらびと 「村人」村落の人。
 むむらやくば 「村役場」村長の事務をあつかふ所
 むり 「無理」すぢみちたぬこと。無理に合
 むりさんだん 「無理算段」強いて融通すること。

むりそく 「無利息」利息のなき貸金。
 むりむたい 「無理無體」強いて行ふこと。
 むりやう 「無量」数へきれぬ程の量。
 むりよ 「無慮」おほかたおよそ。
 むりわうじやう 「無理往生」むりに強いて我が意
 は従はしむること。
 むるゐ 「無類」無比と同じ。
 むれら 「無料」料金なし。
 むれら 「無聊」つれづれなること。心ぼそきこ
 と。
 むろ 「室」物を入れて外氣にさわらぬ様特
 につくりし所。
 むろく 「無祿」祿なきこと。
 むろまちじだい 「室町時代」足利氏時代。
 むろばちばくふ 「室町幕府」足利義満が京都で町
 に設けたる役所。
 むろん 「無頼」もろろん。
 むる 「無爲」なすなきこと。
 むる 「無位」くらぬなきこと。

め

め 「目」眼のこと。目方のこと、目盛り
 のこと、もくめ、端と端との折合ふ
 ところ。
 め 「芽」植物の芽のこと。
 め 「牝」めすのこと。
 め 「女」をんなのこと。
 めはふる 「觸目」見ゆること。
 めをきはむ 「目極」みゆる限り遠方をみること。
 めをそばだつ 「側目」よこめで見ること。
 メートル [Metre] 長さの單位、米突。
 めあか 「目垢」めやにのこと。
 めあか 「目赤」眼球の眞赤なること。
 めあき 「目明」文字を解する人。
 めあて 「目當」まよ、あてど。

めあはず 「妻」妻とすること。
 めい 「命」いのち。
 めい 「明」あきらかなること。
 めい 「銘」碑などに誌する頌讚の文句、漢
 文にて書くを例とす。
 めい 「名」或る語に冠らして其すぐれたる
 意を表はすこと。
 めいあん 「名案」よき考案のこと。
 めいあん 「明暗」明とくらきと。
 めいあん 「冥闇」やみのこと。
 めいか 「名家」名高き人、名高き家。
 めいか 「名歌」すぐれし歌。
 めいかい 「名海」おほうのこと。
 めいがう 「名號」となへること。
 めいかく 「明確」たしかなること。
 めいかん 「明鑑」みわけの明なること。
 めいかん 「銘肝」よく心にとめること。
 めいき 「銘旗」死者の姓名を記したる旗。
 めいき 「名器」すぐれし器具。

めいぎ【名義】名前のこと。
 めいぎ【名妓】評判のよき藝者。
 めいさやう【明鏡】くもりなき鏡。
 めいさやう【冥境】よみぢ。
 めいさゆう【迷宮】中に入る時は再び出でられぬ構造の家。
 めいきん【鳴禽】なきこえよきとり。
 めいく【名句】すぐれたる句。
 めいぐわん【冥頑】知らなくかたくなること。
 めいくん【明君】すぐれたる君。
 めいげつ【名月】はれてすみたる月。
 めいけん【明驗】すぐれしきよめ。
 めいけん【明賢】かしこきこと。
 めいげん【明言】はつきりといふこと。
 めいげん【迷眩】めくらること。
 めいごう【名工】すぐれし職工。
 めいさい【明細】くはしきこと。
 めいさう【迷想】考の迷へること。
 めいさう【冥想】眼をとちて考ふること。

めいさく【名作】すぐれし製作物。
 めいさん【名産】名物。
 さいざん【名山】名高き山。
 めいし【名詞】物の名を言ひあらはすことば。
 めいし【名刺】なふだ。
 めいし【明小】あきらかに示す。
 めいし【名士】名高き人。
 めいじつ【名實】なとじつと。
 めいしや【鳴】深く謝すること。
 めいじやう【名狀】ありさまを言ひあらはすこと。
 めいじやう【名將】名高き大將。
 めいしやう【名匠】すぐれし大工。
 めいしゆ【盟主】同盟中の主長。
 めいしゆ【銘酒】製造法を異にし特別の名を付したるもの。
 めいしゆ【名手】上手のこと。
 めいしゆ【名主】なだかき主。
 めいしゆ【明主】すぐれし主君。
 めいしゆや【銘酒屋】銘酒を賣る家。

めいしよ【名所】名高き所。
 めいしよ【名勝】前同。
 めいしよ【明證】明白なる證據。
 めいしん【迷信】正しからざる信仰。
 めいじん【名人】すぐれし人。
 めいす【瞑】死ぬること。
 めいすう【名數】數に單位の名を附せるもの。
 めいせい【名聲】評判 ほまれ。
 めいせき【名籍】人別。
 めいせき【明誓】はつきりして居ること。
 めいせつ【名説】すぐれたる説。
 めいせつ【名節】人倫上守るべき道。
 めいせん【銘仙】取りたるまゝの絹糸にて織りたる布。
 めいそ【名僧】名高き僧。
 めいぞく【名族】名望ある家門。
 めいだい【命題】判断したるところを言に表はせしもの。
 めいとら【名刀】よき刀。

めいだう【冥道】佛のこと。
 めいだつ【明達】明智にして物に通達せること。
 めいたう【明答】あきらかなる答。
 めいたん【明旦】あさ。あした。
 めいだん【明斷】よき決斷。
 めいち【明知】よく知ること。
 めいち【明智】すぐれし智識。
 めいちや【銘茶】特別の銘を附したる茶。
 めいちゆう【命中】よくあたること。
 めいてい【酩酊】酒に酔ふこと。
 めいてつ【明哲】かしこき人。
 めいど【冥土】よみぢ。
 めいどり【鳴動】鳴りうごくこと。
 めいとく【明德】あきらかなる徳。
 めいどのたび【冥上旅】よみぢの旅。
 めいぢち【命口】忌口。
 めいぼう【名望】人望のこと。
 めいぼうか【名望家】人望家のこと。
 めいはく【明白】あきらかなること。

めいはつ【明發】よあけがたのこと。
 めいぼつ【冥罰】神佛の罰。
 めいはんぐわん【名判官】公明正大常に判決をあやまちざる人。
 めいび【明媚】景色のよきこと。
 めいひつ【名筆】書畫のすぐれしもの。
 めいびん【明敏】才智すぐれてさときこと。
 めいふ【冥府】めいど。
 めいふく【冥福】死後の幸福。
 めいぶつ【名物】土地の名産。
 めいぶつをとこ【名物男】世に評判さるゝ男。
 めいぶん【名文】すぐれたる文章。
 めいぶん【名分】分際を名にあはしたること。
 めいぶん【明文】あきらかなる條文。
 めいべん【明辯】辯の明瞭なること。
 めいぼ【名簿】姓名を記せる帳簿。
 めいぼろ【明眸】美人のこと。
 めいぼく【名木】すぐれし木。
 めいぼう【迷妄】いつはり。

めいめい【冥々】くらきこと。
 めいめい【銘々】おの／＼。
 めいめい【命名】名をつくること。
 めいめい【明々】まことにあきらかなること。
 めいめつ【明滅】あかるくなり亦くらくなること。
 めいもう【冥濛】きりたちてくらきこと。
 めいもく【瞑目】眼をとづること。
 めいもん【名門】名家のこと。
 めいやく【盟約】ちかひ。
 めいよ【名譽】ほまれ。
 めいよけりじゆ【名譽教授】勅旨により授與さるゝ名譽の稱號學界に功蹟あるか大學に勞ありしかによる。
 めいよしよく【名譽職】給料を受けずして只名譽として職務に従事すること。
 めいらう【明朗】あきらかなること。
 めいり【名利】名譽と利益のこと。
 めいりり【名流】名人。
 めいりやう【明亮】あきらか。
 めいれい【命令】いつはり。

めいれい【螟蛉】あをむし。
 めいれいけん【命令權】命令を發す權。
 めいれろ【明瞭】明白なること。
 めいろ【目色】目のいろ。
 めいろん【名論】すぐれてよき論。
 めいわく【迷惑】こまること。
 めいゐ【命位】位取りのこと。
 めゐろ【妙】ごくよきこと。
 めうあん【妙案】ごくよきかんがへのこと。
 めうが【茗荷】草名食用にす。
 めうから【妙巧】ごくたくみなること。
 めうかく【妙覺】究竟のけだづのこと。
 めうぎ【妙技】ごくすぐれたるわざ。
 めうく【妙句】すぐれたる句。
 めうけい【妙計】すぐれたるはかりごと。
 めうさん【妙算】前同。
 めうじ【苗字】姓のこと。
 めうしゆ【妙手】上手なる技倆、又は其人。
 めうつり【目移】外のものた見て迷ふこと。

めうと【夫婦】ふうふのこと。
 めうへ【目上】自分より地位のhigher人年上なる人。
 めうほふ【妙法】不思議なるみち。
 めうみ【妙味】ごくすぐれたるあぢ。
 めうめう【妙々】すぐれてよろしきこと。
 めうれい【妙齡】年わかきこと。
 めおぼえ【目覺】めじるし。
 めかくし【目隠】めをおほひかくすこと。
 めかけ【妾】そばめのこと。
 めかけばら【妾腹】めかけ腹に生まれたる人。
 めかた【目方】おもき。
 めかど【目廉】ものごとの箇所をしること。
 めかど【目角】するどく物を見るさま。
 めがね【眼鏡】近視遠視兩眼のものが視覺上適度にするために用ふるもの。
 めがめ【妻料】かれてより妻と定めたる人。
 めきぎ【目利】鑑定人のこと。
 めくぎ【目釘】刀身を柄に付くる爲めに刺し止むる釘。

めぐすり【目薬】眼病をなほす薬。
 めくそ【目屎】めやにのこと。
 めくぼせ【朮】眼にて心を知らずること。
 めくぼり【目配】方々を注意して見ること。
 めぐむ【恵】なまじけをかくること。
 めぐむ【萌】芽を出しかけたること。
 めくら【盲】視力なきこと又其人。
 めくらいん【盲印】其事實をよく調べずに印を捺すこと。
 めくらうち【盲打】むやみにとろきらはずうつこと。
 めくらさがし【盲探】凡そのあてなくさがすこと。
 めくらじま【盲縞】紺色の無地の織物。
 めくらぼん【盲判】盲印に同じ。
 めくらめつほふかい【盲滅法界】様子の少しも知れぬこと。
 めぐらす【廻】まはすこと。
 めぐる【捲】はぎとること。
 めぐりあはせ【廻合】はりあはせのこと。

めこ【妻子】つまのこと。
 めこぼし【目溢】見のがすこと。
 めぎし【目指】めつき。
 めぎし【目刺】鯛を串に通して乾したるもの。
 めぎす【芽】めぐむこと。
 めぎす【目差】ねらふこと。
 めぎとし【目聴】めばやきこと。
 めぎはり【目障】目のさはりになること。
 めぎまし【目覺】りつばなることおどろくべきこと。
 めぎまし【目覺】夢をさます方法のこと。
 めし【召】よびだすこと。
 めし【飯】食事のこと。
 めしあつむ【召集】よびあつめること。
 めしあがる【召上】たべること。
 めしりど【召人】囚人。めかけ。
 めしどり【飯行李】辨當用の小行李。
 めしじやく【召状】人を召すための書状。
 めしじやくし【飯杓子】しやもじ。

めしたき【飯炊】飯を炊くこと。其人。
 めした【目下】自分より下き地位のもの。
 めしつかひ【召使】奴婢のこと。
 めしとり【召捕】捕縛すること。
 めしぼち【飯鉢】めしびつ。
 めしひ【盲】めくら。
 めしびつ【飯櫃】おはちのこと。
 めしもり【飯盛】旅店などにて客の御飯をもる人こと。
 めしや【飯屋】飯を賣る家。
 めじり【目後】まなじりのこと。
 めじるし【目標】見てたよりとする標。
 めじろ【眼白】鳴鳥類に屬する鳥。
 めす【雌】牝のこと。
 めす【Mes】和蘭語、西洋の小刀。
 めだか【目高】喉鰓類の小魚。
 めだけ【雌竹】女竹ともいふ。
 めだつ【目立】きはだち、見えること。
 めたて【目立】のこぎりなどの目をつくりなほすこと。

めだま【目玉】眼球のこと。
 メダル【Medal】賞牌のこと。
 メタン【Methane】沼氣のこと。
 メチルアルコール【Metyl alcohol】木精とかくめちがひ【目遣】みあやまりのこと。
 めちや【滅茶】すぢみちのたぬこと。
 めちやくちや【滅茶苦茶】前同。
 めづ【愛】愛すること。
 めづかひ【目遣】物を見る目のうごかしかたのこと。
 めづかち【偏目】かため。
 めづき【目着】眼の有様。
 めづき【渡金】金をきせること。
 めづきやく【滅却】ほろぶること。
 めづきり【滅切】際立つこと。
 めづつけ【目附】武家の職名。
 めづさい【滅罪】つみほろぼし。
 めづさう【滅相】命つき身體おほぶること。
 めづじん【滅盡】ほびろつくこと。
 めづせつ【滅絶】ほろぼしつくすこと。

めつた「滅多」めちやくちやなること。
 めつたうち「滅多打」ところきらはずうつこと。
 めつたむしやう「滅多無性」やたらのこと。
 めつたやたら「滅多矢鱈」前同。
 めつぼう「滅亡」ほろぶること。
 めつふし「目潰」目に砂などを入れて眩ますこと。
 めつぼう「滅法」法外のこと。
 めづま「目稜」目さき。
 めつれつ「滅裂」形を失ふこと。
 めて「馬手」右の手。
 めど「針孔」針の糸を通す穴。
 めど「目處」めあて。
 めどはぎ「著菽」荳科の植物。
 めどほり「目通」めさき。
 めどり「雌鳥」めんどり。
 めとる「娶」妻として迎へること。
 めなう「瑪瑙」石英の一種。
 めぬき「目抜」主要なるところ。
 めぬき「目貫」目釘にて差す金具。

めのこと「女子」女の子。
 めのこさん「目子算」暗算。
 めのたま「目玉」眼球のこと。
 めのと「乳母」うばのこと。
 めのまへ「目前」まのあたりのこと。
 めのわらは「女童」女子のこと。
 めのおんな「妻女」つま。
 めぼえ「芽生」發芽のこと。
 めはじき「充蔚」やくもさう、薄荷のこと。
 めぼたき「瞬」またゝきのこと。
 めばち「牝蜂」めすのはち。
 めばやし「目早」目のするどきこと。
 めばり「目張」物のすき間などを貼ること。
 めひ「姪」兄弟姉妹の娘。
 めぶんじやう「目分量」目にて見てはかること。
 めぼし「目星」めじるし。
 めまひ「眩」目くらみのこと。
 めみえ「目見」まみゆること。
 めめし「女々」柔弱なること。女らしきこと。

めめず「蚯蚓」みづのこと。
 めもじ「目文字」逢ふこと。
 めもと「目許」めつき。
 めもはるに「目遙」見る目遙かに。
 めはり「目盛」目を盛ること。
 めやす「目安」めあて。見易き様にかくこと。
 めやに「目脂」めくそ。
 めらう「女郎」女をいやしむことば。
 メリケンコ「米利堅粉」北米合衆國より來る小麦の粉。
 めりこむ「滅込」深くなかにおちこむ。
 メリヤス「莫大小」西班牙語、シヤツ、手袋などをつくる。(Melias)
 めをと「夫婦」いもせのこと。
 めん「面」かほ。おもて、つら。
 めん「綿」木綿のこと。
 めん「麵」小麦をこれてつくりたるもの。
 めんいう「面友」うはべばかりの交際の友。
 めんえき「免役」服役することを免ずること。

めんえつ「面謁」見ゆること。
 めんきつ「面詰」まのあたりせめること。
 めんきよ「免許」官より許すこと。
 めんきよえいげう「免許營業」免許を得ざれば出來ざる營業。
 めんきよかいでん「免許皆傳」すべてを傳授さるること。
 めんきよじやう「免許狀」官より免許の證として下附する文書。
 めんくらふ「面眩」あわてること。
 めんくわ「綿花」綿の果實の白毛。
 めんくわい「面會」對面すること。
 めんくわやく「綿火藥」綿花を硫酸と硝酸とに浸してつくりたる火藥。
 めんくわん「免官」官職をやめらるゝこと。
 めんこ「面晤」面會して談ずること。
 めんさい「免罪」囚人に對し刑罰を許すこと。
 めんさう「面相」かほつき。
 めんし「綿絲」もめんいと。

めんじやう【免状】免許の證として下附する證狀
 めんじよく【面色】かほいろ。
 めんじよく【免職】免官と同じ。
 めんず【麵子】うどんなどの總稱。
 めんぜい【免稅】稅を許すこと。
 めんせき【面積】表面の場所の廣さのこと。
 めんせき【面責】面前にてせめること。
 めんせつ【面接】めんくわいのこと。
 めんぜん【面前】めのまへ。
 めんそ【免租】租稅を免ずること。
 めんそ【免訴】起訴の効力を消滅せしむる決定をなすこと。
 めんだう【面倒】煩はしきこと。
 めんだん【面談】あつて話すこと。
 メンチ【Mince】西洋料理の一種。
 めんじよ【免除】ゆるすこと。
 メンツウ【面桶】一人前づゝ飯などをもるまげもの。
 めんどり【雌鳥】めすのこと。

めんばう【面貌】おもざし、かほかたち。
 めんばう【麩包】パンのこと。
 めんばく【面縛】手をまへの方にしばること。
 めんび【面皮】人にあふべき顔。
 めんぶ【面部】かほ。
 めんぶ【綿布】木綿糸にて織りたる布。
 めんく【綿服】木綿の布にて作りたる衣服。
 めんぶん【麵粉】こむぎのこのこと。
 めんべき【面壁】壁に向ふこと。
 めんぼく【面目】やうす。かほつき。相當の置位を保つこと。
 めんほう【面頰】顔を掩ふ具。
 めんめつ【綿密】こまかなること。
 めんめん【綿々】ながくつゞくこと。
 めんめく【面目】めんぼくに同じ。
 めんやう【綿羊】ひつじのこと。
 めんよう【面容】かほのやうす。

も

も【藻】水中に生ずる植物。
 も【喪】人の死したる時其近親者が憂ひて引籠り居ること。
 も【裳】はかま。
 モーニングコート【Morning coat】洋服の一種
 モール【毛織】綴子に似て浮織とせるもの。
 もうらう【蒙雨】空くもりでふる雨。
 もうぐ【蒙愚】ばかのこと。
 もろくわん【毛管】毛細管のこと。
 もろこじんしゆ【蒙古人種】黄色人種。
 もろさいくわん【毛細管】極めてほそき管。
 もろさいくわん【毛細管】極めてほそき管。液体がほそき管中に浸入し昇上する作用のこと。
 もうざう【夢想】思ひ煩ひて夢に見ること。

もうせん【毛氈】敷物の一種。
 もうぢん【蒙塵】天皇の難に遇ひてさまよひ給ふこと。
 もうとう【毛頭】すこし、
 もうどう【艘艦】いくさのふね。軍艦。
 もうはつ【毛髮】かみのけ。
 もうひつ【毛筆】筆毛にて穂をつくりたるふてのこと。
 もうふ【毛布】ケット。
 もうまい【蒙昧】知識のひらけぬこと。おろか。
 もうまい【蒙昧】うすぐらきこと。
 もうめい【蒙溟】そののかきくもりてくらきこと
 もうもう【蒙々】きり立ちこめてうすぐらきこと
 もろろう【蒙朧】ぼんやりと暗きこと。
 もろろうしやふ【蒙朧車夫】無頼車夫。人によりてゆすりがましきことをなす車夫
 もえいづ【燃出】もえてそとへでること。
 もえいづ【萌出】めを出しはじめたること。
 もえがら【燃殻】もえてあとにのこりしから。
 もかろ【巾額】簾の上邊をおふ布。

もがき【瘡痘】はうさう。
 もぎ【摸擬】まねること。
 もきぬ【喪衣】もふくのこと。
 もく【目】こわけ。だい。すぢ。
 もく【木】もくめ、き。
 もくえう【木曜】七曜中の一。
 もくく【目下】まのあたり。
 もくかう【木瓜】虎耳草科。觀賞用。紋どころの名。
 もくきよ【黙許】しらぬふりしてとがめずにおくこと。
 もくぎよ【木魚】僧侶の讀經の時にたたく具。
 もくきん【木琴】一種の樂器。
 もくぐう【木偶】木にてつくりし人形。
 もくくわん【木環】木をくりてつくりしわ。
 もくけい【默契】口に出さゞれども暗々裡に意思の合致すること。
 もくげき【目撃】しかとみること。
 もくご【目語】目にて語ること。
 もくこう【沐猴】さる。

もくこく【木斛】山茶科、觀賞用。
 もくこん【目今】いまのこと。
 もぐさ【艾】灸治用のもの、よもぎより製す。
 もくさい【木材】木を切りたるもの。
 もくざう【木造】木にてつくること。
 もくざう【木像】てくのこと。
 もくさん【目算】みつもり。
 もくし【黙示】間接に意を表はすこと。
 もくし【黙止】だまつてしだしせぬこと。
 もくし【黙視】だまつてみること。
 もくし【目眈】めじり。
 もくし【目視】見ること。
 もくじ【目次】だいまくの順のこと。
 もくす【黙】だまること。
 もくせい【木精】メチールのこと。
 もくせい【木犀】木犀科の植物、觀賞用。
 もくせい【木星】遊星中の最大なるもの。
 もくせう【目笑】目にて笑ふ意の表はるゝこと。

もくぜん【目前】眼の前のこと。
 もくぜん【默然】だまる貌。
 もくそう【目送】通り行くを目をはなさずみ見ること。
 もくそく【目測】目分量にて測ること。
 もくだく【黙諾】だまつて承知すること。
 もくたん【木炭】すみのこと。
 もくづ【藻屑】水中のごみ。海中の藻のくず。
 もくてき【目的】めあてのこと。
 もくてきろん【目的論】人生の最高目的を論ずるもの。
 もくと【目途】めあて。
 もくにん【默認】だまつて許すこと。
 もくねん【默然】もくぜんに同じ。
 もくば【木馬】木にて馬の形をつくりしもの、器械體操具の一種。
 もくはい【木杯】木にてつくりし杯。
 もくぼん【木版】木にほりしはん。
 もくひつ【木筆】鉛筆のこと。

もくへん【木片】きのきれはじ。
 もくめ【木目】木理のこと。
 もくめく【黙々】だまつておる貌。
 もくよく【沐浴】ゆあみ。
 もぐら【菴】草の名。
 もぐらもち【鼯鼠】むぐらに同じ。
 もくらん【木蘭】木蓮に同じ。
 もぐり【潜】公になさぬこと。
 もくれい【目禮】目にてあいさつすること。
 もくれん【木蓮】木蘭科、觀賞用。
 もくろく【目録】題目のみ集めたるもの。
 もくろみ【目論】事をくはだてること。
 もくけ【木瓜】ぼけのこと。
 もぎう【模造】まねてつくること。
 もさく【模索】てさぐりのこと。
 もし【若】あるひは。かりに。
 もじ【文字】もんじ。
 もしそれ【若夫】上來の詞を改めて次ぎに他にうつる時に用ふ。

もしほ【藻汐】海水を藻につけて鹽分を多くふくまはれ之れを淡水にて洗ひ其上水をとらしもの。

もしほぐさ【藻汐草】藻汐をとるに川ふる海草又ものごとを書き集むること。

もず【百舌】燕雀類の小鳥。

もすそ【裳裾】衣のすそ。

モスリン【Muslin】メリンスのこと。

もだえ【悶】もだゆること。

もたらす【齋】持ち來ること。

もたる【靠】よりかゝりのこと。

もち【糰】もちごめ。

もち【麩】とりもちの木皮にて製したるもの。

もち【縵】麻糸にてあらくおりたる布のこと。

もちあは【糰栗】餅をつく栗。

もちあみ【餅網】もちをやくあみ。もちを入れおく袋。

もちぐさ【餅草】よもぎのこと。

もちぐされ【持腐】所持するとも使用せざるもの。

もつてのほか【以外】意外なること。

もつとも【最】道理のあること。第一なること。

もつとも【尤】たゞし、はたまた。

もつにふ【没入】没し入ること。

もつばら【専】一途、其事のみ。

もつれ【纏】もめること。

もてあそび【玩】もてあそぶこと又はもの。

もてあます【持餘】手にあまること。

もてなし【持成】とりなし。

モデル【Model】手本、かた。

もと【許】ところ。

もと【本】はじめり、おこり。かなめ、れもと(元)(原)も同じ。

もどかし【遅緩】はかどらずして心せくこと。

もとき【本木】落ちたる葉花などの附きありたるもとの木。

もどき【抵措】まねること。

もときん【元金】がんきんのこと。

もとごめ【元込】たまを元より込む装置の銃。

もつてのほかーものいみ

もつてのほかーものいみ

もつてのほかーものいみ

もつてのほかーものいみ

もつてのほかーものいみ

もちこみ【持込】品物を運び込むこと話をはじむること。

もちごめ【糰】ねばりけ多き米。

もちつき【望月】満月のこと。

もちつき【餅搗】餅をつくこと。

もちにげ【持逃】あづかりし物品を持ちてにげること。

もちぬし【持主】所有者のこと。

もちひ【用】用ふること。

もちぶん【持分】所有する部分。

もちまへ【持前】うまれつき。

もちゆう【喪中】喪に引きこもる間。

もちろん【勿論】いふまでもなく。

もつかう【木瓜】もかうのこと。

もつげ【勿怪】思ふておらぬこと。

もつこ【畚】土などを運ぶ川ふる具。

もつさう【物相】飯をもち一人一人に供する具。

もつしよくし【没食子】ふしのこと。

もつたい【物體】物々しきこと。

もつたい【物體】物々しきこと。

もとじめ【元締】勘定などのしめくりをする役のこと。

もとちゆう【元帳】原簿のこと。

もとて【元手】資本のこと。

もとどり【髻】たぶさ。

もとね【元直】原價のこと。

もとのもくあみ【元木阿彌】また前の如くになりたること。

もとぶね【本船】おやぶねのこと。

もとゆひ【元結】たぶさを結ぶに用ふるもの。

もどり【戻】かへりのこと。

もどりかけ【戻掛】かへらんとする途次。

もどりみち【戻途】かへりみち。

もの【者】人のこと。

ものあげば【物揚場】船より陸上げる場所。

ものあたらし【物新】あたらしきこと。

ものいはひ【物言】いひあひすること。

ものいひ【物言】いひあひすること。

ものいみ【物忌】きよめごと。

ものいみ【物忌】きよめごと。

ものいみ【物忌】きよめごと。

ものいり【物入】費用のかゝること。
 ものうし【物憂】氣のすゝまぬこと。
 ものりり【物賣】物品をうる人。
 ものおき【物置】物品を置くところ。
 ものおそれ【物怖】物事におそれること。
 ものおぼえ【物覺】記憶のこと。
 ものおもふ【物思】心配すること。
 ものかげ【物蔭】物のかげのこと。
 ものがたり【物語】はなしのこと。
 ものぐさ【懶惰】ぶしやうなること。
 ものぐるひ【物狂】きちがひ。
 ものごころ【物心】世の有様のわかる心。
 ものごと【物事】いろ／＼のことゝもの。
 ものさだ【物定】しなだめのこと。
 ものさびし【物寂】何となくさびしきこと。
 ものしらず【物不識】知識なき人。
 ものしり【物識】知識多き人。
 ものずき【物好】他と變はりたるものを好む性質
 ものすこし【物凄】様子すこきこと。

ものだね【物種】ものともなるもの。
 ものどり【物取】ぬすびのこと。
 もののぐ【物具】調度のこと。鎧のこと。
 もののけ【物氣】たゞりをなす死者の靈。
 もののふ【武士】さむらひ。
 もののび【物目】祝祭日のこと。
 ものほし【物乾】洗濯物を干す場所。
 ものまね【物真似】まねをすること。
 ものみ【物見】敵の様子を見る爲めの所。物を見るところ。
 ものもらひ【物貰】乞食、病氣の一種。
 ものよし【癩病】らいびやうの異名。
 ものわらひ【物笑】世人のわらひぐさ。
 もはや【最早】もう、すでに。
 もぼら【専】一途、もつばらに同じ。
 もはん【模範】てほん。
 もまた【亦】上に(も)の來る場合に書するま
 もみ【粗】米の外皮をとらざるもの。

もみ【縦】松杉科の植物、用材及び觀賞用。
 もみあげ【揉上】耳の所に生え下りたるびの毛。
 もみかは【揉革】をしかはのこと。
 もみがら【粗殻】もみぬかのこと。
 もみぐるま【粗車】唐箕のこと。
 もみすり【粗摺】もみからをとりさること。
 もみぢ【紅葉】樹木の葉のみぢしたるもの。
 もみぢがり【紅葉狩】觀楓のこと。
 もみぢのにしき【紅葉錦】もみぢを錦にたとへた
 もみぬか【粗糠】米のからのこと。
 もみれうぢ【揉療治】按摩のこと。
 もめん【木綿】もめんわた、もめんおり。
 もめんいと【木綿糸】木綿わたより製せる糸。
 もめんおり【木綿織】木綿にておれるおりもの。
 もめんわた【木綿綿】きわたの種子に着せる白
 も【股】腰と連続する部分。

もも【桃】薔薇科に屬する木。觀賞及公用。
 ももいろ【桃色】淡紅色。
 ももいろ【百日】日數の百日のこと。
 ももかは【桃皮】山桃の皮、藥用。
 ももしき【百敷】大宮の枕詞。禁中。
 ももだち【股立】袴の左右腰の部分にある縫ひど
 ももとせ【百歳】多年のこと。
 もものせつく【桃節句】三月三日の稱。
 ももひき【股引】兩脚にうがつもの。
 もや【母屋】主要なる家。
 もや【靄】もや／＼したるきり。
 もやう【模様】かざりのあやのこと。ありさま
 のこと。
 もやし【萌】手工にて芽を出さむしること。
 出さしめたるもの。
 もやひ【催合】共同してなすこと。
 もよぎ【萌黄】もえぎのこと。
 もよほし【催一】きざし、さいそく。はじめること

もより【最寄】近所のこと。
 もらひ【貰】他よりもらふこと。
 もらひこ【貰子】他人より子供を貰ふこと。又貰ひし子供。
 もらひなき【貰泣】人の泣くを見て共に泣くこと。
 もらひび【貰火】類焼のこと。
 もり【森】樹木の茂り立つ所。
 もり【銛】魚を刺す具。
 もり【漏】水のもること。
 もり【守】まもること。又人。
 もり【盛】器物にもること。
 もりずな【盛砂】門の左右にもりて貴人などを迎へしもの。
 もりそば【盛蕎麥】つゆをつけて食するそば。
 もりたつ【守立】つきそひて、育て上げること。一旦すたれしを再興すること。
 もりもの【盛物】佛事などに盛りてそのふる物。
 もりやく【守役】もりする役。
 モルヒネ【Morphin】薬の名、睡眠を催さしむるもの。

もろ【洩】もれることおちること。漏、泄も同じ。
 もろ【諸】めい／＼。
 もろこし【唐土】昔時支那のことを云ふ。
 もろこしだんこ【對黍圍子】もろこしの粉にて製せし圍子。
 もろこひ【諸戀】互にこひしたふこと。
 もろこ系【諸聲】互によぶこと。
 もろざし【諸差】もろてを差し入るゝこと。
 もろし【脆】くだけやすし。
 もろて【諸手】左右の手。
 もろとも【諸共】一所。
 もろね【諸寝】ひとつね。
 もろはだ【諸肌】両方の肩はだ。
 もろひざ【諸膝】雙方のひざ。
 もろみ【諸味】いまだ精製せぬ酒。
 もん【紋】模様、もんどころ。
 もん【文】孔のあきたる錢。
 もん【門】かど、出入口。

もんろうつ【悶鬱】もだえて氣のふさぐこと。
 もんおり【紋織】うきおりにせし紋。
 もんか【門下】弟子。
 もんがまへ【門構】門のある家。かどがまへのこと。
 もんかん【門鑑】門の出入を許されたるしるし。
 もんきりがた【紋切形】きまり。
 もんく【文句】いひぐさ。語句。
 もんぐわい【門外】門のそと。
 もんげん【門限】門をとづる時限。
 もんこ【門戸】家のことかどのこと。
 モンゴリアン【Mongolian】蒙古人種。
 もんごん【文言】もんく。
 もんざい【問罪】つみをたゞすこと。
 もんし【悶死】もだえて死すること。
 もんし【門齒】前齒のこと。
 もんじ【文字】もじ。
 もんじやく【文籍】しよもつ。
 もんせき【門跡】法親王の住職たる寺。

もんせつ【悶絶】もだえて失心すること。
 もんせん【門前】門のまへ。
 もんせんばらひ【門前拂】遇はずに歸へすこと。
 もんだい【問題】題を興へて答へしむるもの。
 もんだふ【問答】たづねると、答ふると。
 もんち【門地】いへがら。
 もんちやく【悶着】もめごと。
 もんちゆう【問注】訴訟。
 もんちゆうじよ【問注所】鎌倉時代の裁判所のこと。
 もんつき【紋附】紋を染めぬきたる衣服。
 もんてい【門弟】でし。
 もんと【門徒】眞宗輩に歸依したる徒。
 もんどころ【紋所】家々の定紋。
 もんどり【翻筋斗】さかしまになりてかへること。
 もんない【門内】もんのうち。
 もんなし【文無】一文の金錢なきこと。
 モンバ【紋羽】綿布の一種。
 もんばい【門牌】門口のかけふだ。

もんばつ【門閥】門地に同じ。
 もんぼん【門番】門の番人。
 もんひ【門扉】門のとびら。
 もんぶく【紋服】紋のある衣服。
 もんぶしやう【文部省】文部大臣が教育事務をあつかふところ。
 もんぶだいじん【文部大臣】教育行政の單獨官府
 もんまう【文盲】あきめくら。
 もんろうしゆぎ【Mourne doctrine】他國の干渉をいれずとなす主義。
 もんそい【門衛】もんばん。

や

や【八】やつつのこと。
 や【屋】いへのこと。

や【矢】弓のや、箭とも書す。
 や【谷】たに。
 や【耶】うたがひの心を表はす字。亦おどろきの意。
 や【歟】前同。
 や【邪】前同。
 や【手】前同。
 や【哉】前同。
 ヤード【Yard】長さの單位(英國)之れをなまりて「ヤール」と云ふ。
 やあはせ【矢合】昔の戦ひに先矢を射合はしたることをいふ。
 やいふ【野遊】のあそび。
 やいぐし【焼串】やきぐしのこと。
 やいごめ【焼米】やきごめ。
 やいば【刃】兵器のこと。
 やいん【夜陰】やぶんのこと。
 やう【洋】なだのこと。又は西洋の略。
 やう【様】さま、やうす。

やう【瘍】一種のはれもの。
 やういく【養育】やしなひそだつること。
 やういくゐん【養育院】自立することを得ざる小兒老人を收容して養育するところ。
 やうえん【陽炎】かげらう。
 やうか【養家】養子に行きたる家。
 ようかう【洋行】西洋に行くこと。
 やうかく【羊角】旋風のこと。
 やうがく【洋學】西洋の學問。
 やうかん【羊羹】菓子的一種。
 やうき【陽氣】時候のこと。心はれんしくにぎやかなること。
 やうきはつするところきんせきまたとほる【陽氣發處金石亦透】心が一途に集注すれば何事にも出來るといふこと。
 やうきゆう【楊弓】弓を引きて遊ぶ具。
 やうきよく【陽極】電氣の一種。陰極の對。
 やうきん【洋琴】ピアノ。
 やうぎん【洋銀】銅と亜鉛とニッケルとの合金。
 やうくわ【洋貨】西洋の貨幣。

やうぐわ【洋畫】西洋風の畫。
 やうけい【養兄】養子にして自己より年長なる男子。
 やうげつ【陽月】十月のこと。
 やうけん【洋劍】サーベル。
 やうけん【洋犬】西洋種の犬。
 やうげん【伴言】いつはりの言。
 やうげん【揚言】こぼだかにいふこと。
 やうご【洋語】西洋の言語。
 やうごう【洋江】サボテンの蟲よりとりたるもの。西洋より來れる紅色の繪具。
 やうさう【洋装】洋服のよそおひ。
 やうさん【養蠶】かひこをかふこと。
 やうさん【洋傘】かうむり。
 やうさん【洋算】數字(アラビヤ)を書きて計算する方法のこと。
 やうじ【養子】養子縁組によりて子となりたるもの。
 やうし【洋紙】西洋の紙。

やうじ「楊枝」歯牙を掃除する具。
 やうしえんぐみ「養子縁組」親子の關係を成立せしむる法律行為。
 やうしき「様式」かたち。しかた。
 やうししよくぶつ「羊齒植物」しだ類の植物。
 やうじやう「養生」身體の衛生をはかること。
 やうしゆ「洋酒」西洋酒のこと。
 やうしゆん「陽春」一月のこと。
 やうしよ「洋書」西洋文字の書籍又は西洋の書籍。
 やうしよく「洋食」西洋料理。
 やうしん「養親」養子先の親のこと。
 やうじん「洋人」西洋人。
 やうす「様子」ありさま。
 やうせい「養成」やしなひそだつこと。
 やうそふ「養祖」父養親の父。
 やうそぼ「養祖母」養親の母。
 やうだい「容體」やうす、ありさま。
 やうだいがき「容體書」病氣の診斷書。
 やうたう「洋刀」サーベル。

やうとう「洋島」大洋中に在る島。
 やうちやう「羊腸」つゝらをりなる坂路。
 やうじよ「養女」養子となれる女子。
 やうてい「養弟」養子にして自己より年下のもの。
 やうでんき「陽電氣」電氣の一種、陰電氣の對。
 やうとう「洋燈」らんぶのこと。
 やうとうくはく「洋燈狗肉」外見のみ立派にて實は之れに伴はざると
 やうはく「洋白」洋銀。
 やうふ「養父」養家の父。
 やうふう「洋風」西洋風のこと。
 やうふく「洋服」西洋の衣服。
 やうぶん「養分」營養分。
 やうぼ「養母」養家の母。
 やうほん「洋本」西洋の書籍。
 やうほんつづり「洋本綴」やうとちのこと。
 やうめい「揚名」名をあげること。名實同じからざること。
 やうめいがく「陽明學」王陽明の主唱せし學問。

やうやう「洋々」一杯に満つること。
 やうやう「揚々」得意の様。
 やうやく「漸」しだい／＼に。
 やうらふ「養老」老人を養ふこと。
 やうらふほけん「養老保險」保險の一種。佛像の頭、頸、胸部などにかける飾り玉。
 やうらく「瓔珞」やなぎのこと。
 やうりう「楊柳」やなぎのこと。
 やうれき「陽曆」太陽曆のこと。
 やえい「野營」野外に陣營すること。
 やおと「矢音」矢の飛ぶ音。
 やおもて「矢面」矢の飛び来る面前。
 やかう「夜行」夜中行くこと。
 やがり「屋號」家の稱號。
 やがく「夜學」よる學問すること。
 やかず「矢數」射たる矢の數。
 やかす「家數」いへかず。
 やかた「屋形」邸宅のこと。
 やかたぶね「屋形船」船の上に屋根の形を設けたるもの。

やがて「躑」すなはち、まもなく。
 やがふ「野合」手續の不正當なる夫婦。
 やから「族」一族、なかま。
 やがら「矢柄」矢の幹のこと。
 やき「燒」やくこと。
 やぎ「野羊」反芻類の獸、肉と毛を利用す。
 やきいし「燒石」おんじやく。
 やきいも「燒薯」やきたるいも。
 やきいん「燒印」金屬にてつくりこれをやきて器物に捺すもの。
 やきう「野球」ベースボール。
 やぎり「野牛」野原に住する牛。
 やきうち「燒討」ひぜめにすること。
 やきぐし「燒串」魚肉をやく時に用ふるくし。
 やきぐり「燒栗」栗をやきたるもの。
 やきこて「燒鑊」火にやきて衣服などの皺をのばすに用ふるもの。
 やきさかな「燒肴」焼きたる魚肉。
 やきしほ「燒鹽」むしやきしたる鹽。

やきせきかり【焼石膏】石膏をやき、水分を去りたるもの。
 やきだんど【焼團子】團子のつけやき。
 やきつぎ【焼接】陶器のかけらを再びくすりにてつぐこと。
 やきつけ【焼剛】磁器などに模様等をやきつけること。
 やきどろふ【焼豆腐】豆腐をやきたるもの。
 やきとり【焼鳥】鳥肉をやきたるもの。
 やきはん【焼判】やきいんのこと。
 やきふ【焼駄】火にあぶりたる駄。
 やきふで【焼筆】杉箸をやきてすみとなせしもの。
 やきみやうばん【焼明礬】明礬をやきたるもの。
 やきめし【焼飯】飯をにぎりてやきたるもの。
 やきもち【焼餅】やきたる餅。ねたみ心のある人。
 やきもの【焼物】陶磁器類の如く焼きてつくりしもの。
 やぎやう【夜行】こるあるくこと。
 やき系【焼繪】やきこてにてやきて書きたるもの。

やきん【冶金】金屬をふきわくすること。
 やく【役】つとめ。
 やく【厄】さいなん。
 やく【約】約束のこと。
 やく【葯】雄蕊の先に着せるもの。花粉。
 やぐ【夜具】寝具のこと。
 やくおとし【厄落】きなんをのがるゝこと。
 やくか【薬價】くすりだい。
 やくかい【厄介】手数のかゝること。
 やくかい【譯解】翻譯してときあかすこと。
 やくかいもの【厄介者】人のせはになりおるもの。
 やくがく【薬學】薬を研究する學問。
 やくき【躍起】をどりたつこと。
 やくきよく【薬局】薬を調合する處。
 やくきよくせい【薬局生】調劑をなす人。
 やくけふ【薬莢】火薬を入れたる莢。
 やくげん【約言】ことばをつづめていふこと。
 やくこ【譯語】翻譯したることば。

やくさい【厄災】さいなん。
 やくざい【藥劑】くすりのこと。
 やくざいくわん【藥劑官】藥劑の事務をとる陸海軍の高等官。
 やくざいし【藥劑師】處方箋によりて調劑する人。
 やくさう【藥草】くすりになる草。
 やくし【藥師】衆生のうれひを救ふといふ如來。
 やくじ【藥餌】くすりとたべもの。
 やくしや【譯者】ほんやくしたる人。
 やくしや【役者】俳優のこと。
 やくしゆ【藥種】くすりの材料。
 やくしゆつ【譯出】ほんやくしだすこと。
 やくしゆや【藥種屋】薬を賣る家。
 やくしよ【譯書】翻譯したる書籍。
 やくしよ【役所】官公吏が事務をとる所。
 やくじよ【踞如】いき／＼しておどりたるさま。
 やくじう【約數】甲數を以て乙數を除して除し盡せし時乙數を甲數の約數といふ。
 やくせき【藥石】治療のこと。

やくせつ【約説】つづめていふこと。
 やくせん【躍然】おどりたつさま。
 やくそう【役僧】てらの事をあつかふ僧。
 やくそく【約束】ちひのこと。
 やくそくいりびん【東郵便】郵便局と特約して郵便物に對して一々切手を貼付せず或一定期間の後其數に應じて一時に料金を拂ふ手續。
 やくそくてがた【約束手形】債務者が一定の金額を支拂ふことを約束する手形、略して「やくて」といふ。
 やくだい【藥代】くすりだいのこと。
 やくだく【役宅】官舎。
 やくちやく【約定】約束を承知すること。
 やくちやく【約定】とりきめのこと。
 やくちやく【約定】とりきめのすみしと。
 やくとく【役得】役につれて餘計の收入あると。
 やくどく【藥毒】調劑したる藥中に含むどく。
 やくどし【厄年】さいなんありしとなせし年。
 やくなん【厄難】さいなんのこと。

やくにん【役人】一般に官公吏員のこと。
 やくば【役場】町村役場のこと。
 やくはらひ【厄拂】わざわいのぞくこと。
 やくびやり【疫病】流行病。
 やくひん【薬品】くすりのこと。
 やくぶつ【薬物】くすりとなるもの。
 やくぶつがく【薬物學】薬につき研究する學問。
 やくぶん【約分】分數の値を變ぜずして其形を簡單にすること。
 やくほ【薬舖】くすりや。
 やくみ【薬味】食物に添えて食用する香料類のこと。又薬の品類。
 やくめ【役目】つとめ。
 やくもだつ【八雲立】出雲の枕詞。
 やくより【薬用】くすりに用ふること。
 やぐら【櫓】昔城門の上におきて遠望用又は敵を防ぐ爲めにせしもの。
 やくれい【藥禮】おいしやに支拂ふ藥代。
 やくろろ【藥籠】くすりばこのこと。
 やくろん【約論】つゞめて論ずること。

やくわ【野花】野原にさける花。
 やくわい【夜會】西洋風の夜間の宴會。
 やくわいむすび【夜會結】東髪的一種。
 やぐわい【野外】のはら。
 やぐわいえんしふ【野外演習】のはらにて行ふ演習。
 やくわう【夜光】夜間光ること。
 やくわり【役割】各自に任務を定むること。
 やくわん【薬罐】しんちゆうどうにてつくり湯をわかす器。
 やくわん【扼腕】うてをさすること。さんれんがること。
 やくゐん【役員】會合、會社などにて事務をとるもの。
 やけあと【燒跡】火災のあと。
 やけい【夜景】よるの景色。
 やけいし【燒石】火にやけたる石。
 やけがし【燒焦】やけてこげること。
 やけど【火傷】火や熱湯の爲めに皮膚をそこなふこと。

やげふ【夜業】夜間執務すること。
 やげふとり【燒太】やけどのはれること。火災後富貴になること。
 やげやま【燒山】くさきのやけたる山。
 やげん【藥研】藥種類をこなにするための器具
 やこせん【野狐禪】禪を學ぶものが未だ未熟なるにも闕はらず自分丈け造詣深しと稱して自慢するものこと。
 やこたへ【矢答】射止めたる手答。
 やころ【失頃】矢を射るに都合よきほどあひのこと。
 やさい【野菜】あをもの。
 やさがし【家搜】家中を搜索すること。
 やさがた【優形】やさしきすがたのこと。
 やさげび【矢叫】射たる矢に手答ありし時叫ぶ聲
 やさをとこ【優男】やさしきをとこ。
 やし【野史】民間にてつくりし歴史。
 やし【野師】香具師のこと。
 やし【椰子】棕櫚科の植物。

やじうま【彌次馬】人の後につきてきわまわるもの。
 やしき【屋敷】一區域をなせる内に建て構たる居宅。
 やしふ【夜襲】ようちのこと。
 やしほ【八入】よく染むること。
 やしう【八洲】おほやしまに同じ。
 やしや【夜叉】梵語、獠猛なる鬼神。
 やしやこ【玄孫】曾孫の子。
 やじより【野乘】野史に同じ。
 やしよく【夜食】晩飯、又は夜間に更に食すると
 やしよく【夜色】夜景。
 やじり【躰】やれのこと。
 やしろ【社】ほこらのこと。
 やしん【野心】たくらみ。
 やじん【野人】ゐなかももの。
 やす【筭】魚を捕ふる具。
 やすらげあひ【安請合】よく考ふことをせてやすく請合ふこと。

やげふ — やすらげあひ

やすて【馬陸】多足類の動物。
 やすね【安直】れだんのやすきこと。
 やすみ【休】休日。
 やすもの【安物】やすき粗悪なるもの。
 やすり【鑑】鋸の目立て又は金類をすりつぶすに用ふる具。
 やせ【瘠】やせること。瘦も同じ。
 やせい【野生】自然山野にはえること。又自稱の卑下。
 やせがた【瘦形】やせたるすがた。
 やせがまん【瘦我慢】強いてがまんをすること。
 やせじよたい【瘦世帯】貧乏世帯。
 やせち【瘦地】地味悪しきところ。
 やせん【野戦】野原に於ける戦事。
 やせんいうびん【野戦郵便】戦争の時臨時戦地に設けたる郵便
 やせんはら【野戦砲】野戦用の大砲。
 やせんべらるん【野戦病院】戦争の時後方において負傷者に手當をなす病院。

やせん【夜前】昨晚のこと。
 やそけふ【耶蘇教】キリスト教のこと。
 やそしま【八十島】澤山の島。
 やたい【屋臺】屋根付臺。
 やたいみせ【屋臺店】とこみせ。ろてん。
 やだいじん【矢大神】ざねじんのこと。
 やたがらす【八咫鳥】神武天皇御東征の時路案内せしといふからす
 やたけに【彌猛】いやましにいさむこと。
 やたて【矢立】墨つぼと筆入れもありて携帯することを得るもの。
 やちくさ【八千草】多くの草木。
 やちまた【八千衢】おほくのみち。
 やちよ【野猪】おのしよ。
 やちん【家賃】借家賃。
 やつ【奴】人を卑下していふ語。
 やつあし【八脚】八脚の白木の机。
 やつあたり【八當】誰れにでもあらくしくあた

やつか【八束】たけの長きこと。
 やつがしら【八頭】さといもの一種。俗名。
 やつがれ【僕】自分のこと。
 やつぎ【矢繼】矢を弓につぐこと。
 やつくち【八口】きもの脇あき下のこと。身やつくちと袖やつくちとあり
 やづくり【家作】家をつくること。
 やつこ【奴】しもべ。
 やつこどうふ【奴豆腐】豆腐をなまのまゝ小さき方形にきりしたじをつけて食するもの。
 やつぎぎ【八裂】寸断のこと。
 やつづつ【矢筒】矢をさすつゝ。
 やつて【八手】五加科の植物。觀賞用。
 やつとこ【鉄】熱したるもの亦是強くはさむときに用ふる具。
 やつばら【奴儕】大勢のものをいやしめていふと
 やつばり【矢張】やはりのこと。
 やつぼ【矢壺】やづい。
 やつめろなぎ【八目鰻】圓口類の魚、食用。

やつよ【彌世】年ふること。
 やつれ【襪】やつれること。
 やど【宿】すめる家のこと。
 やどがへ【宿替】轉居。
 やどかり【宿借】借家すること。
 やどかり【寄居蟲】甲殻類の動物、他の動物のから中に棲むを以て此の名あり
 やどせん【宿銭】はたごせん。
 やどちん【宿賃】前同。
 やどなし【宿無】定住するところなきもの。
 やとひ【雇】やとふこと。
 やとひまり【雇切】永く絶えず雇ふこと。
 やとひにん【雇人】やとはれてつかはるゝ人。
 やとひぬし【雇主】雇人を使ふ人。
 やどひき【宿引】宿屋より下男などを出だして客を引くこと
 やどや【宿屋】はたごや。
 やどろく【宿六】亭主のことを其妻がいふ。
 やどわり【宿割】宿すべきやどを指定すること。

やな 「築」 魚を抽ふる爲めに水中に立つる木。
 やながは 「柳川」 どちやうなべのこと。
 やなぎ 「柳」 楊柳科の植物。用材。
 やなぎいろ 「柳色」 白青色。
 やなぎかりり 「柳行李」 柳にてつくれる行李。
 やなぎだる 「柳樽」 柄樽の如きをいふ。
 やなぎのいと 「柳糸」 柳の枝の細長きをいふ。
 やなぎのいとなみ 「柳營」 りうえい。
 やなぎのまゆ 「柳眉」 美人のまゆ。
 やなぐひ 「胡籙」 矢を入れて背負ふ具。
 やなせ 「築瀬」 やなをわたしたる川瀬。
 やなり 「矢並」 矢ならび。
 やなり 「家鳴」 家のなること。
 や に 「脂」 煙草より生じ煙管に附着せる液。又は樹木より分泌せし液。
 やには 「矢場」 矢を射る場所。
 やぬし 「家主」 家の持主。
 や ぬ 「屋根」 屋上の雨露をふせぐためにふけること。

やぬいた 「屋根板」 屋根葺用小板。
 やぬふね 「屋根船」 屋根船ある。
 やのあさつて 「明々後日」 あさつて、やなあさつて。
 やのさいそく 「矢催促」 度々のさいそく。
 やのじ 「やの字」 帯の結び方。
 やのね 「矢根」 矢の先端につけて物に打込む様につくれるもの。
 や ば 「矢場」 弓をいるところ。
 やばい 「野梅」 野原に生え居る梅。
 やはう 「野砲」 野戦砲のこと。
 やはぎ 「矢矧」 矢をつくる人。
 やはず 「弓筈」 弓の頭のつるをつくるところ。
 やはら 「柔」 柔術のこと。
 やはらとり 「柔取」 柔術のこと。柔術を知れる人のこと。
 やはり 「矢張」 そのまゝなほも。
 やはん 「夜半」 よなかのこと。
 やばん 「夜番」 よばんのこと。

やばん 「野蠻」 人智開らけぬこと。
 や ひ 「野鄙」 いやしきこと。
 や ふ 「藪」 草木などの生ひたる所。
 やふい 「藪醫」 醫術の拙なき醫者。
 やふいり 「藪人」 一月七月の十五、十六日雇人が里歸りをなすこと。
 やふか 「藪蚊」 藪のある所に多き蚊。
 やふからし 「藪枯」 葡萄科の植物。
 やふだたみ 「藪疊」 藪のしげりたる所。
 やふいらみ 「藪瞰」 瞳の正面を見ざる眼。
 やふへび 「藪蛇」 餘計なる事をなして反つて夫れが不利となること。
 やふさか 「吝嗇」 けちなること。
 やふさめ 「流鏑馬」 馬に乗り走りつゝ的をいると
 やふみ 「矢文」 矢に結びて敵陣に便りすること
 やふれ 「破」 やぶること。
 やふん 「夜分」 よるといふこと。
 や へ 「八重」 多く重なること。
 やへがき 「八重垣」 幾重にもゆひたるかき。

やへぐも 「八重雲」 幾重にも重なれるくも。
 やへざくら 「八重櫻」 櫻の一種。
 やへのしほち 「八重湖路」 はるけき海。
 やへば 「八重齒」 普通の齒の上に更に齒ぐきの途中より出で、重なれる齒。
 やへむぐら 「八重葎」 茜科の植物。
 やへやま 「八重山」 多く重なれる山。
 や ぼ 「野暮」 ぶこつものゝこと。
 やほちやう 「八百長」 互に相談しおきし相撲。
 やほや 「八百屋」 野菜類を賣る人。
 やほよろよ 「八百萬」 數の多きこと。
 や ま 「山」 土地の隆起したるもの。
 やまあらし 「山嵐」 嶽より吹き起るあらし。
 やまあらざ 「山蘭」 こぶし。
 やまある 「山藍」 大戟科の植物染料用。
 やまいぬ 「山犬」 食肉 性猛悪。
 やまうら 「夜盲」 とりめ。
 やまうつき 「山空木」 虎耳草科の植物。
 やまうば 「山姥」 山奥に棲むといふ女の怪物。

やまおろし【山嵐】山上より吹きせろすかぜ。
 やまかがし【赤棟蛇】蛇の一種。
 やまかこ【山駕籠】山路に用ふるかこ。
 やまかせ【山風】山上より起る風。
 やまかせぎ【山稼】山にはたらきに行く人。
 やまがそだち【山家育】山家にて生長すること。
 やまがた【山形】山の形をなせるもの。
 やまがたな【山刀】なたの如き刃物。
 やまがたつ【山賤】山中にすむ賤しき人。
 やまがに【山蟹】山間にすむかに。
 やまかは【山川】山間をながれるかは。
 やまかはぎけ【山川酒】白酒のこと。
 やまがら【山雀】燕雀類の鳥。
 やまがらす【山鴉】みやまからすのこと。
 やまがりう【山鹿流】山鹿素行を始祖とする兵法
 やまかんむり【山冠】漢字の冠の名。
 やまぎ【山氣】投機心のこと。
 やまぎり【山桐】あぶらぎりのこと。
 やまくぢら【山鯨】あしのし。

やまぐづれ【山崩】ふもとの地盤ゆるみてやまの
 くづること。
 やまごぼう【山午夢】商陸科の植物、葉を食用と
 す。
 やまざくら【山櫻】櫻の一種。
 やまざと【山里】山間の入里。
 やまし【山師】投機心よりの仕事をなす人。
 やまじほ【山鹽】岩鹽。
 やませり【山芹】ぼうふうのこと。
 やまだし【山出】山より材木などを出すのこと。
 やまいも【山芋】山のいも。
 やまて【山手】やまのて。
 やまでら【山寺】山中の寺。
 やまと【大和】日本國の別名。
 やまとうた【大和歌】三十一字のうた。
 やまとがな【大和假名】かたかな。
 やまところ【大和心】やまとだましひのこと。
 やまことば【大和詞】日本の言語。

やまとしまね【大和島根】日本國の一名。
 やまとだましひ【大和魂】日本人の固有の忠孝節
 義を尊重する精神のこと。
 やまととち【大和綴】書物に穴をうがら糸を通し
 て二ヶ所綴る仕方、一般に優美なり
 やまとみんぞく【大和民族】萬世一系の天皇を其
 祖とする民族、即日本民族の大部。
 やまどり【山鳥】鶉類の鳥、尾長し。
 やまのかみ【山神】妻君をあざけりていふ。
 やまのすそ【山裾】山麓と同じ。
 やまのて【山手】山麓に近き方又は其上位する土
 地。
 やまぼと【山鳩】山に棲めるはと。
 やまひ【病】健康ならざること。
 やまひこ【山彦】こだまのこと。
 やまひだれ【疾垂】漢字の冠の名。
 やまひめ【山姫】山を守る神女。
 やまびる【山蛭】蛭の一種深山に棲す。
 やまぶき【山吹】薔薇科に屬する植物。觀賞用。
 やまぶきいろ【山吹色】黄色。

やまふし【山伏】修験者のこと、今はなし。
 やまべ【山邊】山の近邊のこと。
 やまほととぎす【山時鳥】山にすむほととぎす。
 やまぼらし【山法師】延暦寺の僧を云ひたり。
 やままゆ【山繭】山繭蛾の幼蟲のこと。
 やままゆおり【山繭織】やままゆのまゆより取り
 し糸にておりたるもの。
 やまみち【山路】山中の途路。
 やまもも【山桃】楊梅科の植物。
 やまもり【山守】山の番人。
 やまわけ【山分】二つにわけること。
 やまをとこ【山男】深山に棲めるといふ怪しき男
 やみ【闇】くらきよる。
 やみあがり【病後】病癒えたれど未だ程經ぬこと
 やみらち【闇討】闇夜にまぎれて不意討をなすと
 やみかへし【病返】病の再びふりかへすこと。
 やみぢ【闇路】やみよの路。
 やみつぎ【病附】やまひにかゝること。
 やみよ【闇夜】くらきよる。

やめ 「矢目」 矢の立ちし穴。
 やもめ 「嬬」 夫のなき婦人。
 やもり 「守宮」 蜥蜴の動物。
 やもを 「鰥夫」 妻なき人。
 やや 「稍」 少しづつだんづ。
 やゆ 「擲擧」 からかふこと。
 やよひ 「彌生」 三月のこと。
 やらひ 「矢來」 入り来るをふせぐ意。竹にてつくれるくれ。
 やらい 「夜來」 二三日夜このかた。
 やらう 「野郎」 男子を見下げていふの、しりの言語。
 やり 「槍」 つく爲めの武器。
 やりくり 「遺練」 いろ／＼工夫すること。
 やりくりさんだん 「遺練算段」 やりくりの工夫のやりこめる「遺込」 いひこめること。
 やりだま 「槍玉」 槍を以てつかれるもの。
 やりづかひ 「槍遣」 槍術に達せる人。

やりて 「遺手」 なす人。物を與ふる人。手腕ある人。
 やりど 「遺戸」 ひきど。
 やりみづ 「遺水」 ながしみず。
 やりもち 「槍持」 武家時代に主人の槍を持ちて従ふもの。
 やるせ 「遺瀬」 自分の思ふ通りにするすべ。心のやすまること。
 やれ 「破」 やぶれ。
 やれがき 「破垣」 破れたる垣。
 やくろう 「藥籠」 薬を入るゝもの。
 やわ 「夜話」 夜集まりて談話すること。
 やくろう 「藥籠」 薬を入れしもの。
 やわ 「夜話」 夜集合して談話すること。
 やんどとなき 「止事無」 據所なくの意。



ゆ 「柚」 ゆずのこと。
 ゆ 「湯」 水をわかしたるもの。
 ゆ 「從」 より。から。
 ゆあか 「湯垢」 釜鐵瓶等凡べて湯をわかしたるある器の内面に附着する垢。
 ゆあがり 「湯上」 入浴より出てたること。
 ゆあみ 「湯浴」 入浴すること。
 ゆう 「勇」 つよきこと。
 ゆう 「雄」 をす、すぐれること。
 ゆうかい 「融解」 とくること。
 ゆうがふ 「融合」 とりあはさること。
 ゆうかん 「勇敢」 きつくして敢てなすこと。
 ゆうかん 「勇悍」 いさましきこと。
 ゆうき 「勇氣」 いさましき氣。
 ゆうくわ 「雄花」 雄蕊のみにて雌蕊を有せぬ花。
 ゆうけつ 「雄傑」 すぐれたること。
 ゆうけん 「勇健」 きつく達者なること。
 ゆうこん 「雄渾」 いさましくしてよどみなきこと。
 ゆうさう 「勇壯」 いさましくさかんなること。

ゆうし 「雄姿」 をよしきすがた。
 ゆうし 「勇士」 つよき人。
 ゆうしやう 「勇將」 きつき大將。
 ゆうしん 「雄心」 をよしき心。
 ゆうずゐ 「雄蕊」 雄花中にある生殖器の一種。
 ゆうせん 「勇戦」 いさましく戦争すること。
 ゆうたい 「勇退」 みれんをのこさず職をひくこと。
 ゆうだい 「雄大」 をよしく大なること。
 ゆうだん 「勇斷」 決斷くづ／＼せぬこと。
 ゆうづう 「融通」 とゞこほりなくとほること。相通はすこと。
 ゆうと 「勇圖」 をよしきはかりごと。
 ゆうひ 「雄飛」 數多の人の中に巾をきかすこと。
 ゆうふく 「裕福」 とめること。ゆたか。
 ゆうべ 「昨夜」 昨日の夜のこと。
 ゆうへん 「雄篇」 多にすぐれてよくできたる篇。
 ゆうべん 「雄辯」 辯のよどみなく上手なること。
 ゆうぼう 「勇猛」 もにおそれぬこと。
 ゆうりよく 「勇力」 いさましき力。

ゆえん【由縁】ゆかり。
 ゆえん【油煙】やに。あぶらなどを空気の供給
 少なき處にて燃やす時生ずるもの。
 ゆか【牀】疊を敷込む下の板の間。
 ゆかいた【牀板】牀をはる板。
 ゆかり【柚柑】ゆずの一種。
 ゆがけ【弓懸】革製弓弦を引くときに用ふ。
 ゆかした【床下】床の下。
 ゆかた【浴衣】入浴の前後きる衣服。
 ゆがふ【癒合】はなれしものが互につくこと。
 ゆがみ【歪】正しからざる形になること。
 ゆかり【縁】えんしるべ。
 ゆさ【衿】脊縫より袖口までの長さのこと
 ゆさ【雪】氷蒸氣の空際に於て冷えて凝凍
 したるもの。
 ゆぎ【鞞】矢を入るゝ器。
 ゆきあかり【雪明】雪降りつもりて夜も其爲めに
 明るきこと。
 ゆきあひ【行合】ゆきあふこと。
 ゆきうち【雪打】ゆきなげのこと。

ゆきおろし【雪下】風が山及び樹上より雪をふき
 おろすこと。
 ゆきがけ【行掛】行くついでのこと。
 ゆきかひ【行交】ゆきかふこと。
 ゆきさき【往來】往來すること。
 ゆきぐも【雪雲】雪降らず雲あい。
 ゆきび【雪氣】ゆきふらんず空もやう。
 ゆきび【雪消】ゆきとげのこと。
 ゆきすぐ【行過】通りこすこと。
 ゆきぞら【雪空】雪の降らんずる空模様。
 ゆきだふれ【行倒】路ばたにたふれて死すること
 ゆきだるま【雪達磨】雪をもてつくりしだるま。
 ゆきちがひ【行違】ゆきちがふこと。
 ゆきつまり【行詰】挨拶に困ること、道の行止ま
 ること。
 ゆきどけ【雪解】ゆきのとけること。
 ゆきなだれ【雪積】ゆきのくづれおつること。
 ゆきなり【行也】突然、直接、放任。
 ゆきッした【雪下】虎耳草科植物、觀賞用。

ゆきひら【行平】なべの一種。
 ゆきふり【雪降】ゆきのふりつゝあること。
 ゆきまばろし【雪轉】ゆきのふれる時雪を集めて
 團子をつくり之れをころかして漸次
 に大きくすること。
 ゆきみち【行道】正に行かんとする道
 ゆきもどり【行戻】往復のこと。
 ゆきもより【雪模様】雪のふりさうなる空あひ。
 ゆぎやう【遊行】あんぎやのこと。
 ゆきわたる【行渡】全部にあまれくとゞく。
 ゆきをれ【雪折】樹枝に雪降りつもりて其重みに
 ておれること。
 ゆくさき【行先】行く方。將來のこと。
 ゆくす系【行末】これから後のこと。
 ゆくて【行手】行先に同じ。
 ゆくへ【行方】行かんとする方。
 ゆくゆく【行々】ゆきなながら。
 ゆくわい【愉快】こゝろもちよきこと。
 ゆび【湯氣】蒸氣のこと。

ゆげん【諛言】へつらふことば。
 ゆこく【諭告】さとすこと。
 ゆざめ【湯冷】沐浴したる後身體の冷えること
 ゆさん【遊山】あそびにゆくこと。
 ゆし【諭示】さとすこと。
 ゆし【諭旨】さとしきかすること。
 ゆしめんくわん【諭旨免官】さとして辭職させる
 こと。
 ゆしゆつ【輸出】外國に賣出すこと。
 ゆしゆつゆにふ【輸出入】輸出と輸入のこと。
 ゆず【柚子】芸香科の植物。
 ゆすり【搖】人をおどして金錢物品を取ると
 ゆせん【湯錢】湯屋に至りて入浴する料金。
 ゆそつ【輸卒】食料彈藥等を運搬する兵卒。
 ゆたか【豊】ありあまること。
 ゆたつ【諭達】官よりのおさとし。
 ゆだぬ【委】まかせること。
 ゆだやけり【猶太教】猶太人の信奉する宗教。
 ゆだん【油斷】不注意のこと。

ゆたん「油單」單筒長持などにかける布。
ゆだんたいてき「油斷大敵」不注意より大事の生
把するものなることをいふ。

ゆたんぼ「湯婆」陶器製器中に湯を入れて暖をと
るもの。

ゆづろ「融通」彼は互に通じ合ひて間にあはせ
ること、ゆうづうに同じ。

ゆづか「弓束」ゆみつかのこと。

ゆつたり「寛」ゆるやかなること。

ゆづり「讓」他にゆずること。

ゆづりは「讓葉」大戟科の植物。

ゆづりわたし「讓渡」他人にゆづり渡すこと。

ゆづる「弓弦」弓のつる。

ゆであづき「茄小豆」あづきをゆでたるもの、食
用。

ゆでこぼす「茄溢」ゆで汁をこぼしきること。

ゆとろ「湯桶」湯を入れ置く器。

ゆどうふ「湯豆腐」豆腐を湯にてにたるもの。

ゆどの「湯殿」ふるばのこと。

ゆとり「裕取」よゆうをとること。

ゆに「湯煮」さゆにてにること。

ユニテリアン「Unitarian」耶蘇教の一派。

ゆにふ「輸入」外國より物品を買入ること。

ゆのし「湯熨」布の皺を直すに湯にしめして熨
すこと。

ゆのはな「湯花」温泉中に含有すス礦物分の洗滌
もしくは残留したるものゆばな。

ゆのみ「湯呑」湯をのむに用ふる茶碗。

ゆのみば「湯呑場」湯を呑むところ。

ゆば「湯葉」一種の食料品佛事などに用ふ。

ゆば「湯場」浴場のこと。

ゆはず「弓筈」弓のつるを附くる部分。

ゆはたおび「結肌帶」岩田帶のこと。妊娠九ヶ月
目にしめる帶。

ゆばな「湯花」ゆのはなに同じ。

ゆばり「尿」小便。

ゆび「指」手足の脚の先きに五つづゝ分け
て附着せるもの。

ゆびさす「指差」指にて示すこと

ゆびすまふ「指相撲」拇手を以て互におさへ合ふ
一種のあそび。

ゆひなふ「結納」縁組のまとまりし時其しるしと
して金品の取りかはしをなすと

ゆひぬき「指貫」裁縫をなす時にはめるもの。

ゆひはめ「指嵌」ゆびぬきゆびわのこと。

ゆびわ「指環」ゆびはめのこと。

ゆふ「夕」ひぐれ方。

ゆふかげ「夕影」夕日影のこと。

ゆふがほ「夕顔」葫蘆科の植物。

ゆふがほだな「夕顔棚」ゆふがほを這はする棚。

ゆふさ「結城」下總の地名又はつむぎなどの略
にもいふ。

ゆふぐれ「夕暮」日くれがた。

ゆふけい「夕景」くれがた。

ゆふげしき「夕景色」夕方のけしき。

ゆふけぶり「夕煙」夕方の食事を炊ぐ時の煙。

ゆふこく「夕刻」夕方に同じ。

ゆふしほ「夕潮」夕方のさしほ。

ゆふすずみ「夕涼」夕方戸外に出て涼むこと。

ゆふだち「夕立」夕立雨の略。

ゆふつかた「夕方」夕方のこと。

ゆふなぎ「夕和」夕方風なきて海面鏡の如きをい
ふ。

ゆふね「湯船」湯場の湯をたぐえおく長方形の
所。

ゆふばえ「夕榮」ゆふやけのこと。

ゆふはん「夕飯」夕の御飯。

ゆふひ「夕日」夕方の入日。

ゆふべ「昨夜」前日の夜のこと。

ゆふまぐれ「夕間暮」夕ぐれのこと。

ゆふやけ「夕焼」夕榮のこと。

ゆふやみ「夕闇」日暮れ方月なくくらきこと。よ
ひやみ。

ゆまさ「湯巻」婦人の腰巻。

ゆみ「弓」矢をいる器。

ゆみづ「湯水」ゆと水のこと。

ゆみづる「弓弦」弓につくること。

ゆみとり「弓取」武士のこと。

ゆみはりちやうちん「弓張提燈」提燈の一種なり

ゆみふくろ「弓袋」弓を入れるふくろ。

ゆみやはちまん「弓矢八幡」武士の誓言。
 ゆめ「夢」睡眠中の現象。
 ゆめうつつ「夢現」よくはつきりわからぬこと。
 ゆめがたり「夢語」夢中の現象をゆめさめて後に語ること。
 ゆめぢ「夢路」ゆめを見て居る途中のこと。
 ゆめのうきはし「夢浮橋」夢路。
 ゆめのよ「夢世」無常なる世といふこと。
 ゆめばかり「夢計」すこしのこと。
 ゆめまくら「夢枕」夢をみておる間の枕邊のこと
 ゆめまぼし「夢幻」物事のはかなきこと。
 ゆめゆめ「努々」決しての意。
 ゆもと「湯本」湯のわき出づる本源。
 ゆや「湯屋」ふろば。洗湯を營業とする家のこと。
 ゆゆし「山々」一大事のこといましくしきこと
 ゆらい「由來」物の來歴。元來。
 ゆらゆら「搖々」あちこちとゆらぐこと。
 ゆり「百合」百合科の植物、觀賞及食用。

ゆりおこす「搖起」ゆすりておこすこと。
 ゆりかへし「搖返」二再地震の後をついて來ると
 ゆわわす「湯沸」早く湯を沸すに用ふ。
 ゆるつ「唯一」夫れ唯一つのこと。
 ゆるかい「遺誠」死にのぞんでいましめをいひの
 こと。
 ゆるがどくそん「唯我獨尊」唯自分のみすぐれた
 りと思ふこと。
 ゆるがろん「唯我論」自己より外に何物も存在せ
 ぬといふ説。
 ゆるどん「遺言」死にのぞみていひのこすことば
 ゆるしよ「山緒」由來のこと。ゆかりのこと。
 ゆるしんろん「唯心論」自然の本質は精神などい
 ふ説。
 ゆるぶつろん「唯物論」自然の本質は物質なりと
 いふ。
 ゆるぶつ「遺物」かたみひん。
 ゆえん「故」理由。すぢ。
 ゆえん「所以」ゆえの音便。

よ

よ「世」せけんのことくにのこと代のと
 よ「予」われのこと。余も同じ。
 よ「餘」あまり。
 よ「夜」よるのこと。
 よードカリ「沃度加里」ヨードカリウムのこと。
 よードチンキ「沃度丁幾」沃素をアルコホルに溶
 かしたるもの。
 よあろ「餘殃」積不善の結果として來る災難。
 よあかし「夜明」徹夜のこと。
 よあけ「夜明」よのあけがた。
 よあけのみやらじやう「夜明星」よあけがた東
 天に輝ける并強き星。
 よあそび「夜遊」夜あそぶこと。
 よあらし「夜嵐」夜ふくあらし。
 よいん「餘音」あとにのこること。

よ「用」用事のこと。
 よ「う」さなぎのこと。
 よ「う」筒」手足の動き得る人形。
 よ「う」癩」はれものゝ一種。
 よ「う」い」容易」やすきこと。
 よ「う」えき」溶液」一種の液體に他の物質のとけた
 るもの。
 よ「う」かい」容喙」かたはらより口を出すこと。
 よ「う」かい」溶解」とけること。
 よ「う」がん」熔岩」火山の噴出したるもの。
 よ「う」き」容器」物品を入るゝうつは。
 よ「う」きぐわ」用器畫」器械を用ひてかく畫。
 よ「う」だつ」用立」役立つこと。又貸興へること。
 よ「う」だん」用談」用事のはなし。
 よ「う」だんす」用箆筒」小さきたんす雜品入。
 よ「う」ち」夜討」夜に乗じて敵を討つこと。
 よ「う」ち」用地」入用の土地。
 よ「う」ちよう」響懲」うちこらすこと。
 よ「う」と」用途」用ひみちのこと。

ようど【用度】ものいり。
 ようなし【用無】入用ならざる事。
 ようにん【傭人】やとひにん。
 ようりつ【擁立】たすけて即位せしむること。
 ようりやう【容量】かさのこと。
 ようれい【用例】用ひし例のこと。
 よか【余暇】いとま。
 よかい【豫戒】前以ていましむること。
 よかう【餘香】あとにのこりし香氣。
 よかぜ【夜風】夜ふくかぜ。
 よかん【餘寒】寒あけ後のさむさ。
 よき【豫期】あらかじめ期すること。
 よぎ【夜着】寢具のこと。
 よぎしや【夜汽車】夜行の汽車。
 よきよう【餘興】一定の仕事の外になぐさみに催すもの。
 よきん【預金】金銭を銀行等にあづけること。
 ようぎ【容儀】みなのこと。
 ようけん【用件】ようじのこと。

ようげん【用言】文法上の語、語尾の變化することばをいふ。
 ようご【用語】用ふることば。
 ようご【擁護】まもること。
 ようざい【川材】用ふる材料。
 ようし【容姿】すがた。
 ようし【用紙】用ふる紙。
 ようじ【用事】なすべき仕事のこと。
 ようしや【用捨】用ふることを捨てること。
 ようしや【容赦】ゆるすこと。
 ようしよく【容色】みめかたち。
 ようじん【用心】氣をつけること。
 ようじんぼう【用心棒】戸じまりをなすに用ふる棒。
 ようす【容子】様子に同じ。
 ようすゐ【用水】田畑に灌漑する爲めに供ふる堀。
 ようせき【容積】立方體の積。
 ようせん【涌泉】わきいでたるいづみのこと。
 ようだい【容體】みなのこと又病氣の様子のこと。

ようだいがき【容體書】病氣の様子をかきたるかきつけ。
 ようたし【用達】御用商人のこと。
 よく【慾】ほしがる心。
 よく【翌】あくる日のこと。
 よく【避】さけること。
 よく【翼】つばさ。
 よくあさ【翌朝】あくるあさ。
 よくあつ【抑壓】おさへつくること。
 よくい【浴衣】ゆかた。
 よくかく【浴客】入浴する人。
 よくきう【欲求】ほしがる心。
 よくげう【翌曉】あくるあさ。
 よくげつ【翌月】あくるつき。
 よくご【浴後】入浴ののち。
 よくさう【浴槽】ゆぶね。
 よくさん【翌賛】たすけること。
 よくし【抑止】おさへとむること。
 よくじつ【翌日】あくる日。

よくじやう【慾情】ほしがること。
 よくじやう【沃壤】こえたる土地。
 よくしん【慾心】ほしがること。
 よくせい【抑制】おさへせいすること。
 よくせう【沃饒】こえたる土地。
 よくせき【翌夕】あくるゆう。
 よくてう【翌朝】あくる朝。
 よくど【沃土】肥えたる土地。
 よくとく【慾得】ほしがることとくをとること。
 よくねん【翌年】あくるとし。
 よくねん【慾念】ほしがること。
 よくねん【翌年】あくる年。
 よくばう【欲望】求めんとすること。のぞみのこと。
 よくばり【慾張】多くほしがること。
 よくばん【翌晩】あくるばんのこと。
 よくふか【慾深】必要の度以上に多くほしがること。

よくめ【慾目】自分の同情して居る心より見ること。
 よくや【沃野】こえたる平地。
 よくや【翌夜】あくるばんのこと。
 よくや【抑揚】あげさげの見合。
 よくよく【能々】やむを得ざる事。
 よくよく【抑々】おちつきたる貌。
 よくりう【抑留】おさへてとめおくこと。
 よくわ【豫科】本科の準備としてある科。
 よくわ【餘光】おかげのこと。
 よけい【餘慶】積善の結果として来る善報。
 よけい【餘計】餘分のこと。
 よげん【豫言】將來を推量していふこと。
 よこ【横】左右のひろがり。
 よこ【豫後】病氣を診断せし後の経過のこと。
 よこあひ【横間】かたはらのこと。局外のこと。
 よこいと【横糸】織物のよこに入る糸。
 よこしま【邪】正しからざる事。
 よこずち【横筋】よこのすぢ。
 よこたて【横縦】よことたて。

よこづげ【横附】船や車などを横につけること。
 よこづな【横綱】白麻の繩にしてをたしたれもの。力士の社會に於て最も技倆のすぐれたるもの。
 よこづら【横面】よこがほ。
 よこて【横手】横のこと。
 よこと【夜毎】まいばんのこと。
 よことち【横綴】よこにとづること。
 よこどり【横取】途中より奪ふこと。
 よこなぐり【横投】子供などが其袖の部分をもて鼻しるを拭ふこと。又横さまに書きはしらすこと。又横さまになぐること。
 よこばひ【横這】蟹などの如く横に這ふこと。
 よこぶえ【横笛】横に吹く笛のこと。
 よこみち【横路】眞直なる道の左右に出づる道。正しからぬことにもいふ。
 よこむき【横刈】側面へむくこと。
 よこめ【横目】わき見をなすこと。秋波。
 よこもじ【横文字】歐文字のこと。

よこもの【横物】反物にて横にのみ絹糸のあしきをもて織りたるもの。
 よこやり【横槍】關係なきものが傍よりものをいひ出すこと。
 よこる【汚】不潔になること。婦人の月經時に入る事。
 よこめ【汚目】きたなくなりたるさまのこと。
 よこれもの【汚物】不潔なるもの。
 よざい【餘罪】一罪悪の外にまだある罪のこと。
 よざい【餘財】あまれる財産。
 よさう【豫想】前以てよりの想像。
 よさうぐわい【豫想外】おもひのほか。意外なるにいふこと。
 よさむ【夜寒】夜の寒さのこと。秋季時候にいふ。
 よさん【豫算】あらかじめ入費の計算。
 よさんあん【豫算案】未だ制規の手續を経ざる豫算書。
 よさんぐわい【豫算外】豫算に計上せざる以外のこと。

よさんてうくわ【豫算超過】豫算額を超過すること。
 よし【葦】あしのこと。沼澤等に生へる植物。
 よし【蘆】前同。
 よし【由】ゆゑ、いはれ、由来。
 よし【縦】よしや、たとひ。
 よし【餘事】ほかのこと。
 よしきり【葦切】燕雀類に屬する鳥。
 よしきり【葦簾】葦製のすだれ。
 よしきり【葦簾張】よしずを以て周圍をかこひたる小屋。
 よしつ【餘日】餘る日のこと。
 よしがみ【吉野紙】大和の吉野より産するかみやしのくず【吉野葛】大和の吉野地方より産するくず。
 よしのざくら【吉野櫻】大和の吉野に多き櫻。
 よじやう【餘情】なごりのおもむき。
 よじやう【餘剩】あまりのこと。
 よじやう【興乗】のりもの。

よしん【豫審】 犯罪を明かにする爲めに一切の事實を審理すること。
 よじん【餘燼】 もえのこりの火のこと。
 よしんてい【豫審廷】 豫審をなす法廷。
 よしんはんじ【豫審判事】 豫審に關する手續を執行する判事。
 よすが【縁】 たよりのこと。
 よすから【終夜】 よどほしのこと。
 よすてびと【世捨人】 僧侶のこと。
 よせ【寄】 ちなむこと。ことよせること。
 よせい【餘生】 餘命のこと。
 よせき【寄木】 よせぎざいくの略。
 よせぎざいく【寄木細工】 色々の材を集めて一つの箱類などをつくと
 よせざん【寄算】 加法のこと。
 よせせき【寄席】 にはおし、講談等を催して人を集むる小屋。
 よせて【寄手】 攻め寄せてくる敵軍のこと。
 よせん【豫選】 あらかじめえらぶこと。
 よせん【餘喘】 餘生に同じ。

よそ【餘所】 ほかのこと。
 よそく【豫測】 前以てはかること。
 よそごと【餘所事】 關係なきこと。
 よそながら【乍餘所】 餘事ながら或は間接に。
 よそひ【装】 つくること。
 よそみ【餘所見】 わきみをする事。
 よみめ【餘所目】 傍見すること。
 よたり【夜盜】 夜のとうぞく。
 よたろ【餘黨】 のこりのやから。
 よたか【夜鷹】 怪鳴類の鳥。
 よたかそば【夜鷹蕎麥】 深更街路をうりあるくそば。
 よたく【餘澤】 おかげ。後に残れる思惠。
 よだつ【與奪】 與ふること、奪ふこと、生殺の權のこと。
 よだれ【涎】 唾液の口外に出づるもの。
 よだれかけ【涎掛】 涎を受くる爲めに小兒にかけ
 よだん【餘談】 本談以外の雜談。

よだんかつよう【四段活用】 文法上の語。詞の語尾の變化、四段に動くこと。折られ
 折り折る折れの如し。

よち【輿地】 全世界のこと。
 よち【豫知】 前以て知ること。
 よち【餘地】 あまれる土地。
 ヨヂウム【Iodium】 ラテン語、ヨードチンキに同じ。
 よちづ【輿地圖】 地球全帯の地圖。
 よつあし【四足】 獸類のこと。
 よつぎ【世繼】 相續すること。
 よつつじ【四辻】 十字街のこと。
 よつで【四手】 よつてかこのこと。
 よつてあみ【四手網】 魚を捕ふに用ふるあみ。
 よつと【Yacht】 極めて輕快なる舟。
 よつのを【四絃】 琵琶のこと。
 よつばひ【四這】 兩手をつきて這ふこと。
 よつぱり【寢小便】 寢所に小便をすること。
 よつほど【餘程】 よほどに同じ。
 よつみ【四身】 七八歳位の子供の衣服の仕立方

よつめ【四目】 方形を四つ並べたるもの。
 よつめぎり【四目錐】 四稜あるきりのこと。
 よづめ【夜詰】 夜の番のこと。
 よつゆ【夜露】 夜おくつゆのこと。
 よてい【豫定】 前以てきめること。
 よてい【豫程】 前以て定めたる仕事の行程。
 よとく【餘徳】 のこり。恩澤。
 よどほし【夜道】 夜中全部のこと。よもすがらのこと。
 よどむ【澗】 たふこと又みづそこにたまること。
 よなか【夜中】 夜の中頃。
 よなが【夜長】 冬の夜のこと。
 よなき【夜啼】 夜中になくこと。
 よなぐ【淘】 米をとぐこと。
 よなべ【夜業】 夜仕事をなすこと、多くは午後十二時前にはきりあぐ。
 よなほし【世直】 世間の悪弊をなほすこと。
 よなみ【世並】 世間の様子のこと。
 よなむし【米蟲】 米につくむし。

よなる【世馴】世間なれること、人間の物事に
 とどひなき人に多く用ひらる。
 よなん【餘難】一難事に附隨して起る難事。
 よにび【夜逃】何事か悪しきことのありたる場
 合に人に知らるるを愧ぢ夜中ひそか
 に逃げさること。
 よにん【餘人】外の人。
 よね【米】こめのこと、又あそびめのこと。
 よねぎは【米澤】羽前の南西部にある都會。
 よねぎはつむぎ【米澤紬】米澤地方より産するつ
 むぎの稱。
 よねまんじゅう【米饅頭】もち米を引きて粉を製
 しこれて其中にあんを入れふかして
 製したるもの。
 よねん【餘念】或る一事にのみ考をおきて他の
 事に心を向けざること。
 よねん【餘年】あますとしのこと、人間凡そ一
 定せる壽命の老先の短かにいふ
 よのおぼえ【世覺】世間に於てもてはやす評判の
 こと。
 よのおもし【世鎮】國家の重鎮ともなるべき人の
 と又國家を安泰におさむると

よのかため【世固】前に同じ。
 よのさが【世性】世間一般のならばしのこと。
 よのちり【世塵】世間の俗事、又はうるさき事。
 よのつね【世常】普通なること。あたりまへなる
 こと。
 よのなか【世中】世間のこと、人間社會のこと。
 よのぶとん【四幅布團】四布にてつくりし布團の
 こと。大きく仕立つる時にする。
 よのめもねず【夜目不寝】非常多忙なるか亦は
 心配事ありて夜通ほしれむらぬこと
 よ【は】【餘波】或一事件生じたる時其事件のす
 みたるのちに其事件に關係して起り
 たるとばしりのこと。
 よ【は】【夜半】よるに同じ。
 よ【はう】【四方】しはうのこと。東西南北のこと
 よ【はう】【豫報】事件の生起せざる前にあらかじ
 め報知すること。
 よ【ばう】【興望】世間の人望のこと。
 よ【ばう】【豫防】事件の生起せざる前にあらかじ
 め防ぐこと。

よはく【餘白】文字を書きし紙のいまだあまり
 あるところのこと。
 よばなれる【世離】世俗に遠ざかること。
 よはひ【齢】人間の年を數ふるに用ふること
 ばとしのこと年齢のこと。
 よばん【夜番】火事などの警戒の爲め夜中番を
 なすこと。
 よひ【宵】日暮れて未だ時を経ざる時分の
 こと。未だあまりに夜のふけゆかぬ
 こと。
 よひ【酔】酒たばこなどに中毒して常態を
 失すること。ゑびと同じ。
 よひ【豫備】用意のこと。準備のこと。陸軍
 豫備役の略。
 よひだす【呼出】官廳などが公用の爲め一般人民
 を召喚することにいふ。或は多數中
 より一人々々名を呼びて出すこと。
 よひいれる【呼入】呼びて一定の場所に入れるこ
 と。
 よびえき【豫備役】日本陸軍々制に於て常備兵役

よびかへす【呼返】一度來りてかへりたるものを
 亦更に呼びて來らしむること
 よびきん【豫備金】非常の際支出の爲めあらかじ
 め備ふる金。
 よびぐん【豫備軍】豫備として扣ふる軍。
 よびこし【宵越】其日の晩を一夜こすこと。
 よびこしのかね【宵越金】其日にとりし金を其夜
 一夜持ちこすこと。
 よびすて【呼捨】姓なり名なりのみを呼びて敬語
 を用ひぬこと。
 よびだし【呼出】よびて連れだすこと。又相撲な
 どにて力士の名を呼上げて出場せし
 むる人。
 よびづき【宵月】日暮方のみ見ゆる月。
 よびつばり【宵張】夜普通にねるべき時刻にも寝
 ねず何時までも起きておること。
 よびつばりのあさねぼう【宵張朝寝坊】夜おそく
 までおきて居りて朝何時までも寝れ
 居ること。

よひとよ【夜一夜】其夜一晚中のこと。終夜のこと。
よひね【宵寝】宵の口よりねむりにつくこと。
よひのみやうじやう【宵明星】金星のこと。太陽の没せし時分西天に光をあらはす故に此の名あり。

よびひ【豫備費】豫備金を見よ。

よびへい【豫備兵】現役を終はりて後滿四年四月間の兵役、常備軍の中堅をなすもの。

よびもの【呼物】世間より持てはやさるもの、評判さるもの。

よびやう【餘病】一つの病ありて尙他の病氣のこと。

よひやみ【宵闇】宵の口月なくくらきこと。

よひよひ【宵宵】毎日の宵のこと。又ふらふらやまひにもいふ。

よひりん【呼鈴】家内に於て遠くはなれたる所の人呼ぶに用ふ。學校などに多し。

よふ【酔】酒にふふこと。

よふかし【夜深】夜何時までもおそくまで起きておること。

よみうり【讀賣】讀上げながら賣ること。

よみかき【讀書】讀書作文のこと。或は讀書習字のこと。

よみかた【讀方】本の讀みやうのこと。又小學校などにて國語科中の讀本のみをもいふ。

よみがへる【蘇】一旦死したるものが生きかへること。よみさり歸へる義なり。

よみきり【讀切】句讀のこと。全部讀みきること。終はること。

よみくせ【讀癖】讀み方讀調子などとの普通と異なるくせのこと。

よみこゑ【讀聲】音讀するときの聲。

よみせ【夜見世】夜人しげき道の兩側に店をひらきて商ふこと。

よみち【夜路】夜中の道中のこと。

よみぢ【黄泉】よみは死者の靈の行くところよみぢはよみに行くみち。

よみて【讀手】讀む人。

よみもの【讀物】讀むべき書籍、又講談などの演題のこと。

よふけ【夜更】夜のふけたること。

よぶこ【呼子】よびこのこと。人を呼ぶあひずの笛。

よふね【夜船】夜中航行する船。

よふん【餘憤】一旦憤りたる憤を其事以外のことにまでもらすこと。

よぶん【餘分】あまりのこと。

よべ【昨夜】昨夜のこと。

よへい【餘弊】本来あるべき弊害以外に他にも弊害の及ぶ時にそれをいふ。

よほど【餘程】一程の度をこすこと。

よまつり【夜祭】夜中祭を行ふこと。

よまはり【夜廻】夜中盜難火難を警戒する爲めに巡廻すること。夜中のこと。

よみ【黄泉】死者の靈魂の行く處。

よみ【讀】とつこと訓のこと。

よみあや【讀上】聲をあげて讀みたつること。

よみあはせ【讀合】同じきものが二ツある場合に互に異ならざる様讀み合はすること。

よみあやまり【讀誤】讀みちがひのこと。

よみや【夜宮】祭日なす前日の晩に行ふ祭のこと。

よみやぶる【讀破】多くの書物を見終はること。

よめ【夜目】夜見ること。

よめ【娶】嫁入したる當時の女子をいふ。息のつまのこと。

よめい【餘命】一生五十年として四十年迄過ぎされりとせばあとの餘まる命の十年間のことをいふ。あますいのち。

よめいり【嫁入】嫁となりて夫の家に行くこと又は其式のこと。

よめいりざかり【嫁入盛】嫁ぐ爲めに最もよき年頃のこと。二十歳より二十五歳頃まで。

よめいりどろぐ【嫁入道具】嫁入をなすときに持参する嫁の道具。

よめこ【娶御】娶の敬稱。

よめとり【娶取】娶を貰ふこと。

よめな【娶菜】菌科の植物。川のあぜなどに自生す。若きものは菜を食用とす。

よも【四方】東西南北のこと。周圍のこと。

よもぎ「蓬」やなぎよもぎのこと。
 よもぎ「艾」菊科の植物田畝に生ず草餅をつくに用ふ。
 よもぎがやと「蓬宿」いぶせきすまひのこと。
 よもぎふ「蓬生」草のおえしげりたる土地のこと。
 よもぎもち「艾餅」くさもちのこと。
 よもすがら「終夜」一夜のこと。夜通しのこと。
 よもやま「四方山」色々のこと。
 よやく「豫約」あらかじめ約束すること。
 よやくさん「豫約金」豫約をなす時物品代價の一部を拂ふ金。
 よゆう「餘裕」あまりのこと。心におちつきのこと。
 よよ「夜々」毎夜のこと。
 よよ「代々」だいのこと。
 よりあつまり「寄集」集會のこと。
 よりあひ「寄合」集會のこと。
 よりらど「寄人」御歌人に仕向して事務をとること。
 よりかかり「凭掛」よりかゝること、よりかゝるもの。

よりき「與力」徳川幕府時代に奉行の配下に屬し同心を指揮したる役名。
 よりくづ「擇屑」よりてのこりのくずのこと。
 よりつく「寄付」そばにより來ること。
 よりどころ「據所」證據とする箇所。又根據地のこと。
 よりどり「擇取」見てよろしきものをよりぬくと
 よりぬく「擇抜」選抜すること。多くの中よりえらびぬくこと。
 よりよく「餘力」あまりの力。
 よりわけ「擇分」見分けて區別すること。
 よる「擇」えらぶこと。
 よる「據」根據のこと。たもとすること。
 よる「因」原因、從ふ、託すなどの意に用ふ。由、縁も亦同様なり。
 よるのおとど「夜御殿」御寢所のこと。
 よるひる「夜晝」よとひると。又副詞としてよるもひるも絶え間なくと使ふことあり
 よるべ「寄方」たよりのこと。
 よるる「餘類」殘蕪のこと。

よろける「蹠跚」脚自由ならずして正しく立つことを得ざること。
 よろく「餘祿」餘分の幸。
 よろこばし「悦」うれしきこと。喜も同じ。
 よろこひいさむ「喜勇」うれしくていさみたつこと。
 よろこひなき「喜泣」よろこび極まりてなくこと。
 よろづ「萬」數の多きこと。又すべてと用ふることあり。
 よろづよ「萬代」どこまでも、永久。
 よろひ「鎧」昔時の武具。
 よろひきぞめ「鎧着初」昔時武士の子、満十四歳になると鎧を着る式を行ひ初めて鎧をつくるなり。
 よろひぐさ「鎧草」ぼたんのこと。
 よろひひただれ「鎧直垂」大將の鎧の下に着る直垂のこと。
 よろひびつ「鎧櫃」鎧を納むるはこ。
 よろひむしや「鎧武者」鎧をつけたる武者。
 よろめく「踰跟」よろ／＼すること。あしどりきかざること。

よろん「輿論」世間一般の議論又は意向。
 よわたり「世渡」世の中をくらしとほること。
 よわみ「弱點」弱點のこと。
 よわむし「弱蟲」よわき人のこと。
 よゐ「餘威」あまりのこと威光。
 よゐん「餘韻」のこれるひびきのこと。
 よをひにつぐ「夜日繼」よるひるの別なきこと。いそがはしきこと。
 よんどころなし「據無」止むを得ざること。

ら
 ら「等」事物の複数をいひ表はすに用ふることば。
 ら「羅」うすきいぬのこと。又あみの意にも用ふ。
 らら「驛」動物の名。
 らら「籟」風のなる音。

らい い【癩】らいびやうのこと。
 らい い【雷】かみなりのこと。
 らい い【來意】來りし理由のこと。
 らい い【來遊】遊びに來ること。
 らい う【雷雨】雷なりて同時に雨降ること。夏時に多し。
 らい が【來駕】訪問すること。
 らい かう【來航】海上を航海して來ること。他國より來ること。
 らい かく【來客】客人の來ること。
 らい くわ【雷火】かみなり落ちて火事となれること。
 らい くわい【來會】一定の場所に來り集まること。
 らい くわう【雷光】電光のこと。いなびかり。
 らい くわん【雷管】藥莖の後部に裝填しありて彈藥を爆發せしむるためのもの。
 らい げつ【來月】此の月の次ぎに來るべき月のこと。
 らい こう【來貢】買物を持ちて來ること。
 らい こう【來寇】外國より來りてあだをなすこと。
 らい し【來示】手紙にて申來りたること。

らい し【來藉】すきのこと。
 らい じう【雷獸】かみなりのなる時に其中におるといふけもの。
 らい しふ【來襲】おそひ來ること。
 らい しや【來車】訪問すること。
 らい じやう【來狀】他人より來りたる手紙。
 らい しよ【來書】前同。
 らい しん【來信】たよりのこと。
 らい しんし【賴信紙】電報を打つ時に用ふる形式の一定せる用紙。電報用紙のこと。
 ライスカレー【Rice-curry】西料理の一種。
 ライスパーバー【Rice-panier】花簪などをつくる爲めの原料となす紙。
 らい せ【來世】未來の世。
 らい だ【懶惰】なまけること。
 らい だん【來談】はなしにすること。
 らい ちやく【來着】到着すること。つくこと。
 らい てい【雷霆】かみなりのこと。
 らい てう【雷鳥】鶉類の鳥。
 らい てう【來朝】外人の來ること。

らい でん【來電】電報の到着すること。
 らい でんびん【Leydenjar】レイデンびんのこと。
 らい どう【雷同】みだりに他人の言ふことに同意すること。
 らい ねん【來年】來るべき年。明年のこと。
 らい はい【來拜】おがむこと。
 らい はう【來訪】來りておとづれること。
 むい びやう【癩病】天刑病と稱するものに同じ。
 らい ひん【來賓】おきやくのこと。
 らい へい【來聘】來賓と同じ。
 めい めい【雷鳴】かみなりのなるおと。
 らい めい【雷名】名前の世間にひびき渡ること。
 らい やう【來陽】來年の春のこと。
 らい ゆ【來諭】他人より手紙にて申しこせること。とばのこと。
 らい よけ【雷除】避雷針のこと。
 らい らい【磊々】石のうちあふさま。
 らい らいらくらく【磊々落落】らいらくなる有様のこと。

らいらく【磊落】快活にして小事にあくそくせぬ貌。
 らい りん【來臨】來ること。敬稱。
 らい れき【來歴】經歷のこと。由來のこと。
 らい わう【來往】ゆききのこと。
 ら う【羅字】煙管竹のこと。
 ら う【勞】ほれをりのこと。
 ら う【老】年をとること。又とりたる人。
 ら う【牢】男子のこと。
 ら う【廊】囚人を入れおくところ。
 ら りあり【老嫗】老いたる女。
 ら りいつ【勞逸】ほれをしたり遊びたりすること。詩や歌をよむに句に節をつけて歌ふがごとくふむこと。
 らう えいしゆう【朗詠】詩や歌を集めた本。
 らう えり【老幼】老人と幼童のこと。
 らう えき【勞役】はたらきてほれをおる仕事のこと。
 らう おう【老翁】男の老人のこと。おきな。

らうか【廊下】座敷の前側などに渡したる板ば
 りのあゆみどのこと。
 りうかう【老功】多年其事にたづさはり効驗した
 るてがら又其事にはたくみなること
 りうがん【老眼】視力の衰えたるにいふ、遠視眼
 のこと。
 りうがんきやう【老眼鏡】老人は遠視眼になれば
 之れを適度にする爲めに用ふる眼鏡
 と。
 りうきう【老朽】老人となりて物の役にたぬこ
 と。
 りうぎよ【撈魚】魚をすなごること。
 りうぎん【朗吟】聲を出し節をつけてほがらかに
 歌ふこと。
 りうぎん【勞銀】勞働して得る賃錢のこと。
 りうく【勞苦】ほねをりのこと。
 りうくわい【老耄】多年の間經驗して立ちまわり
 の狡猾なること。
 りうくん【耶君】良人のこと。
 りうこ【牢固】堅固なること。
 りうご【老後】年老いて後のこと。

らうこう【老功】多年の功積、又老練の意味にも
 用ふ。
 りうごく【牢獄】牢屋のこと。
 りうさう【老壯】老人と壯者、又老子と莊子のこ
 と、及び老壯二人の祖述したる學問
 のことにもいふ。
 りうさく【勞作】骨折りつとむること。
 りうし【牢死】牢中にて死すること。
 りうし【浪死】おちぶれて死ぬこと。
 りうし【老死】年とりて死ぬこと。
 りうし【浪士】昔士にて一定の主につかへし人
 が主を離れたること。又祿を取り上
 げられたること。
 りうしや【牢舎】罪人を入るゝ爲めに作りたる家
 屋。
 りうしやう【老將】大將にて年おいたる人、多年
 大將をなせる人のこと。
 りうしやう【勞症】今の肺病の事、咳の多く出づ
 る病のこと。
 りうじやく【老弱】年よりや若きもの又はよわき
 ものとつよきもの。

らうじやく【狼籍】取り散らしたるけはい何事に
 もあしきとき。
 りうじゆ【老儒】學者にて老年の人永年學問を研
 究したる人。
 りうじゆ【老樹】永年生ぜぬ木のこと。
 りうしん【老身】年よりのからだ、よわき身體の
 こと。
 りうしん【勞神】心配すること。心をつかふこと
 爲めになるけらい、年おいて經
 験あるけらい。
 りうじん【老人】年を取りたる人。永年生存せる
 人。
 りうすゐ【老衰】年おいて身體の自由にならぬ人
 よわき人。
 りうせい【老成】ませたる事、よく成りとよない
 たること。
 りうぜき【狼籍】荒れたる有様、荒々しき行爲の
 こと。
 りうせんせい【老先生】經驗ある教師、年とりた
 る先輩のこと。
 りうそり【老僧】氣品高き僧老年の僧。

らうたい【老體】元氣のなきからだ、年よりのか
 らだ。
 りうだい【老大】年のみ多く取りてからだの元氣
 は無くなると言ふ意味。
 りうたいじん【老大人】年おいたる人を敬ひて言
 ふことば。
 りうたいこく【老大國】昔盛なりし國にて今はお
 とろへたる國のこと。
 りうだり【郎黨】自分のけらい永年つかへたる人
 りうだけ【羅字竹】長き煙管に使ふ爲めの細き竹
 りうぢゆう【老中】徳川幕府時代の重き職の名、
 大老につぐ。
 りうぢよ【老女】権力ある奥女中經驗ある奥女中
 の長のこと。
 りうどう【勞働】身體をつかひて、はたらくこと
 ほねをりをなしてかせぐこと。
 りうどく【朗讀】よみあぐること。
 りうはやく【老若】年おいたる人と年若き人、又
 は老中、若年寄二職を言ふにも用ふ
 りうにん【浪人】祿を離れたる士、浪士に同じ。

らうねん【老年】年を経たること。
 らうのう【老農】農事に経験多く其知識ありて作物を上手に作る農夫。
 らうば【老婆】女の年とりたる人。
 らうはい【老輩】年おいたる人自身のこと年よりたちのこと。
 らうはい【老廢】多く年を取りて役にたゞざる様になりたること。
 らうばい【狼狽】おちつかぬ有様おはてる様子、さわぎうろたへること。
 らうばしん【老婆心】年とりたる女の如く取りこし苦勞すること。
 らうひ【浪費】いらざる所に金銭を使ふ事、むだ使ひをなすこと。
 らうびやう【老病】これと言ふ取りたてたる病氣にてはなく年よりたる爲めに病氣の如き様子なること。
 らうふ【老夫】男子にて年とりたる人のこと。
 らりふ【老父】年おいたる自分の父のこと。
 らりふ【老婦】老婆のこと年よりのこと。
 らうへい【老兵】よわりたる兵士年數多き兵士。

らうべう【廊廟】政事堂のこと朝廷のこと天下の政を行ふ所のこと。
 らうりよく【勞力】はたらくちから、ちからを盡してほねをおること。
 らうれん【老練】経験に富みて上手なること仕事になれて上手なること。
 ラオ【羅字】らうに同じ。
 らかん【羅漢】アラカンのつまりたるもの。羅漢松柏など植物の名に就くものあり。
 らき【邏騎】馬にのりたる兵士の見まはりになすこと。
 らぎやうへんかく【良行變格】活用の一風變れるもの、不規則に活用するもの、即ちラ、リ、ル、レ、と活用す。
 らりほ【老舗】代々よくつゞきたる店つゞきておとろへざる商店のこと。
 らりぼ【老母】年おいたる自分の母のこと。
 らうぼく【老木】永年生存せる木のこと、間もなく枯れんとする木のこと。
 らうぼく【老僕】年よりにて、下ばたらきをなすもの、永年使男をなせるもの。

らうまり【老耄】年おいたる爲めにおいぼれになること。
 らうや【牢屋】囚人を入れおく所ひとやのこと
 らうやくにん【牢役人】牢屋の番をする人今の看守のこと。
 らうや【老爺】老父のこと、おやなど言ふ。
 らうやぶり【牢破】囚人のにぐることをすきをうかすひ脱獄すること。
 らうらら【浪々】おちふれて所々をあるくこと。
 らうらく【牢落】あはれなる有様となること。
 らうり【老吏】永年官吏を勤めたる人經驗に富める官吏のこと。
 らく【樂】心身共に愉快に思はるゝこと。
 らく【酪】クリームの如く煉製のもの乳の煮つめて煉りたるもの。
 らくいん【烙印】印形にてこの如くやきて印を付くるもの。
 らくいん【落胤】公けにせぬ血統のもの多く身分ある人に用ゆ。
 らくいんきよ【樂隠居】年よりて安らかに隠居せる人のこと。

らくえき【絡繹】行列人込みなどのつゞく有りさま、おるが如くなど言ふ。
 らくえふ【落葉】冬、木の葉の落つること。
 らくがん【落雁】雁の飛ぶ有様のこと、又菓子の種類。
 らくき【落暉】夕方日の西に入る事、入日夕日やくすらかなる場所たのしき土地。
 らくくわ【落花】散り落つる花おちたる花。
 らくくわせい【落花生】なんきん豆のこと。
 らくくわりうすい【落花流水】相思の情のこと。
 らくくわい【落外】京都の市外のこと。
 らくくわん【落款】筆者の名と印、又は雅號などの印をおすもの書畫などに於て。
 らくく【落句】詩の結句を言ふ。
 らくくわん【樂觀】物事をたのしく見ることよくせぬこと面白く感ずると。
 らくこ【落語】落語家の話し。おとし話のこと。
 らくこう【落紅】赤き花のおちたること散りたる美しき花のこと。

らくさつ【落札】入札請などの場合に自分の手に入りたること。
 らくじやう【落城】自分の城を破られたること、戦に敗けたること。
 らくしゆ【落手】物品の手に入りたること。
 らくしよ【落書】いたづらきがのこと。
 らくせい【落成】建物などの全部出来上がりたること。
 らくせき【落籍】ひかせること、仲間の制裁を受けぬ様にするに自由になると選に入らざること選挙にはづれたること。
 らくだい【落第】登級せざること、其まゝなること試験に合格せざること。
 らくだ【駱駝】形大なる動物にして反芻類に屬す。
 らくたん【落膽】一時に元氣のなくなること、力ぬけのすること。
 らくち【樂地】たのしき土地すみやすき地面白き地。
 らくちやく【落着】きまりのつきたることおさまりたること。

らくちゆう【洛中】京都の市中のこと、洛外に對して洛中と言ふ。
 らくつゐ【落墜】橋などのおつること。又品行悪しくなりたることにも用ゆ。
 らくてん【樂天】天運に任せることあくそくせぬこと、なり行きにまかせて自分から面白く暮すこと。
 らくど【樂土】樂地のこと、たのしみ多き土地。
 らくぼく【落莫】荒れてさびしきこと。
 らくはく【落魄】見苦しき有様、以前にはよき地位又は富める者が反對に變り果てたること。
 らくはく【落剝】金銀塗物等のはげ落ちたるに用ふ。
 らくはつ【落髮】頭部毛をすり取ること。
 らくめい【落命】死したること、戦死したること。
 らくやう【洛陽】昔支那の唐時代に於ける都のこと、又みやこと言ふ意味のみにも用ふ。
 らくやき【樂焼】粗製の陶器にて質脆く朝鮮より産すること多し。
 らくらい【落雷】異なる二種の雷氣の放電によること。

らくらく【落落】おほざつばなること細事に頓着せぬこと。
 らくらく【樂々】僅の苦勞もなきこと無上の快樂のこと。
 らくわ【裸花】かくうてなゝどのなき花。
 らくえん【樂園】最も安らかなる土地。
 ラケット【Racket】庭球をなすに用ふる道具。
 らしよくぶつ【裸子植物】松の胚珠の如く子房外に出でたる植物。
 らしやうもん【羅城門】昔の京都西南部にありし門。
 らしや【羅紗】ホルトガルの語質に密に羊毛にて織りたるもの。
 らしんばん【羅針盤】磁石盤のこと航路などには必須の器なり。
 らせん【螺旋】ねぢのこと。
 らそつ【邏卒】見まはりをなす兵士の事。
 らたい【裸體】衣服をまとはぬこと。

ら【ち】【埒】外柵のこと又仕事のはかどること。
 らつきやう【薤】葱の如き臭氣ある植物。
 ラツコ【臘虎】肉食類にて哺乳動物なり寒地に棲みて此の毛皮高價なるものなり。
 ラツパ【喇叭】吹きて鳴ちす樂器軍隊にて合圖號令に用ふ。
 らつばしゆ【喇叭手】喇叭を吹く人。
 らつばそつ【喇叭卒】喇叭を吹く兵士のこと。
 らつばくわん【喇叭管】卵巢につゞける管の名。
 らつわん【辣腕】働きある腕すごきやりかたのこと。
 らてんご【拉丁語】古ヘラテン族の使ひし語普通には使用せざれども學術上にては萬國に通ぜらる。
 ラ【パ】【Tava】熔岩のこと。
 ら【ふ】【蠟】動植物の粘性ある脂肪を取りて制したるもの。
 ら【ふ】【蔦】官吏又は僧の位置。
 ら【ふ】【蘿蔔】大根のこと。
 ら【ふ】【鐵】はんだのこと、熟してとかし金屬と金屬とを次ぎ合はすに用ゆ。

ら ふ【臘】十二月のことを臘といふ。
 らふげつ【臘月】同じく十二月のこと。しはすの
 らふじつ【臘日】一年の最終の日のことおほみそ
 らうせき【蠟石】質は硫酸にして脆く脂光あり印
 材又は文具に使用し粉末は機械の摩
 擦を防ぐに用ふ。
 らうそく【蠟燭】糸紙等を心となして製し燈火と
 して用ゆ。
 らうづけ【鑲附】はんだにて附けたる金屬又は道
 具。
 らうびき【蠟引】蠟をひきて、なめらかにしたる
 紙のこと。
 ラ マ【Lama】西藏の語、位の最も尊き事無
 の上こと。
 ラマけう【喇嘛教】滿州地方に盛なる佛教にして
 紅黄二派に別れ各異なる衣を就けて
 其僧の行爲も亦各々異なる。
 ラマソウ【喇嘛酒】ラマ教の僧侶のこと。
 ラ ウ【Rum】印度諸島にて産する酒。

ラムネ【Lemonade】の轉じ來れる英語にて炭
 酸溶液を清涼劑に製したるもの。
 られつ【羅列】長くつゞいて並びたること。
 ら ん【蘭】色は種々あり蘭科植物なり葉は
 細長く根より直ちに出て花は互生な
 り。
 ら ん【亂】まざりたること、みだれること
 容易に治まらざること。
 ら ん【欄】橋のしきり、てすり、さくす、
 そなどのこと。
 ら んい【濫衣】ぼろのことやぶれたる着物のと
 らんかん【欄干】てすり、しきりのこと。
 らんぎく【蘭菊】紫色をなせる小なる花、觀賞用、
 馬鞭草科。
 らんぎやう【亂行】品行のおさまらぬこと、みだ
 らなる行ひ。
 らんぎやく【亂逆】そむくこと、従はぬこと、て
 むかひをすること。
 らんぐひ【亂札】水中にくひを打ち込むこと土の
 崩れを止むるに用ふ。
 らんぐわい【欄外】わくのそと、しきりのそと、
 本文でなき部。

らんさう【卵巢】卵の生ずる器にて雌體のみに有
 す。
 らんざつ【亂雑】みだれたる有様種々ちりまじり
 たること整頓せぬこと。
 らんざう【濫造】粗雑に作ることに、精密に作らず
 たい多く造り上ぐること。
 らんしやう【濫賞】よいかげんに賞を與ふること
 らんしやう【濫賜】すべてのはじめ、もとのこと
 ものゝおこりのこと。
 らんしゆつ【濫出】世の爲めを思はずみだりに出
 だすこと。
 らんしん【亂臣】不忠の臣國を治めぬ臣、手むか
 ひするけらい。
 らんしん【亂心】精神のおちつかぬこと、狂氣せ
 ること。
 らんずる【亂醉】酒によいてふしだらなる様子に
 てれむること。
 らんせい【濫製】粗製なるもの注意せずして作り
 たること。
 らんせい【亂世】治められぬ世の中みだれたる世
 の中。

らんせい【卵生】卵にて母體より生れ出でたるも
 の。
 らんぞく【亂賊】てむかひをなすもの國を亂すも
 の。
 らんだ【懶惰】勞力を厭ふことぐづぐづしてな
 まけてくらすこと。
 らんだ【亂打】所をかまはず打らつゞくること
 しきりに打つこと。
 らんたう【蘭塔】墓地にある塔のこととうばのこ
 と。
 らんちき【亂痴氣】みだらなるあらそひの有様。
 ランドセル【背囊】かばんの如く必要なる物品を
 入れて脊に附けるもの兵士などに見
 る。
 らんどく【亂讀】定めずして讀むことやたらによ
 むこと。
 らんはふ【亂入】かまはずに入ること一時に混雜
 して入ること。
 らんばり【亂暴】荒々しきふるまひ人を人と思は
 ぬことあれ狂ふこと。
 らんばうもの【亂暴者】あらくれもの、禮を知ら
 ぬ人。

らんばつ【亂髮】髪をつくるはぬことみだしたるまゝのこと。

らんばつ【亂伐】時をかまはず木をきること山林などに注意せぬこと。

らんび【濫費】むだづかひすること、やたらに物をついやすこと。

らんび【瀾糜】ひどくたゞれたること其有様のこと。

らんびつ【亂筆】正しく書かぬこと書體を正さぬこと。

ランプ【Lamp】石油を燃して明を取る爲めの道具、しん、臺、釣、などを要す

らんま【欄間】室の上部に窓の如く明けある所

らんまん【爛漫】花の美しく咲き出でたる有様にいふ。

らんみやく【亂脈】麻のもつれたるが如く非常に亂れたるにいふ。

らんよ【鸞輿】天皇陛下の御乗り遊ばすこしのこと。

らんよう【濫用】正しき入り道にあらざる處に妄りに用ふること。

らんり【亂離】みだれて分かれ分かれになること。

らんる【襪襪】ぼろのこと。

リ

り【里】道程を計るに用ふる。即ち三十六町のこと。

り【利】便利のこと。益或は勝つ意味にも利息などの意味にも用ふる。

り【湮】海上の距離を計るに用ふる。一湮は十七町とすカイリ海里と讀む

り【釐】一分の十分の一の長さを表はすに用ふる。厘の字を用ふる。

り【理】すぢみち若しくは一定の意義のこと。

り【離】八卦にていふことば、方位にして南にあり、はなれること。

りあび【利上】貸金の利率をあぐること銀行などにて預金の利率をあぐること

りあひ【理合】物事の道筋のこと。

りい【理由】わけのこと。

り【流】外のものゝ區別して立てたる仕事

り【柳】樹の名。

り【旒】旗を數ふる時に用ふる名目、旒々。

り【龍】支那に於ける架空上想像上の動物。

り【留】止まる意。

りうあんくわめい【柳暗花明】春野にかすみたなびける景色をいふことば。

りうい【留意】氣をつくること。

りういん【溜飲】過食したる時胃中より水液を出す病。

りうえう【柳腰】美人のこと。

りうこう【流行】はやること。

りうかうせい【流行性寒胃】インフルエンザのこと。

りうかうびやう【流行病】季節又は傳染によりて一般にはやる病氣。

りうかん【流汗】汗の流れ出づること。

りうぎ【流儀】他と區別して立てたる仕事のしくみのこと。

りうきう【琉球】沖縄縣下の諸島のこと、又琉球壘表のことを略していふとあり

りうきうおもて【琉球表】壘表の一種。

りうぐう【流寓】一定の住居に止まらずして諸方をさまよひあるること。

りうくわぎん【硫化銀】銀と硫黄と化合したるもの。

りうくわすろ【硫化水素】水素と硫黄と化合したるもの。

りうくわだん【榴火彈】歩兵の襲來に對して發する榴散彈のこと

りうくわたんそ【硫化炭素】硫黄と炭素と化合したるもの。

りうぐわん【流丸】れらつてうちたる彈丸にあらざりてそれだまのこと。

りうけい【流刑】島流しにする刑罪、國事犯などに科す。

りうけつ【流血】ながるゝ血のこと。
 りうげん【流言】實なきとりきたること、無根の
 評判のこと。
 りうさん【硫酸】工業上必要の藥品にして無色、
 殆んど大方の金屬類を溶かす性を有
 す。
 りうさんえん【硫酸鹽】硫酸中の水素と金屬とお
 きかはりしもの。
 りうさんかるしうむ【Calcium Sulphate】石膏
 のこと。
 りうさんどう【硫酸銅】硫酸と銅とを熱して得た
 るもの。
 りうさんまごぬしうむ【Magnesium Sulphate】
 しやりえんのこと。
 りうざん【流産】不健康體若しくは身體を激動せ
 しめたるが爲め臨月ならずして胎兒
 を産むこと。半産のこと。
 りうざんだん【榴霰彈】はれつして彈子の散る様
 につくりし彈丸。
 りうし【流矢】ながれやのこと。
 りうしつ【流失】ながれてなくなること。

りうしつ【流出】ながれいづること。
 りうする【流水】のながれのこと。又ながるゝ水
 のこと。
 りうせい【流星】星の飛ぶこと。
 りうせつ【流説】あてなきことをいひふらすこと
 りうたい【流體】液體及氣體のこと。
 りうだん【流彈】れらひてうちたる彈丸に非らず
 してそれだまのこと。
 りうち【流置】とめおくこと。
 りうちけん【留置權】他の物件を留置しておく權
 利のこと。
 りうちじよ【留置所】拘留されしもの、刑事上の
 被告人などをとめおく場所
 りうちやう【流暢】よどみなくすらくとしたる
 こと。
 りうつう【流通】世間一般にあまねく通用するこ
 と。
 りうてい【流涕】なみだながしてなくこと。
 りうてん【流轉】一所止まらずして諸所をながれ
 あるること。
 りうどう【流動】ながれうごくこと。

りうどうしほん【流動資本】貨幣、石炭の如く一
 度使用すれば直に其の場所其形等を
 變ずるもの資本の區別に用ふるこ
 ば。
 りうは【流派】流儀のこと。
 りうび【柳眉】美人の眉のこと。
 りうへい【流弊】是れまでのしきたりのこと。
 りうべつ【留別】旅行する人がせざる人々に別れ
 を告ぐること。
 りうべつくわい【留別會】留別のために催ふする
 會台のこと。
 りうほ【留保】とめて保留すること。
 りうマチス【Rheumatism】冷え、滋養不足等よ
 り來る病、僂麻質斯と書す
 りうみん【流民】一定の居所なく流離して居る民
 りうよう【流用】融通して使ふこと。
 りうり【流離】近親者に分れて知らぬ他國に生
 活すること。
 りうりやう【嘲嘯】音樂の音などで聞く。
 りうれん【流連】あつゞけのこと。
 りえき【利益】自分の利益になること。

りえん【離縁】夫妻わかれをなす法律上の行爲
 りえんじやう【離縁狀】離縁せんが爲めに夫より
 妻こめてたる手紙。
 りかい【理解】事物の道理のこと。
 りがい【利害】利と害とのこと。
 りがいかんけい【利害關係】相互間に利害のかゝ
 り合いりよく【理解力】理解する力のこと。
 りから【履行】實地になすこと。
 りかく【離隔】はなしへだつこと。
 りかく【盤単】新にあらたむること。
 りがく【理學】動植物學、地質學、物理學などの編
 稱又單に物理學のことのみをいふこ
 とあり。
 りがふ【離合】はれたり合ふたりのこと。
 りかん【離間】はなすこと。仲をさくこと。
 りかんさく【離間策】なかあしくする爲めのはか
 り
 りき【利器】重寶なる道具のこと。
 りきウ【Liquor】西洋酒の一種。

りきえき【力役】労働すること。努力を使ふこと

りきし【力士】相撲とりのこと。

りきゆう【離宮】天皇陛下の御出遊あそばす所として特に御所の外に景勝の所に設させられたを御殿をいふ。

りきん【利金】利益金のこと。又利息のこと。

りく【六】ろくのこと。

りく【陸】水面上に表はれたる部分。

りく【戮】ころすこと。死刑にすること。

りくあげ【陸揚】船積の荷物を陸上に運び上ぐる

りくろん【陸運】陸路荷物を運搬すること。

りくがう【六合】天地四方のこと。

りくぐん【陸軍】陸上の防備にあたり又陸上にて戦争をなすを任務とする軍隊のこと

りくぐんきやう【陸軍卿】明治十九年以前の陸軍大臣のこと。

りくぐんかんく【陸軍管區】陸軍に關する行政の都合により便宜定められたる管轄する區域のこと。

りくち【陸地】陸の條を見よ。

りくちそくりやうぶ【陸地測量部】陸地の測量を以て軍用の地圖を製作し又一般用の地圖などを製造することを掌するもの參謀總長之れを統轄す

りくつ【理窟】物事のわけのこと。

りくつづめ【理窟詰】理窟のみにておしつむるとりくづ【陸圖】陸上の地形を表はしたる地圖のこと。

りくなんふう【陸軟風】陸上より海上に向つて吹く風のこと。

りくへい【陸兵】陸軍兵士のこと、陸軍のこと。歩、騎、砲、工、輜重、交通、重砲、等の種別あり。

りくり【陸離】色つやの交りてきいくと光る

りくりよく【戮力】力を合はせてなすこと協心同

りくろ【陸路】陸上の道路。

りくわい【理會】わかること。道理をのみこむこと。

りくぐんたいじん【陸軍大臣】陸軍に關する軍事行政の官名。

りくぐんしやう【陸軍省】陸軍大臣の陸軍に關する事を取扱ふところのこと。

りくくわ【六花】雪の別名。

りくけい【六經】詩、經、書、禮、易、春秋、周禮の六つの經書のことといふ。時に周禮の代りに樂記を配することあり。

りくげい【六藝】禮、樂、射、御、書、數の六つの技藝のこと。又那周の代に行はれしもの。

りくくし【六國史】日本後記、續日本後記、日本書記、續日本書記、文德實錄、三代實錄のこと。

りくしやう【陸相】陸軍大臣のこといふ。

りくじやう【陸上】陸の上のこと。

りくしゆつ【六出】雪の別名。

りくせん【陸戦】陸上にての戦争のこと。

りくぞく【陸續】後より絶えず引續くこと。

りくたう【六韜】兵法を書ける書物のこと、周の

りくわい【理外】道理のほかといふこと。

りくわいのり【理外理】口にいひ様のなき道理のこと。

りくわいりよく【理會力】道理を理會するはたきのこと。

りげん【俚諺】世俗に行はれつゝあることはざり

りこ【利己】自分の爲めのみを計ること。

りこり【利口】かしこきこと。かしこき人のとりこしゆぎ【利己主義】自分の爲めのみにすることと人間的行為の目的となす主義。

りこしん【利己心】自分ばかりの利益をはかる心のこと。

りこん【離婚】夫婦の縁をきること。

りさい【罹災】災難にかゝること。

りざい【理財】財産を利益ある様におさむること。

りざいか【理財家】理財の方法に長ぜる人のこと

りざいがく【理財學】財政のことを研むる學問。

りさう【理想】自分が到達せんと考へたる最高最極の目的。

りさつ【利札】債券の利子などを受取る時に其證をして切りはなす證書のこと。
 りさん【離散】はなればなれになること。
 りし【利子】普通は金利のことりそくのこと
 りじ【理事】法人及び社團、財團を代表して其事務を取り行ふものこと。
 りじゆん【利潤】もうけのこと。
 りす【栗鼠】きねずみのこと。
 りせい【理性】吾人のもともより有するところの智識才能のこと。
 りそく【利息】金錢を貸したる報酬。として受くる金員のこと。
 りぞく【里俗】其郷里のならばしのこと。
 りそつ【吏卒】役人の最下のもの。
 りた【利他】他人の爲めにはかること利己の反對。
 りたう【利刀】鋭利なる刀。
 りたう【里道】縣道、國道の外の公共の道路。
 りたく【利澤】またげのこと。

りたしゆぎ【利他主義】他を愛する主義のこと。
 りち【律】りつのこと。
 りちぎ【律儀】正直なること。まめくしくはたらくこと。
 りつ【律】おきてのこと、又調子のこと。
 りつあん【立案】文案を立つること。
 りつきやくち【立脚地】自分のたちばのこと。
 りつくわ【立花】雪のこと。
 りつけん【立憲】憲法を設くること。
 りつけんこく【立憲國】憲法をたて、政治を行ふ國のこと。
 りつけんせい【立憲政體】憲法を設けて國家統治の大綱を定め立法司法行政の三權を區別して獨立機關となし、帝國議會の協賛によりて天皇は政務を行ふ様にある政體のこと。
 りつこう【立后】皇后を冊立すること。
 りつし【律師】僧侶の官、僧都につぐものとする一定の目的を定め之れを遂行せんとする心組みのこと。

りよかく【旅客】たびの人。
 りよくいん【綠陰】夏時青綠のかけのこと。
 りよくえう【綠葉】みどりの葉、ことに夏時出てたるばかりの葉のことにいふ力につきて論研する學問、物理學の一部なり。
 りよくがく【力學】つとめてなすこと。
 りよくかう【力行】つとめてなすこと。
 りよくさう【綠草】みどりいろのくさ。
 りよくせん【力戰】いつしうけんめいに戦ふこと。
 りよくてん【力點】槓杆の或る部分の稱、即物をうごかす力のかゝる點のこと。
 りよくばん【綠攀】ろうはのこと。
 りようがい【慮外】意外のこと。失禮なること。
 りよくわん【旅館】はたごやのこと。
 りよさう【旅裝】たびじたくのこと。
 りよしや【旅舎】やどやのこと。
 りよしゆく【旅宿】とまりや、旅人をとめる家のこと。
 りよじん【旅人】旅行をする人、たびをする人。

りよだん【旅團】二個聯隊を一旅團となす、其長を旅團長と言ふ。
 りよてい【旅程】たびの道、及び里程のこと。
 りよてい【旅亭】はたごやの別名一寸したやどやのこと。
 りよび【旅費】旅行をなす爲めの費用、汽車賃宿泊料など。
 りりよく【膂力】身體に有る限りの力、うでぢから。
 りりつ【利率】元金に附きたる利子の程合。
 りれき【履歴】人々の來歴のこと。
 りろん【理論】研究したる物事の理を論ずること。
 りるん【吏員】公の事を司る人、役人のこと。
 りん【燐】發火點の低き礦物にして赤燐は危険少なくマッチの原料となす。
 りん【厘】貨幣の補助單位にして一錢の十分の一なり。
 りん【鈴】普通のすゞにて大小の種々あり
 りん【輪】すべての圓きわのこと。

りん「隣」となり、近所、そばのこと。
 りんろう【霖雨】しきりにふりつづく雨のこと、ながあめ。
 りんかい【臨界】そばのしきり、さかい。陛下が或場所に御出ましになること。
 りんかう【臨幸】近所となりとの交際又は自國と近國との交際のこと。
 りんかう【隣交】近所となりとの交際又は自國と近國との交際のこと。
 りんかう【輪講】多人數にて各々順次に講義し終ること。
 りんがく【林學】森林に就きたる凡てのことをしらぶるもの。
 りんさ【臨機】その時その折によりて適當なる方法をなすこと。臨機應變。
 りんさ【悋氣】種々なる嫉妬のこと。
 りんくわ【燐火】燐のもえたる其火、又はあやしき火。
 りんくわ【燐光】ものすごき光燐の光マアネンユウムの光の如きもの。
 りんくわ【輪郭】凡そ形ちまわりのきは、大體の様子。

りんくわん【輪奐】おほきく立派なること、うつくしきこと。
 りんげつ【臨月】出産すべき月に當ること。
 りんげん【綸言】帝王の仰せ、又は命令をさして言ふこと。
 りんけん【臨檢】直接に其場所に行きてしらぶること。
 りんご【林檎】梅櫻の如く薔薇科にて果實は消化し易く寒國の植物にして林檎酒の原料ともなる。
 りんごく【隣國】近き所にある國、注意すべき國。
 りんさん【林産】森林より出づる産物のすべてを言ふこと。
 りんじ【臨時】場合によりてなすこと、(臨時祭)(臨時會)(臨時費)等の如し。
 りんじつ【隣室】となりのしつ、次ぎのま。
 りんじやう【臨床】病床に來ること。
 りんじやうとうぎ【臨床講義】病人の床のそばにて直接に實見しつゝ講義すること。
 リンネル【Linnen】薄地の布にて原料は亞麻なり夏期の洋服として多く使用する。

りんじやう【倫常】人々の常に行ひ行く道ひこと。
 りんじゆう【臨終】命のおはりのこと。
 りんじよく【吝嗇】けち／＼すること、非常に物品をおしむこと。
 りんしるゐ【鱗翅類】蝶蛾の如く體に粉の如き細鱗と翅とを有して種々なる色を呈す。
 りんず【綾子】薄き絹織にして多く形を出し光澤ありて美しけれども質弱し。
 りんせき【吝惜】吝嗇に同じ。
 りんせき【臨席】其場所に出づること。
 りんせん【臨戰】實地に戰爭をなしすること。
 りんせん【綸宣】天子の御言葉のこと。
 りんぜん【凜然】いかめしきかたち勇ましき様子。
 りんぜん【懷然】おどろきふるへる様のこと。
 りんぢら【輪道】電流の行く道をいふ。
 りんぢら【龍膽】觀賞用植物として栽培さるゝこと多く秋に花咲く。
 リーダー【Reader】讀本のこと。
 りんぢく【輪軸】槓杆を應用し軸にまき物體を引き得る様にしたるもの。

りんちゆう【鱗蟲】爬蟲類の別名、蛇龜など。
 りんてん【輪轉】輪をなしてまわること。輪轉機。新聞雜誌などを印刷する機械。
 りんとろ【輪燈】佛事に使用せる燈名。
 りんどく【痲毒】痲病と稱する病氣の毒にして非常に恐ろしきものなりと。
 りんぼう【鄰保】近所となりの、人のこと。
 りんぼう【鄰邦】自國となれる國々のこと。
 りんばえき【淋巴液】人體の血液外に有る透明液にて毛細管によりて滲出せる血液の殘餘とも見るべく、淋巴管によりて循環す。
 りんばん【輪番】順々に其番の用をなすこと。
 りんびやう【痲病】一種の傳染病にして(コノコツケン)と稱する病菌なり。
 りんべん【鱗片】こけらの一片を指して言ふこと。
 りんぼう【輪鋒】佛事に使用する道具。
 りんほん【鄰本】御手本のこと。
 りりり【Lily】百合のこと。
 りんり【鄰里】となりの土地。

りんり【倫理】人の行ふべき道に付きて研究するもの。

りんり【淋漓】血液の多く出づる有様のこと、(鮮血淋漓)

りんたつ【林立】突出したるかたち、多く出てたる有様のこと。

りんりん【鞞々】車のきしる有様のこと。

りんれつ【凜烈】寒さ身にしみてさす様に覺ゆること。

リトマス【Litmus】薬の名、アルカリ、酸、各々雨性を知り得る薬なるが故にリトマス紙として、試験するに用ゆらる

る

る【流】昔時の刑罰の種類にて死に次げる重罪なり(るさい)

る【縷】いとのこと、つながること。

ループル【留】(Ruble)露國の貨幣我一圓餘に當る。

ルテニウム【Rutenium】脆き金屬普通にはなしるにん【流人】島流しにされたる人のこと。

るまた【爰】一見ルマタの合字の如ければ如か言ふ漢字の略言。

るろう【流浪】流れ／＼て居所にさへまよふと

るり【瑠璃】色の名、紺と紫との合色空の色など形容するに使用すること多し。

る【縷々】仔細に渡りてとくこと。

る【壘】本城のたてになるものとりでのこと。

る【類】それ／＼の種類なかまのこと。

る【累】重なりてうづ高くなること、ゆかりあること。

るゐん【類縁】身うちのもの、しんるゐうちのこと。

るゐか【類歌】同じ種類のうた同じ意味のうた

るゐか【累加】後から／＼と加はること、ふやすこと。

るゐがん【涙眼】うるほひなる眼なみだぐみたる眼のこと。

ルビー【Ruby】紅色寶石にして質佳良なるものは大に珍重せらる。

ルナパーク【Luna-park】樂園といふこと。

るげい【流刑】島流しにさるゝ刑罰流罪のこと

るげん【流言】はやり言葉うはさ。

るげん【縷言】精しく話しをすること。

るざい【流罪】刑罪にて近流中流遠流の三ありて罪の程度によりて遠近に流すを例とす。

るじん【倂人】脊部の曲れる人、せむしなる人のこと。

るす【留守】不在のこと、留主事、人の不在の時になすこと。

ルソン【呂宋】ルソン國より來れる陶器を指して言ふ。

るつら【流通】よく通ずることといこほらざるること。

るてん【流轉】りうてんのこと、佛家のことば因果のまはり／＼に來ることばを意味す。

るつぼ【坩堝】金屬を溶かし煮るに用ふるつぼの名非常に丈夫なるもの。

るゐき【類規】同じ様なる規則、種類の同じ事項。

るゐきふ【累及】かゝはり合ひになること、關係の及ぶこと。

るゐくわ【類化】同種類のものとなすこと。

るゐくわ【類火】出火の際に同じく火災にかゝること、共やけになること。

るゐけい【累計】全體の合計のこと。

るゐげつ【累月】永引く事と、月の加はること。

るゐご【類語】同じ様なる言葉同種類の言。

るゐぎ【累坐】關係の離れぬこと。

るゐざい【累岩】きづきあがりたるとりでのこと年を取ること。

るゐさん【累算】全部あはせての計算をいふ。

るゐさん【類纂】同種のものを集めてあみ作り上げること。

るゐじ【類似】非常によく似たること類似症或る病氣によく似たること。

るゐじ【累次】次ぎへ／＼とだん／＼加はりふえること。

るるじ【類字】よく似よりたる文字のこと。
 るるしう【累囚】囚人同志のこと。
 るるしう【類集】同部類に属するもの丈けを集めること。
 るるしぞく【累氏族】親類同志のこと。
 るるしやう【類症】或る病氣に似て居ること。
 るるじやく【羸弱】ことのほかよわきからだのどるるじやう【累乘】多くの同敷を掛け合はするとるるしん【累進】漸々進み昇ること位役など。
 るるせり【類焼】火元には非ざれども焼失すること。
 るるせき【累積】高く積み重なること。
 るるせん【累選】位置のどしんどしんと進み行くこと。
 るるそり【羸瘦】やせてよわるること。
 るるだい【類題】同種類の題、又は題によりて種々集めたること。
 るるぬい【累代】先祖から代々との意。
 るるぬん【累年】年々年をかされること。
 るるはい【累拜】上位を拜すること一心に位置を望むこと。

ル

るるはい【羸憊】非常に勞かり困しむこと。
 るるひ【類比】同じに近きものを比べ合はすとるるひやう【類病】同種類の病氣。
 るるぶん【誅文】靈前にて讀む文のこと生前の功績善事など。
 るるへい【羸兵】やせよわりたる兵士勢のなき兵士のこと。
 るるべつ【類別】部わけをすること其の種類によりて別々になすこと。
 るるるる【累々】心配せる様子憂心の有様。
 るるるる【累々】物の積み重なりたる有様のこと。
 るるれき【療歷】頭線に腐の出づる病氣病質の者に多く出づ。
 ルビー【Rupee】英領印度の貨幣の名なり我國の六拾錢に當る。

れい【令】上位より下位に示めすこと命令すること。いひつけのこと。
 れい【零】無きこと、数字の上にては(〇)を以て記す。
 れい【例】同じきり方、常のしきたり。ためしのこと。
 れい【靈】たましい、みたま、神の心、うるはしき心など。
 れい【録】實用ならぬ書體録書のこと、下男。
 れい【鈴】なりもの、すい。
 れい【禮】敬意を表する方法有様のこと。贈答物のこと。
 レザー【Leather】製皮のこと近來模造したる皮の鼻尾などをレザーと言ふこと流行す。
 レコード【Record】記録のこと、近來流行せるレコードとは普通以上なること、ぬけ出でたることに用ゐらる。
 レース【Race】競争のこと、ポートルースなど
 レース【Lace】網織物のこと、まどかけ、かざ

れいあい【令愛】他家の女子の敬稱なり。
 れいえん【麗艶】うつくしくつや／＼したる有様のこと。
 れいかり【厲行】命じておごそかに行はすること自らなさんと考へてはけみおこなふこと。
 れいがく【伶樂】神前になす音樂、みやびなる伶人のなす樂。
 れいかん【冷汗】心におそれたるときのあせ、ひやあせ。
 れいかん【靈感】神や佛の奇なる感じ。
 れいかん【冷寒】寒さのはげしきこと。
 れいさき【例規】前からの規則しきたり。
 れいさき【冷氣】寒にしみる氣候のこと。
 れいさう【靈柩】なきがらの入れられたる柩のこと。
 れいさやう【靈境】俗をはなれたる清き土地のこと。
 れいさん【厲禁】ひどくさしとめらるゝこと。
 れいぐう【禮遇】敬ひてもてなすこと。
 れいぐりていし【禮遇停止】上位の人が普通の對

遇にさるゝこと。

れいくわい【戻乖】道にしたがはざること。

れいけい【令閨】人の妻を敬ひて言ふこと。

れいけつどうぶつ【冷血動物】爬虫類の如く體温の冷なるものゝこと。

れいげん【黎元】人民の別語。

れいこく【例刻】常にきまれる時刻のこと。

れいこく【冷酷】人情のうすきこと愛情の少なきこと。

れいさい【零碎】ごくわづかのこと、少なる断片のこと。

れいさい【例祭】年々定まれるまつりのこと。年々なすべき祭。

れいざう【窺像】佛像のこと。

れいざう【冷蔵庫】氷ぐらのこと大小種々あれども物品の腐敗を止むる倉庫のこと。

れいし【令姉】他人の姉の敬稱。

れいじ【零時】正十二時のこと。

れいし【齡齒】年齢のこと年数のこと。

れいしき【禮式】禮法、作法のこと。

れいしつ【麗質】生れつき美しきみめかたち。

れいしつ【令室】尊き家の主婦のこと。

れいじやう【禮讓】へりくだること禮を守ること

れいじやう【令狀】命令されたる書付裁判所よりまはされたる差紙のこと。

れいしよ【隸書】篆書の化したるもの支那にて行はれし書體。

れいしよく【黝色】一生懸命なる様子又はその顔色のこと。

れいしよく【令色】つくりたる笑ひ方へつらひの様子。

れいじん【伶人】神前にて舞樂をなす人。

れいすゐ【冷水】普通の温度の水おひや。

れいすゐよく【冷水浴】ひや水をあびて皮膚をきたへること。

れいすゐまさつ【冷水摩擦】ひやみづにて洗ひたる手拭を以てこすること多く早朝なすを効力ありとす。

れいせい【令婿】他家のむこを敬ひて言ふこと。

れいせう【冷笑】あざわらひ、さげすみて笑ふと

れいぜん【靈前】神前、佛前、あらたかなる處。

れいぜん【冷然】薄情なる有様のこと、ひやゝかなること。

れいそん【令孫】他家の孫に當る人を敬ひて言ふこと。

れいたい【冷帶】三帯中の寒帯のこと。

れいたう【令堂】他人の家のこと。

れいたん【冷淡】人情にうすき有様温情ならぬ様子。

れいてい【零丁】身分の下だり坂なることおちぶれて見苦しくれなること。

レイランヤウ【Levden-jar】蓄電瓶のこと。

れいど【零度】寒暖計の度を計る基の度、及び經緯度を計る度。

れいとく【令徳】善良なる行爲のこと。

れいば【冷罵】あざげることあざけりのゝしること。

れいばう【禮帽】禮服に附屬したる帽子のこと。

れいはう【禮砲】禮をなす代りに行ふ砲敬意を表する爲めに發する大砲のこと。

れいはう【禮法】作法のこと。

れいひやう【冷評】ひやゝかなる言葉にて評すること。

れいふ【靈府】神社等のたふとき御ふだのこと

れいふく【禮服】禮式の時に着用する服のこと。

れいへい【禮聘】禮儀を以てよぶこと。

れいまるり【禮參】御禮の爲めに神佛に詣でること。

れいめう【靈妙】人事に非ざるふしぎのこと。ふしぎなるわざ。

れいもつ【禮物】禮を盡す爲めの物品又は返禮をなす爲めの品物。

れいらく【零落】見苦しくなることおちぶれたること。

れいり【伶俐】ちえのあることかしこきこと。

れいれいと【麗々】げばくしきこと目立つさまのこと。

れいろう【玲瓏】ひかりかやくこと。

れう【料】代金、物品、手あて、又は材料のこと。

れう【僚】なかま同志、役人。

れうくわ【燦火】夜たく火のこと、かゞり火。
れうけん【了簡】心ばえ、思わく、かんがへ。
れうし【料紙】書くべき紙必要な紙のこと。
れうしやう【了承】よく承知すること、のみこむこと。

れうぜん【瞭然】はつきりしたる有様少しもまよはぬ様なること。
れうぞく【僚屬】自分の下役のもの、こと。
れうぢ【療治】病氣に手を盡して直すこと。
れうはう【療法】療治のしかた。
れうらん【撩亂】あちらこちらみだれてあること、色々の方法にて食品を煮焼すること。

れうれり【寥々】さびしき有様しづかなる有様。
れうそん【遼遠】ながきことはるかに望めるが如くにて遠きこと。
れきゆう【歴遊】所々を見ながら旅行すること。
れきくわい【礫塊】小さいとつちくれとのこと。
れきし【轍死】汽車電車などにひかれて死すること。

れきじつ【曆日】こよみの上にのせある日。
れきせい【瀝青】ちやんと言ふ黒色の光澤ある礦物なり石炭の一種に瀝青炭と言ふあり。
れきせい【歴世】世々代々つゞき來れること。
れきはかせ【曆博士】曆法に明るき人古へ陰陽寮と言ひて曆一切の事を司りし所の人
れきれき【歴々】立派なる家格式ある家。
レグミン【Regumine】蛋白質のこと豆腐は大豆のレグミンをニガリにて固めたるものなり。

れつ【劣】他におとることつたなきこと。
れつ【列】つらなることならぶのぞむ。
れつ【烈】つよき意、はげしきこと、やりとほす。
れつかい【裂開】さけてひらくこと、れること。
れつかん【烈寒】極寒の候のこと。
れつきやう【列強】勢力ある多くの外國を指して言ふ。

れつくわ【烈火】もゆる火の勢はげしきこと。

れつこく【列國】多くの外國のこと列國會議多くの國々の代表者が國際事件を議すること。

れつさい【劣才】才能のなきこと、無智なること働きの少なき事。

れつじやう【劣情】いやしむべき情慾のこと。

れつしん【烈震】非常に強き地震人畜に害をなす程の地震。

れつせき【列席】其場所にのぞむこと。

れつそ【烈祖】代々の中にて大事をなしたる人のこと。

れつたう【列島】ならびつゞける細長き島のことつゞく島のこと。

れつてん【列傳】あらはれたる人々の傳を記したるもの。

れつとう【劣等】中にて一ばん悪き部類のこと。

れつびん【列品】ならべられたる種々の品物。

レモン【檸檬】(Lemon)蜜柑の如き植物にして果實より製したるレモン水は飲用に供せられ芳香あり。

れんか【廉價】普通の價よりやすきこと。

れんか【連歌】一首の歌を二人にてよみ次ぐとれんか【葦下】天皇の治めらるゝ土地又は御ひさもとといふこと。

れんがふ【聯合】多くのものゝ組合ふこと。

れんがふかんたい【聯合艦隊】二個以上の艦隊にて成立せるもの。

れんくわん【連環】金ぐさりのこと(連環馬)

れんげ【蓮華】はすのはなのこと。(蓮華座)佛像の座せるもの。

れんげそり【蓮華草】荳科に屬する草にて肥料となる。

れんげつ【連月】毎月とつゞくこと。

れんけつ【廉潔】さぎよきこと。

れんさ【連鎖】つながるくさりのこと。

れんざ【連座】佛像の如き座り方のこと。

れんさう【聯想】一事項より他の事項がつゞいて考へられること。

れんさつ【憐殺】非常に同情すること。
れんさつ【憐察】同情しあはれに思ふこと。

ろりえい【漏洩】かくし居たることのもれたること。又は少しの間よりもるゝこと。
 ろうこう【陋巷】うすくらき道狭苦しき場所。
 ろうきよ【蕭居】室内にとぢこもること。
 ろりぐ【弄具】玩具のこと。
 ろりく【儂尙】せむしのこと。
 ろろくわ【弄花】花かるたをなすこと。
 ろろくわい【漏潰】中ごろに穴あきて其爲めにぐれ落つること。
 ろうげつ【朧月】中ばくもれる月おぼろの月のこと。
 ろうげん【弄言】多言なること。
 ろうげん【陋言】取るに足らぬ言葉いやしき言葉
 ろりこく【鑿刻】金銀など美しくちりはめ彫刻すること。
 ろうしう【陋醜】みにくくいやしきこと。
 ろうしつ【陋室】せまくるしく暗き部屋。
 ろうしふ【陋習】悪しき習いやしきならはし。
 ろうじやう【籠城】城中にのみ居ること。
 ろうじやう【樓上】階上のこと高き室のこと。

ろうしゆつ【漏出】わづかの潤所より少しづゝ出づること。
 ロース【Roast】紅色なるよき肉のこと。
 ローズ【Rose】薔薇のこと香気高く種類多し。
 ローマンチック【Romantic】思想上の言語にて珍らしき題のものにて構成せり。
 ロールキャベツ【Roll-cabbage】西洋料理の一種キャベツの一片にて肉類を巻きたるのなり。
 ロンテニス【Lawn-tennis】普通に只テニスと言へり、庭球のこと。
 ろえい【露營】夜天幕を張りて軍隊が野宿すること。
 ろか【櫓歌】舟をこぎながら唱ふる歌、ふなうた。
 ろぎん【路銀】旅行の費用のこと。
 ろく【祿】今日の俸給、役をなすが爲めに給せらるゝ高のこと。
 ろくあみだ【六阿彌陀】六個所のあみだのこと。
 ろくかせん【六歌仙】昔歌道の妙を得たる人を六人上げたり即ち小野の小町、文屋康

秀、大半黒主、喜選法師、僧正遍昭、在原業平の六人を言ふ。

ろくくわ【漉過】汚物を去る爲めに種々の方法を以てこし通すこと。
 ろくこつ【肋骨】あばら骨のこと。
 ろくさう【綠草】普通の草のことみどり色の草のこと。
 ろくじ【録事】すべて記録することの役目なる人。
 ろくし【祿仕】食祿を得る爲につかへること。
 ろくしうかんげんえきへい【六週間現役兵】とは師範學校を卒業して現職に就くべき人の兵士となれるもの。
 ろくしやう【綠青】酸化銅にして青色を帯ぶ人體には害多く繪具として使用せらる。
 ろくしんとろ【六親等】親しき間より數へて六代までの間がらのこと。
 ろくぢゆり【勒住】とゞめ、おさふること。
 ろくぬすびと【祿盗人】刑段働らきもなく只高き俸給を得る人々のこと。
 ろくぶ【六部】六十六部の經を日本の六十六個

所の靈地に納めて社寺を順禮する人

ろくまく【肋膜】肋骨の内部にある膜にして肺の外を包めり。
 ろくろ【轆轤】槓杆を應用して力を多く要せぬしかけの車。
 ろくろく【碌々】ごろ／＼と何にもこれぞと言ふことをなさぬこと。
 ろくわ【露臥】野宿すること。
 ろくわ【爐火】ゐろりにてたきたる火のこと。
 ろけん【露顯】むき出しにあらはれたる有様のこと。
 ろけん【露見】かくし居たることのあらはること。又は悪事の知らるゝこと。
 ろこつ【露骨】少しも飾らぬこと丸だしのこと。
 ろこつ【顛骨】あまたの骨のこと。
 ロザニリン【Rosaniline】アニリン色素より得たるものにして同じく染料として用ゐらる。
 ろじ【路次】道のついでと言ふこと。
 ろしや【盧舍】小なる家かりの小屋。
 ろじん【路人】道を行く人關係なき人。

ろせいゆめ【盧生夢】はかなきことを言ふ。
 ろせき【鹵瘡】地質の悪しきこと作物などのよく出来ぬ土地のこと。
 ロタン【露探】日露戦争時に露國に依頼されて自國の動勢を探して報知するいやしむべき人のこと。
 ロジウム【Rhodium】質の硬き得難き金屬の名。
 ろてん【露店】屋たい又は一時出だしたる店のこと。
 ろとろ【爐頭】ゐろりのそばのこと。
 ろとろ【路頭】道路のほとり、道ばたのこと。
 ろどん【魯鈍】物にうとく／＼してにぶく物事をなすにおそきこと。
 ろなは【魯繩】ふなぞこに付けあるなはのこと。普通の馬より稍少にして性温なり。
 ろぼ【鹵簿】天皇の御幸の其行列のこと。
 ろめい【露命】明日をも知られぬ命はかなきいのち。
 ろりやく【鹵掠】とらるゝことかすめらるゝこと。
 ろれつ【呂律】物を言はんとして充分に言はれ

ぬこと。酒の爲めに舌のまわらぬこと。
 ろんい【論意】其論ずる主なる事がら。
 ろんがい【論外】ぎろんのほか。
 ろんかく【論客】議論ずきの人、論をするあい手のこと。
 ろんきう【論究】理窟を考へ又研究すること。
 ろんきよ【論據】議論の根本もとる。
 ろんご【論語】聖人のおしへの書物のこと。
 ろんし【論旨】ぎろんのむね。
 ろんせつ【論説】自分の考へを充分のべること。發表すること。
 ろんば【論破】議論を打ち消すこと言ひまかすこと。
 ろんぱく【論駁】非難すべき點を打ちて理由までも稱ふること。
 ろんべん【論辨】自分の意見をのべること。
 ろんり【論理】議論の方法すじみち、論理學(Topic)とは正しき順序を経て一つの斷定を得べき其道路を研究すること。

わ

わ【和】よく合ふこと。おだやか同一になるのどかなこと。
 わ【輪】車の兩輪一點より出でゝ圓なしたるもの。
 ワイシヤツ【White-shirt】洋服の下に着るシャツのこと。
 ワニス【Varnish】塗料なり樹脂を油にて溶かしたるもの。
 わいく【矮軀】身の丈の短かきこと。
 わいせう【矮少】丈ひく／＼して又細きこと。
 わいせつ【猥褻】みだりかましき言動。
 わいため【辨別】わけへたてちかひのこと。理由なく物品を贈ること。
 わいろ【賂賄】理由なく物品を贈ること。大威張にて歩くこと、勝手に歩くこと。

わうかくまく【横膈膜】胸腹部の境をなせる膜の名。
 わうぎ【横議】勝手なる意見を出だすこと。
 わうぎやく【横逆】れぢけたる行ない、よこしまなるやり方。
 わうくつ【枉屈】まげらるゝこと、おさへらるゝこと。
 わうぐわ【横臥】よこになること、やすむこと。
 わうくわん【往還】往來の道路を往きもどりすること。
 わうげき【横撃】不意に横合より切りこむこと、打ちこむこと。
 わうげづく【王氣附】いかにも貴く見ゆる様になりさる様。
 わうげふ【王業】王位の權力にてなさるゝ事業又は國を治め給ふ事業。
 わうごう【王公】貴き人々の稱なり。
 わうごん【黄金】金のことまじりけなき金。
 わうごんじだい【黄金時代】自由に事の足りる世の中少しもかけたる所なき様に見ゆる時代のこと。
 わうぎい【王罪】罪なくして罰せられしこと。

わうし【横死】ものすごき死様、つまらなく死ぬこと、あえなく死すること。

わうじ【往時】昔々の時分と言ふこと。

わうじ【横恣】我儘なること。

わうじ【往事】前に過ぎ去りたることから。

わうじや【横斜】はすなゝめなること。

わうじやう【王城】皇城のこと宮城のこと。

わうじやく【厄弱】かゝわきこと。

わうせい【旺盛】まことに盛なる様子。

わうせい【王政】天皇の取り給ふ政。

わうせき【往昔】むかしの事を後より言ふ言葉。

わうどう【黄道】自分に最もよき程合のこと。

わうだつ【横奪】よこあひよりうばうこと。むだんによこどりすること。

わうだん【横疸】身體の全部黄色となら病氣胃病の汎みするもの。

わうちやく【横着】承知しながらよからぬことを行なふこと。

わうてき【横笛】よこぶえのこと。

わうどう【黄銅】眞鍮のこと。

わうへい【横柄】たかぶりたる有線あさはかなる行爲。

わうへん【往返】ゆきとかへりのこと。

わうもんざん【横紋筋】多く集まりて色々の方向に附く所の細き筋。

わうりやう【横領】よこあひよりとること。

わうく【往々】時々其折々。

わかいらしゆう【若衆】若い連中のことなかまの人たちのこと。

わかざき【若氣】若き人の行ひ淺はか思慮の足らざること。

わかざんだち【若公達】貴き家の若き人のこと。

わががく【和學】我日本の學、國學のこと。

わかさぬり【若狭塗】若狭の國より産する漆器、細き模様を塗り出だせるもの。

わかさざき【若鶯】長さ一二寸許りなる小魚佃煮の原料に適す。

わかしらが【若白髪】若き時に生じたる白髪のこと。

わがたう【我黨】自分の黨類中または同志意見の合ひたる黨派の人々。

わかどしより【若年寄】徳川時代に政を執れる職

わがともがら【我輩】自分たち同じ中間同志。

わかなへ【若苗】青々したる少きなへのこと、(若苗色)青色の濃きもの。

わかまつ【若松】少き松のこと正月に活花として多く用ふるもの姫松とも言ふ

わかみづ【若水】元且に早く汲みたる始めの水のこと。

わかむしや【若武者】年若なる武士のこと。

わかめ【若芽】生り出でし許りなる少き芽のこと。

わかめ【若布】海藻の一種にして昆布に似たるもの食用とす。

わかあけ【腋明】袖付の下を明けること。

わきざし【脇差】昔武士の腰に差し込んだる刀のこと。

わきし【脇師】狂言をなすとき脇の役の務むるもの。

わきづけ【脇附】尊き人に書状を送る場合に其かたはらなる人に出して意を言上する方法。

わきまへ【辨】物を承知せしむること知識のあること、見わけのつくこと。

わきみち【脇路】目的の道より他の方に入ること

わきめ【脇目】正しき方を見ぬことよそみをすること熱心ならぬこと。

わぎり【輪切】まきものを其儘切ること芋大根の如きもの。

わきん【和金】細長き丈夫なる金魚のこと。

わくてき【惑溺】しみこむことまよひて正道にかへり難きこと。

わくらはに【邂逅】久しくあはざること、まれに來る訪ふこと。

わくらん【惑亂】一定せぬこと、種々まよひましまらぬこと。

わけ【譯】物の理由、文書などのときあかし。

わけあい【譯合】物のすぢみちこまかなる理由のこと。

わけどり【分取】一人々々分配して取ること。

わけまへ【分前】わけて取りたる各自の所得分のこと。

わけめ【分目】とゞのつまりのこと、いよく所分のつくこと。
 わげもの【縮物】木を曲げてわく形に作りたる入れもの。
 わころ【和冠】昔明の時代に我人民の彼の沿岸を荒したる者ありしを名づけたること。
 わこんかんさい【田魂漢才】在來あるところの精神及び支那より入り來れる「學問」
 わざりた【謠歌】時勢をうたひたる俗歌のこと。
 わさなへ【早苗】さなへのこと。
 わさび【山葵】根葉莖共に香氣と辛味とを有し花は白色十字科植物に屬す。
 わざもの【業物】刀の中にて名高き人の作り上げたるもの切れあぢのこと刀のよくやくしやのこと舊新種々の脚本をなしこなす人。
 わざわぎ【俳優】日本國にて産出せしもの。
 わさん【和産】佛家のなすこと經文の如きものを節附けにして打ちよりて稱ふこと
 わさん【和算】珠算のこと。

わ し【鷺】鳥類中最も勇猛なるもの。
 わじまぬり【輪島塗】能登より産する丈夫なる漆器。
 わじゆく【和熟】心のとけ合ふこと、むつまじきこと。
 わしん【和親】國と國との交際のよく行ける有様。
 わすれがたみ【忘記念】父の死後母と共に生存せる子供のこと。
 わすれしも【忘霜】八十八夜時分に降りたる霜のこと。
 わせ【早稻】稻の中にて最も早く種子を蒔き早く收穫するもの。
 わせい【和製】日本にて作りたるものすべて
 わた【綿】植物より製したるもの。
 わた【腸】動物のはらわたを言ふ。
 わたかまり【邪曲】悪しき思ひ、取りさらんと欲して取りかたき邪念。
 わだかまる【蟠】幾重にもまとひつくこと。
 わたくし【私】自分の一個のこと、公けならぬこと自分の利益を見ること。

わたげ【綿毛】出生したる時に生じありし頭髮のこと。
 わたし【渡】一定の場所を舟にて渡すこと、是非通る所を客待ちして渡すこと。
 わたしもり【渡守】橋番をする人。
 わたせ【渡瀬】川の中にて渡るに最も便なる個所のこと。
 わだち【轍】車の通りたるあと、又車の往來すること。
 わたつみ【渡海】ひろくとしたる海のこと。
 わたばうし【綿帽子】眞綿にて作られた帽子のこと、新婦の式場にてかぶるを例とす
 わたり【渡】航路を經て來たれるもの、わたしば。
 わたりどり【渡鳥】海を越えて來れる鳥。
 わづか【纜】極く少なきこといさゝかのことやつとのこと。
 わつらはし【煩】うるさきこと、めんどうなること、心よからぬ思ひ。
 わとう【話頭】話のなしはじめのこと。
 わどめ【輪留】坂道を行くとき急に車の下らざ

わな【絹】計りておとしめること又繩にて輪の様に縛すること。
 わななく【戦慄】おそれふるへる様子。
 わびごと【訛言】あやまり口上のこと。
 わびずまひ【佗住】さしやかなるかりすまいのこと。
 わぼく【和睦】なかなほりをする事、意志のとけあふこと。
 わみやり【和名】外國より來れるもの又は始めは外國物なれども日本にて作れるものに日本語の名を附したること。
 わやうせつちゆう【和洋折衷】在來の風に西洋風を交へたること。
 わやく【和譯】外國文を日本文に直すこと。
 わらうち【藁打】藁を打ちて柔かにすること。
 わらかこひ【藁圍】冬期霜雪に當らぬ爲めに藁に防ぐこと。
 わらかみ【藁紙】西洋紙の粗悪物のこと。
 わらぐつ【藁沓】寒國にてはく沓のと雪水に堪ふる様藁を編みて作りたる深きはき物

わらはところ【童心】無邪氣なること淺はかなること。

わらばい【藁灰】藁を燃して残りたる灰のこと、肥料となす。

わらひぐさ【笑種】面白う話題笑ふべき事柄。

わらぶき【藁葺】屋根の外面を藁にて厚く作り上げたるもの、農家に多し。

わらぶとん【藁蒲團】綿の代りに柔らかき藁を入れて作りたるもの。

わらむしろ【藁筵】藁を編みて作り上げたるむしろござのこと。

わらんじ【草鞋】わらんじのこと同じく藁にて作りたるはきもの。

わりいん【割印】帳面などを照らし合はするときに二個に掛けて印を押しすること、半分づくに押しすること。

わりこ【破子】辨當箱の別名。

わりこむ【割込】人と人との間を押しわけて入りこむこと。

わりばし【割箸】使用するときに割りてつかふもの。

わりはん【割判】わりいんのこと。

わりふだ【割札】割引してある札のこと。

わるがしとし【悪賢】悪しき方面に就いて知恵のわるること。

わるずれ【悪擦】社交になれて且つ悪しき性行となれるもの。

わるびる【臆】心さま狭くして見苦しき様子したること。

われもかう【破帽額】秋の七草の一種の如き形をなせる集花にて葉は藤の形に似たり觀賞。

わんかく【灣角】海などのまはりかど。

わんきやく【彎曲】まがりくねること。

わんげつ【彎月】みかづきのこと。

わんこつ【腕骨】うでのほね。

わんしや【腕車】人力車のこと。

わんぼく【腕白】頑童。あはれもの。

わんもり【腕盛】日本料理の一種、茶碗盛の略。

わんりよく【腕力】議論丈けにては足らず腕づくにてなす場合の如き。

あ

あ【猪】野猪のこと。

あ【井】井戸のこと。

あ【藺】濕地を以て當とする植物にして其莖を以て疊表を製す。

あ【威】いかめしき有様、他に比べて勢力あるさま。

あ【亥】昔の時の名夜の十時頃を亥の刻と言ひたり。

あ【蟬】はりねづみのこと。

あ【畏愛】敬ひてしたふこと。

あ【慰安】心を樂しませることなぐさめて安心すること。

あ【遺愛】今は亡き人の愛せる遺物のこと一種の劍道にして普通の武器を持たずに氣合にてなす武術。

あ【尉官】少尉、中尉、大尉までを言ふ。

みくん【偉勳】非常なてがらといさを。
 みけいざい【違警罪】罪の中にて最も軽き性質のもの。
 みけい【畏敬】うやまひおそれること。
 みげふ【遺業】生前仕掛けて残りたる仕事。
 みげふ【偉業】すぐれて大なる仕事。
 みげん【遺言】死ぬ際に言ひ置きたる言葉。
 みけん【違憲】國の憲法に從はぬ行為のこと。
 みこつ【遺骨】死人の骨。
 みごばん【圍碁盤】碁をなす時の道具。
 みこん【遺恨】うらみに思ふこと後々までも残念と思ふこと。
 みさい【委細】こまかにくわしきこと。
 みざい【遺財】死にて残りたる財産のこと。
 みさく【違作】作物の出来の悪しきこと。
 みさん【違算】計算のまちがへること。
 みじ【遺事】生前になしたる事跡もれたる事。
 むしや【慰藉】心をなぐさむる事がら、なぐさめ同情すること。

みじやく【胃弱】胃の弱りて消化力の失せること。
 みしゆく【畏縮】おそれ敬ひて自分はずくむこと。
 みじよく【居職】自家にて營業する職人のこと。
 むしん【維新】今まで來れる政務萬事が一事に改まること。
 むしん【威信】敬服さする威嚴と信用と。
 むじん【偉人】人前すぐれたる得難き人のこと。
 むせう【遺詔】天子の御遺言のこと。
 むせん【緯線】赤道と平行したる緯度を示せる綫のこと。
 むぞく【委囑】全部まかせく依頼すること。
 むぞく【遺俗】昔よりなし來れる風俗にて今も尙一たれぬ習慣を言ふ。
 むたく【委託】あづけたのむこと。
 むたくぶつ【委託物】まをしたる物品。
 むだけ【居丈】坐りたゞ時の身の丈。
 むだてん【章駄天】キダは佛語にてよく走る佛法守護の神なりと傳へらる。
 むだてんばしり【章駄天走】非常に早く走る有様のこと。

みちやうふ【偉丈夫】すぐれてひいでたる男子のこと。
 むてん【遺傳】系統を経て來たれる特種の事項及状態。
 むてんべう【遺傳病】傳はり來たりし特別の病氣。
 むとく【遺徳】後々までものこり來れる德行。
 むなか【田舎】不便なる土地都會にならぬ土地農家多き所。
 むなかも【田舎者】不作法なる事、禮を知らざる事を悪く言ひたる語。
 むねう【圍繞】まはりから取りまくこと。
 むのふ【胃腑】おぶくろのこと。
 むはい【位牌】佛となれる人の名、戒名を記したるもの。
 むばり【遺忘】わするゝと考へつかぬこと。
 むはり【彙報】多くの事がらを集めて報知すること。
 むぼく【帷幕】陣中の別語。
 むはつ【遺髮】死亡したる人の頭髮。
 むはう【違法】法律規則にもどりたること。

みび【萎靡】勢の無くなりて力なき様なること。
 むぶ【慰撫】たすけなぐさめること。
 むふく【威服】威光におそれしたがふこと。
 むへん【違變】約束したることにそむくこと。
 むめい【遺命】死にぎはに言はれたるいひつけのこと。
 むもん【慰問】わざ／＼尋ね訪ひてなぐさむること。
 むやく【違約】約束の通りに行はざること。
 むゆ【慰諭】なぐさめて力をつけ且つ教へること。
 むらう【慰勞】其働らき、困しみ等を慰むること。
 むらう【慰勞會】慰勞をする爲めの會。
 むれい【違例】常の如くならざること病氣のこと。
 むるん【委員】責任を帯びて代理に事をなす人。
 むん【院】大きく立派なる建物のこと、昔上皇の御所を院と言ひき。
 むんじゆ【院主】寺又は病院などの主人をいふと。
 むんせき【隕石】流星の破片の冷却して降下したるものなりと。

るんでつ【隕鐵】普通の鐵の如く、鐵分の多き隕石の稱。
るんないそり【院内總理】衆議院内にて自分と同じ黨派の議員をすぶる代譯士のこと。

ゑ

【慧】智のはたらき物事をよく理解する働き。
【會】人の多くより集まりてなすこと。
【繪】種々形をかくこと。
【餌】飼養せる動物の食物のこと。
【繪合】子供の玩具の一種、繪と繪とを出し合ひて遊ぶもの。
【衛生】凡て身體に關することを注意研究して健康を計ること。
【衛生局】流行病の豫防消毒衛生會、種痘、藥品等あらゆる衛生の事

を司るところにして内務大臣のすぶるところなり。
ゑいへい【衛兵】所々を守る所の兵士。
ゑがみ【繪紙】種々の模様を畫ける紙のこと。
ゑぎぬ【繪絹】繪を畫く布、白地のうすぎぬのこと。
ゑくぼ【壓】笑ひたる時頬にくぼみたる所の出來るをいふ。
ゑぐる【抉】堀る様に切り取ること。
ゑぐる【刳】前に同じ又人の驚く様なること奇抜なることにも用ふ。
ゑごころ【繪心】繪なるものゝ趣味を有すること。
ゑごひ【餌乞】餌を欲しがること。
ゑさほり【餌堀】みづごかい等を堀ること。
ゑしき【繪師】繪かきのこと。
【會式】日蓮宗の寺にて行ふ法會十月十三日は日蓮の忌日に當れるを以てこの佛事をなすよし。
ゑた【穢多】昔の賤民にて獸の皮を取るを業となしたるものなりと。
ゑちごじし【越後獅子】越後の國より來る獅子の

舞子のこと、同國蒲原郡の神社にては獅子舞をなすより起れるなりと。
ゑちごぢぢみ【越後縮】越後上布のこと質の丈夫なること他國産のものに優る。
ゑづき【繪圖】建築物の平面圖を言ふ。
【嘔吐】飲食物をはき戻すこと。
ゑつこく【越獄】牢をぬけ出でゝにぐること。
ゑつぼ【餌壺】餌を入るゝ入れものゝこと。
【笑壺】非常に面白きこと。
【會得】了解すること。
【餌取】ゑたのこと、獸の肉皮を賣る事を業とするもの。
【繪具】彩色をなす料のこと。
【惠方詣】元旦に其年の惠方に當れる神佛へ參詣に行くこと。
【醉】酒を飲みて心神の狂ふ様なること。
【醉事】酔ひたる調子にてなすしわざ。
【繪筆】繪を畫くに用ゆる筆。
【烏帽子】昔のかぶりもの。
【繪馬】がくの如きものに繪を書きたるものを神社に奉納す。

繪馬を奉納する堂の名
【皸裂】栗及果物などの熟し上がりて自然にさけおつること。
【繪蠟燭】ろうそくに繪のあるもの。
【園】樹木鳥などのある美しきところを園と言ふ。
【冤】犯さぬ罪を受くること。身に覺えなき罪を受くること。
【園遊會】多くの人を園内にまねきて馳走すること。
【遠海】はるかに遠き海のこと。
【遠航】遠き所に赴くこと。
【婉曲】體裁よく言ふことむき出しをなさず含めてやすらかになすこと。
【圓滑】まろくおだやかに行くこと。
【援軍】たすけの兵加勢の爲めに來れる兵。
【圓形】筒形のこと。
【園藝】花木果樹野菜などを作り手入れすること。
【淵源】おほもともとのこと。

系んて【援護】たすけまもること。
 系んて【怨語】悪しく思ひて言ふ言葉。
 系んざい【怨嗟】なげきかなしみ且つうらむ心。
 系んざい【寂罪】身に覺えなき罪をきせらるゝと
 系んじう【圓周】圓の外のかはの一つの線のこと
 圓周と直徑との比は三・一四一六。
 系んし【遠視】遠き所の見ゆること。
 系んしうりう【遠州流】活花の中にて最も妙なるもの。
 系んじよ【援助】ともにたすけること。
 系んしん【圓心】圓を各點より計りたる中央の點
 系んしんりよく【遠心力】運動する物體が求心力
 にひかるゝときは物體自身の楕性に
 て反對の方向に至る此の力を遠心力
 と言ふ。
 系んせい【遠征】遠國に於て戦争をなすこと。
 系んぜん【宛然】恰もといふこと、丁度其まゝそ
 つくり。
 系んぜん【婉然】たをやかにやさしき有様。
 系んそう【淵藪】事項を集め得たること。

系んそく【遠足】身體を鍊ふる爲めに歩行を試み
 ること。
 系んたらうばしや【貝太郎馬車】がたくり馬車の
 こと粗雑なる乗合馬車のこと。
 系んてい【園丁】庭掃除手入れ等をなす男のこと
 系んどう【豌豆】果實を食用とす荳科に屬して春
 蝶形の花を開く又葉莖は肥料となる
 系んばう【怨望】したひて、うらやましく思ふと
 はるか離れたる遠き所をのぞみ
 見ること。
 系んび【猿臂】猿が手をのばして物をつかみど
 りする手つき。
 系んび【婉美】うつくしくしてやさしき姿なる
 こと。
 系んぶ【怨府】多くの人々よりうらまれること
 系んぶん【怨憤】非常に怒りて對者をうらむこと
 系んまん【圓滿】感情と意志とがよく調和せると
 系んま【繪馬】えまに同じ。
 系んりよ【遠慮】他の事まで考へて控え目にする
 他人よりへりくだること。

を

系んりやく【遠路】おほいなるかんがへふかきは
 かりごと。
 系んるる【遠類】親類の縁遠きもの。
 動物の末端に附けるもの又は山
 の裾のこと。
 【麻】あさ、からむし等の植物より取
 りたる繊維。
 【峰】高き山の突き出でたるところ。
 【小】わづかなること、ちいさきこと
 【感】かんたんしたること。
 【汚埃】よごれものごみきたなきもの。
 【女】をんなのこと。
 【夫】をつとのこと。
 【嗚咽】かなしみのあまりむせびてなく
 こと。

をかふ【汚行】正しからざる行ひのこと。
 をかさはらりう【小笠原流】禮方の名、すり足に
 て歩む。
 をかす【犯】罪をなすこと。
 をかた【陸田】普通の畑のこと。
 をがは【小川】ちいさき流れなる川。
 をがハラ【牡瓦】小形の細長きかはら、屋根の角
 をなせる所に使用しある瓦のと
 細にて生じたる米のこと。
 をかほ【陸稻】畑にて生じたる米のこと。
 をかみ【傍見】關係者にてはなく、はたから見
 ること。
 をがむ【拜】手を合はせて祈る有様。
 をかめはちもく【傍見八目】其出る所は碁打ちを
 はたから見れば其當人より八目も
 上に見ゆると言ふ此れと同じく凡て
 の事は他より見れば何事も明らかに
 別附くものなること。
 をかもち【岡持】平たき手桶の如きものにてふた
 あり食品等を持ち運ぶに適す。
 をかゆ【岡湯】錢湯にて入るべき湯の他に使ふ
 清き湯。

をかん【惡寒】寒さの身にしみて寒けのするを
 をさむし【尺蠖】しやくとり蟲のこと。
 をぐさ【小草】こまかなるくさのこと。
 をぐな【童男】男の子のこと。
 をくろう【屋漏】すきまの出来たること。家破れ
 て雨もりのすること。
 をくわい【汚穢】けがれたるものよこれもの。
 をげがは【桶側】桶のまわりとなる板のこと。
 をこ【痴】おろかなること、智恵のなきと
 をさ【長】人の長位に立つこと一部分の中
 にてひいてたるもの。
 をささ【小笹】普通のさゝのこと。
 をさなし【幼】ちいさきことちえなし。
 をさなな【幼名】年少なるときの名。
 をさまり【收】みいりのこと。
 をさまり【納】物事のおちつくこと
 をさまり【治】おだやかになること。
 をさむし【箴蟲】やすでの蟲のこと。
 をし【惜】勿體なきこと。

をじら【汚臭】けがれて悪臭を放つ。
 をしがは【革】なめしたる革のこと。
 をしげ【惜氣】をしそな様子のこと。
 をしどり【鴛鴦】水中に棲む鳥にして常に二鳥づ
 ゝ水遊す。
 をしへ【教】知識を傳ふること。
 をしべ【雄蓋】ゆうずいのこと。
 をじめ【緒締】巾着などのひもにて締むる處。
 フシヤウ【和尚】僧のこと、佛事をなす人のこと。
 をじよく【汚辱】はぢを與へられたること。
 をす【小簾】みすすだれのこと。
 をぞ【惡阻】つはりのこと。
 をだく【汚濁】よごれてにこること。
 をだけ【雄竹】ふとき竹のこと。
 をたけび【雄叫】戦ひ中などに勢ひよくさげぶこ
 と。
 をだはら【小田原】小田原提灯のこと。
 をだはらへうぢやう【小田原評定】仲々一定せぬ
 こと、議論まち／＼にて一寸に定ま
 らぬこと。

をちかた【遠方】とほきところ。
 をちど【落度】過失、あやまちぬけたるところ
 をぢやぢぢみ【小千谷縮】小千谷より産する縮、
 小千谷は越後の國魚沼郡にあり。
 をぢよく【汚濁】にこりてきたなきこと。
 をつとく【越獄】牢をぬけたこと、脱獄。
 フツチ【Watch】ウオッチ、たもと時計のこと。
 をつとせい【臘膂】寒海に産す、頭と尾とは小
 さく四肢の先端は鱗の如く水かきあ
 り、此の毛皮は柔く、肉は食用に供
 せらる。
 をつねん【越年】新年を迎へんとすること。
 をてん【汚點】しみのこと、よこれたるところ。
 をどと【小床】床の小なるもの。
 をとこ【男】わかもの、元氣ある男はたらき
 ある者、息子又はおゝし。
 をとこがた【男形】役者の男子にのみ扮する人。
 をとこあるじ【男主】をとこの主人のこと。
 をとこぎ【俠氣】義に富みたる行ひをなすこと。
 をとこざかり【男盛】男子の元氣さかんなる時。

をとこざか【男坂】社寺等の急なる方の坂を男坂
 と言ひ對して女坂と言ふ。
 をとこじよたい【男世帯】男子のみにて一家をな
 すこと。
 をとこて【男手】力のあることはか／＼しく行く
 こと。
 をとこなき【男泣】感極はまりて涙をのむこと。
 め／＼しからぬなき様のこと。
 をとこぶり【男振】男子の様子、男子の行爲のこ
 と。
 をとこまさり【男優】義俠なること意志の強くし
 て男子にもまされる様に見ゆること
 をとこまへ【男前】男子の面目のこと。
 をどし【臆】よろひをどしのこと。
 をととひ【一昨日】昨日の前日。
 をどみ【沈澱】流動體の下部に沈みたるもの。
 をとめ【少女】年少なる女子。
 をとり【囀】飼養の鳥をつかひて池の鳥をさ
 ひひ出だすもの又は事を計りてさそ
 ひだすこと。
 をどり【踊】歌樂に合はせて舞ふこと。

をなご【女子】年若き女のこと、女子供のこと、
(をんなぎ)あきはかなること、よわくしきこと、下女のこと。

をぬぢ【雄螺旋】れぢすぢの荒きものめれぢの
反對。

をののく【戦慄】おそれてふるへること。

をば【伯母】父母の姉に當れる人。

をば【叔母】父母の妹に當れる人。

をはり【終】物事のしまひ、盡きること、身
のはて。

をはる【終】つきる、しまふ。死ぬ。手のつ
け様がなくなる。

をひ【甥】兄弟姉妹の生みたる男子のこと

をぶつ【汚物】よごれたるもの。

をふね【小船】さゝやかなる船のこと。

をみなへし【女郎花】七種の一、夏より秋にかけ
咲く黄色の小さき集花のこと。

をめい【汚名】身のはぢ、悪しき行、曲れる行
爲人の笑ひをまねく。

をり【萍】底にしづみたるもの。

をり【折】料理品等を入るゝうすき箱。

をり【檻】動物狂人等を入るゝはこの如き
丈夫なるもの。

をりあひ【折合】互のあひだのこと(折合つく)

をりいつて【折入】ぜひんたのむこと願ふこと
に使ふ。

をりえり【折襟】普通の背廣の襟折れて外かには
出で、あるものたちえりならぬもの

をりかへし【折返】幾度もくりかへすこと。

をりから【折柄】丁度その時、その場合。

をりごと【折琴】二つに折れる様に作りあるもの

をりすけ【折介】下等の人、武家のつかひ人

をりてほん【折手本】折本に出来たる手本のこと

をりめ【折目】物を正しく折りたる其筋のこと

をりゑぼし【折烏帽子】烏帽子上部を折りたる
もの。

ワルフラム【Wolfram】平板状をなせる金屬の
一種普通にはなし

をろち【巨蛇】大なる蛇のこと。

ををし【雄々】男らしき、勇ましきこと。

をんが【温雅】やさしく心のひろきこと。

をんがん【温顔】圓滿なるかほかたち。

をんけい【温恵】和らぎ従ふこと。

をんげん【温言】物言ひのすなほにやさしきこと

をんけん【穩健】よく適してすらくと言ひまは
し且つ少しもぬけのなき書き方又は
 言ひ方。

をんこ【温故】えん、ゆかり、ふるきまじわり
のこととさぐる。

をんこう【温厚】すなほ、をとなしき。

をんし【遠志】草の名、ひめはぎのこと。

をんしつ【温室】あたゝかくせる室植物を作るに
温度の適する様室を作り冬期等には
 温度を加へて注意する室。

をんじやく【温石】鹽又はこんにやく等を熱して
包み人體をあたゝむるに用ゐるもの

をんしよく【愠色】怒れる顔色のこと。

をんしふ【温習】さらふ、よみならふ。

をんじゆん【温順】すなほ、やさしき。

をんする【温水】ぬるまゆ。

をんせん【温泉】山地より湧き出づる湯のこと。
火山脈近き所に多し。

をんたい【温帯】寒熱兩帶の中間なる氣候温和な
る地帯。

をんたう【穩當】おだやかにてよく道理にあては
まれること。

をんだん【温暖】温度の適當なること。

をんだんかひ【温暖飼】養蠶をなすに火力を加へ
て温度を調へること。

をんちよう【恩寵】寵遇、いつくしみ。

をんてき【怨敵】あだ、かたき、仇敵。

ランドル【温突】朝鮮にて多く行はる、床下に火
を焚きつけ暖を取らるゝ様に作りた
 るもの。

をんな【女】婦人、婦女、をなご。

をんなあるじ【女主】一家の主人が女なること。

をんながた【女形】をやま、女に扮する俳優のと

をんなかづら【女葛】をんなぐさ、川葛のこと。

をんなじよたい【女世帯】女のみにて一家をなせ
ること。

をんなべや【女部屋】女の居る部屋のこと。下女
べやのこと。

をんなまかせ — をんわ

五〇六

をんなまかせ【女任】主婦の無責任なること、女中等に任せ切りなること。
 をんなもち【女文字】假名文字のこと。
 をんなわざ【女業】女子のなす仕事やさしき仕事のこと。
 をんばり【温袍】どてらのこと、縮入のきもの。
 をんば【穩婆】うばのことめうのこと。
 をんびん【穩便】言葉づかひの習慣上より言ひやすく變化したること。
 をんりやう【溫良】すじやうよくしてやさすきこと。
 をんわ【溫和】おとなしき、ものやはらか。

國民日用辭典終

大正元年十二月三日印刷
 大正元年八月八日發行

國民日用辭典



不許複製

實價 四拾五錢

發行所

文

盛堂書店

東京市日本橋區鐵砲町三番地

電話(東京)三〇九〇番
 振替(浪花)三三二二番

編者 文盛堂編輯部

發行者 榑原友吉

東京市日本橋區鐵砲町三番地

印刷者 遠藤銓吉

東京市京橋區八丁堀仲町十番地

印刷所 六合舎

東京市京橋區八丁堀仲町十番地

文學博士
高瀬武次郎著

支那哲學史

洋一冊裝 定價金參圓 郵稅拾貳錢

鎌田稻川著

英語活用寶函

洋一冊裝 定價七拾錢 郵稅八錢

岡三慶著

袖珍文章軌範講話

正二冊 定價各五拾五錢 郵稅各四錢

市村博士 古川喜九郎 編

熟語集成 漢和大辭典

洋一冊裝 特價壹圓六拾錢 郵稅拾錢

谷村一佐著 山口酒造著

新譯英和中辭林

洋一冊裝 特價壹圓貳拾錢 郵稅拾貳錢

元木貞雄編

新式英和中辭典

學年別 洋三冊裝 定價各參拾五錢 郵稅四錢

文盛堂編輯部編

朝鮮合併 帝國分縣新圖

洋一冊裝 定價壹圓參拾錢 郵稅八錢

矢野龍溪著

訂正 經國美談

洋一冊裝 定價壹圓參拾錢 郵稅拾貳錢

野村俊太郎編

訂改 日本歷史表解

洋一冊裝 定價五拾錢 郵稅六錢

元木貞雄著

リシヨナル 第三譯讀解義

洋一冊裝 定價壹圓貳拾錢 郵稅拾貳錢

元木貞雄著

リシヨナル 第四譯讀解義

洋一冊裝 定價壹圓參拾錢 郵稅拾貳錢

元木貞雄著

リシヨナル 第五譯讀解義

洋二冊裝 定價壹圓卅錢 郵稅拾貳錢

文學博士
高瀨武次郎著

陽明學新論 =

洋一冊裝 定價壹圓參拾錢 郵稅拾貳錢

文學博士
高瀨武次郎著

訂改日本之陽明學 =

洋一冊裝 定價六拾五錢 郵稅八錢

文學博士
高瀨武次郎著

老莊哲學 =

洋一冊裝 定價壹圓貳拾錢 郵稅八錢

山內香雲編

名家手簡 =

和十冊裝 定價拾貳錢 郵稅貳錢

重野安釋撰

教育勅語衍義 =

洋一冊裝 定價參拾錢 郵稅六錢

文盛堂編輯部編

新選帝國史 =

和一冊裝 定價四拾五錢 郵稅八錢

初等教育研究會編

用教室 日本新地圖 =

軸仕立 全一軸 特價壹圓參拾錢 郵稅貳拾錢

同

用教室 世界新地圖 =

軸仕立 全一軸 特價壹圓參拾錢 郵稅貳拾錢

高橋忠次郎著

小學遊戲教科書 =

洋一冊裝 定價各七拾五錢 郵稅各八錢

高橋忠次郎著
大日本遊戲調查會編

最新舞踏全集 =

洋一冊裝 定價七拾錢 郵稅六錢

高橋忠次郎著
大日本遊戲調查會編

紳士女袖珍舞踏書 =

洋一冊裝 定價貳拾五錢 郵稅貳錢

石井倉造共著
永井習吉著

訂增式日講話資料 =

洋一冊裝 定價七拾錢 郵稅八錢

池戸天海著

三大節禮拜法

全一册裝 定價參拾錢

大久保忠並著

小學校及實業補習

實踐珠算教授參考書

全一册裝 定價六拾五錢

日下部鳴鶴書

戊申詔書扁額

簡來紙入 定價拾五錢

牧野富太郎校訂
九鬼貞之丞著

學校園之植物詳解

全一册裝 定價壹圓參拾錢

文盛堂編輯部編

國定小學新辭典

全一册裝 定價參拾參錢

文盛堂編輯部編

國民日用辭典

全一册裝 定價四拾五錢

元木貞雄著

リシヨナル 第一獨案内

全一册裝 定價貳八錢

同

リシヨナル 第二獨案内

全一册裝 定價拾五錢

同

リシヨナル 第三獨案内

全一册裝 定價參拾五錢

同

リシヨナル 第四直譯

全二册裝 定價五拾錢

同

リシヨナル 第五直譯

全四册裝 定價拾貳圓

外三宅數伴九名郎

英語研究叢書

全九册裝 定價各拾五錢

少年
圖書刊行會編

我が朝鮮 = 全洋一册 定價拾四錢

文盛堂編輯部編

立身 伊藤博文公 = 全洋一册 定價拾貳錢

同

戊申詔書畫談 = 全洋一册 定價拾貳錢

同

戊申詔書と二宮畫談 = 全洋一册 定價拾貳錢

三島文學博士序

教育勅語畫談 = 全洋一册 定價拾四錢

文盛堂編輯部編

偉人の少年時代 = 全洋一册 定價拾四錢

小
年
會
編
書

小學
兒童
手紙と日記 = 全洋一册 定價拾四錢

同

太郎の手紙 = 全洋一册 定價拾四錢

山田鶴川著

孝道夜話 = 全洋一册 定價廿六錢

文盛堂編輯部編

十二徳の御詠 = 全洋一册 定價拾四錢

同

嗚呼
忠臣
乃木將軍 = 全洋一册 定價拾四錢

同

古今
忠臣傳 = 全洋一册 定價拾四錢

故邊辰五郎遺稿
新裁縫教科書 = 和三冊 定價 稅價 八貳錢

渡邊滋 著
普通裁縫教科書 = 全和二冊 郵定價 稅價 六壹錢

吉川美佐子 共著
訂改裁縫教授法 = 全和一冊 郵定價 稅價 七拾錢

故邊辰五郎 案
渡邊式裙形 = 一箱入 郵定價 稅價 拾五錢

故邊辰五郎 著
家庭裁縫講義 = 全和二冊 郵定價 稅價 拾貳錢

女子會 編
文部省教員檢定試驗
家事裁縫手藝科問題解答集 = 全一冊 郵定價 稅價 拾五錢

山田行潦 譯
小運命テ = 全一冊 郵定價 稅價 八壹錢

金田菊三郎 著
高等女子作文の葉 = 全一冊 郵定價 稅價 四拾錢

文盛堂編輯部 編
實用新選明治書翰文 = 全一冊 郵定價 稅價 參五錢

北川博愛 著
新體書簡文 = 全一冊 郵定價 稅價 四拾錢

山內香溪 書
女子日用文 = 全一冊 郵定價 稅價 參拾錢

山內香溪 書
女子書簡文 = 全一冊 郵定價 稅價 參拾錢

巖谷一六書

三體千字文

全和裝一册定價參拾五錢

日下部鳴雄書

楷·行·草千字文

全和三裝一册定價各參拾五錢

卷菱湖書

三體千字文

全和一裝一册定價參拾五錢

卷菱潭書

三體千字文

全和一裝一册定價四拾錢

山內香溪書

合體千字文

全和一裝一册定價貳拾五錢

卷菱潭書

合體千字文

全和一裝一册定價貳拾錢

270

582



終

